

竜安寺川西遺跡

山梨リニア実験線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011. 2

山梨県教育委員会

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構



遺跡遠景（北側上空から御坂山地を望む）



1区全体写真（合成）

竜安寺川西遺跡発掘調査の概要

竜安寺川西遺跡は、山梨県笛吹市境川町前間田地内にある遺跡です。平成20年に山梨リニア実験線建設工事に伴って発掘調査が行われました。

調査の結果、縄文時代前期後半（約5,000年前）の竪穴住居跡1軒、土坑2基、縄文時代中期中葉（約4,500年前）の竪穴住居跡3軒、土坑1基、弥生時代後期（約2,000年前）の竪穴住居跡1軒などが発見されました。

縄文時代前記後半の土坑からは大型の深鉢形土器や、儀式などに使われたと考えられる有孔浅鉢形土器が出土したことから、遺体を埋葬した土坑墓であると考えられます。

縄文時代中期中葉の竪穴住居跡では、石で囲ったものや土器を使用したものなど、様々な形の炉を発見しました。また、住居の中に大きな土坑（土坑墓）があったり、大きな石の周りに土器や石器が集中して出土する状況が見られたことから、住居として使われなくなったあのくぼみを利用して、お墓を作ったり、儀式を行っていたことがわかりました。

弥生時代後期の竪穴住居跡から採取した炭で炭素14年代測定を行ったところ、紀元



弥生時代後期の住居跡からは壺形の土器が出
土しました。

後1世紀ごろのものという結果が出ました。また、土器はほとんど出土していないものの、炉のような石の囲いと焼けた床面を発見した竪穴状遺構の炭の測定では、紀元前～後1世紀ごろという結果が出ています。同じような形状の竪穴状遺構がいくつか発見されていることから、これらも弥生時代の住居跡であった可能性が考えられます。

この他に、直径

20mほどの円形の溝を発見しました。溝は一部がとぎれていますが、溝の内側と外側をつなぐ通路のようになっていました。溝の中から弥生時代の土器が出土したことから、弥生時代の円形周溝墓ではないかと推測されます。

以上のように、竜安寺川西遺跡は、縄文時代や弥生時代の集落やお墓があった遺跡であることが今回の発掘調査によってわかりました。



縄文時代中期の住居跡中央から土器を利用し
た炉が見つかりました。



溝の内側と外側をつなぐように一部（写真右
下）がとぎれています。

序 文

本書は山梨リニア実験線の建設工事に伴い平成20年度に発掘調査が行われた竜安寺川西遺跡の調査報告書です。竜安寺川西遺跡は、笛吹市境川町前間田地内に位置しており、調査の結果、縄文時代前期後半や中期中葉の竪穴住居跡や土坑、弥生時代後期の竪穴住居跡や円形周溝墓などが確認されました。

縄文時代中期中葉の竪穴住居跡は、新道式期のものが3軒確認されました。遺跡の周辺では、一の沢遺跡などで井戸戸式期の住居跡が多数確認されていますが、それよりも古い段階に当たる新道式期の住居跡はわずかに1軒だけです。この地域で縄文時代中期中葉新道式期の竪穴住居跡が確認されたことによって、遺跡の周辺における縄文時代集落の変遷過程がまた一つ明らかになりました。

弥生時代後期の遺構では、竪穴住居跡や円形周溝墓が確認されました。また、地面を浅く掘りこんだ竪穴状遺構が発見されています。竪穴住居跡に比べて竪穴が浅く、形も不整形であるものの、炉と考えられる施設が設けられているものも認められ、住居であったものが含まれていると考えられます。これらの遺構は、未だ不明な部分の多い弥生時代の住居の形態や集落構成を解明するための貴重な資料と言えるでしょう。

竜安寺川西遺跡は、既に存在が確認されていた周知の遺跡ですが、これまでに本格的な発掘調査が行われたことはなく、今回の発掘調査において遺跡の詳細な内容を確認することができました。この報告書が、遺跡周辺および本県の歴史・文化財に関する学習や研究において、多少なりとも貢献できれば幸いです。

最後に、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構をはじめ、調査にあたって御協力いただいた関係者、関係機関に厚くお礼を申し上げます。

2011年2月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 小野正文

例　　言

- 1 本書は、山梨県笛吹市境川町前間田に存在する竜安寺川西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、山梨リニア実験線建設に伴う事前調査であり、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構より山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
- 3 本書の執筆・編集は当センターの依田幸浩が行った。また、第4章をパリノ・サーヴェイ株式会社の報告書から転載した。
- 4 本書の作成にあたり、自然化学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に、石器実測図の作成・トレースおよび石器観察表作成を株式会社アルカに、測量基準点を昭和測量株式会社に、遺跡の空中写真撮影および写真測量・図化を株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 5 遺跡における遺構等の写真については、猪股一弘と依田幸浩が撮影した。遺物の写真は、依田が撮影し、実測を委託した石器については、株式会社アルカ撮影の写真を使用した。また、遺跡の空中写真は株式会社シン技術コンサル撮影の写真を使用した。
- 6 本書に係る記録図面、写真、出土遺物等は山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

凡　　例

- 1 遺構・遺物図面の縮尺は図中に示した。
- 2 住居跡や土坑などの遺構番号は、各区ごとに順次付したものである。
- 3 調査区内には世界測地系座標に基づく 5 m四方のグリッドを設定しており、全体図（第2図）における X・Y 軸延長線上の数字は座標線の数値である。よって南北のグリッド線および図中の北印は真北を指す。
- 4 遺構図版中のドットマークや出土遺物に付した番号は、遺物図版の番号に対応している。
- 5 遺構図版中の★は年代測定試料、☆は樹種同定試料の採取地点を表す。
- 6 遺構断面図の左側基点に付した数字は標高（m）を表す。
- 7 遺構図版中に用いたスクリーントーンが表す内容は以下のとおりである。
■：焼土 ■：炭化物・炭化材 ■：礫 ■：被熱した礫
■：地山・擾乱
- 8 遺物図版中に用いたスクリーントーンが表す内容は以下のとおりである。
■：赤彩 ■：みがき ■：すず ■：剥離
- 9 遺物観察表の括弧つき数値は推定値である。

目 次

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯と概要	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と課題	1
第3節 発掘調査の経過	1
第4節 室内調査等の経過	1
第5節 調査組織	2
第2章 遺跡周辺の環境と歴史	3
第3章 調査の方法と成果	
第1節 発掘調査の方法	7
第2節 基本層位	7
第3節 発見された遺構と遺物	7
遺構図版	16
遺物図版	55
土坑・ピット一覧表	78
遺物観察表	79
第4章 自然化学分析	84
第5章 総括	86
写真図版	

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

竜安寺川西遺跡は、笛吹市境川町前間田地区にある遺跡で、縄文・古墳時代の遺物散布地として周知された遺跡である。遺跡の範囲内に山梨リニア実験線の変電所建設が予定されており、変電所予定地が実験線本線のトンネル掘削残土の置き場として利用されることになったため、埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を経て、本調査が実施されることとなった。試掘調査は、本線部分を含めて平成19年7月2日から8月31日にかけて行われ、変電所予定地内においては、約40,000m³を対象に109本のトレンチを設定して調査が行われた。この結果、縄文時代の竪穴住居跡や土坑などが確認され、予定地内の約14,000m³を対象に本調査を行うこととなった。

第2節 調査の目的と課題

竜安寺川西遺跡は、周知の遺跡であり、北向きの緩斜面上の南北約650m、東西約120mの範囲にわたると推測されている。これまで、縄文・古墳時代の遺物散布地とされていたが、今回の本調査に先立つ試掘調査において、縄文時代の竪穴住居跡や土坑など遺構の存在が明らかになったことから、これらの遺構の詳細な状況を調査することが目的となった。また、本調査を行う地点は遺跡の北側にあたり、南側の高台部分に比べて傾斜がきつくなる地形となる。このため、遺跡の中心は南側にあることが推測されるが、遺構の分布状況を確認することによって、集落の規模や範囲の推測が可能になると考えられる。

第3節 発掘調査の経過

本調査に先立ち、平成20年4月16日に事業者である独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構と学術文化財課、埋蔵文化財センターの3者が、本調査における範囲の確認や調査期間および工程などについて現地協議を行った。

本調査は平成20年6月13日から開始した。まず、調査機材の搬入やプレハブ等の設置を行い、1区から重機による表土剥ぎ作業を開始した。調査区は南側と北東側に大きく分かれることから、南側を1区、北東側を2区とした。また、各区内において土地の区画ごとに石積みやコンクリート壁による段差が設けられ、コンクリートで舗装された旧農道が縱横に走っていたため、1区を1-A～F区、2区を2-A～C区に分けて調査を行った。1区の表土剥ぎ作業は1-B区から開始し、次いで1-C区、1-D区、1-A区、1-E区、1-F区の順で行った。1区の表土剥ぎ作業は、土地の傾斜や段差により難航したものの、8月1日に終了している。また、測量基準杭・ベンチマークの設置を表土剥ぎの進捗状況に合わせて各区で行い、やはり8月1日に1区への設置を終了した。この表土剥ぎ作業および基準杭・ベンチマークの設置作業に平行して、人力による遺構確認、遺構精査、遺物・遺構の測量などの作業を行い、8月26日には1-A～D区の調査を終えて、空中写真撮影をラジコンヘリコプターによって行った。これは調査範囲が広大なため、1区を2回に分けて撮影しないと空中写真を使用した図化作業ができないためである。1-E・F区の空中写真撮影は11月5日に行ったが、測量作業などの調査は11月25日まで実施した。2区の表土剥ぎ作業は2-A区～2-C区の順に10月16日から11月7日まで行い、10月27日からは人力による遺構確認作業を開始、11月19日に空中写真撮影を行い調査を終了した。なお、2区への測量基準杭・ベンチマーク設置は11月11日に終えている。各区の埋め戻し作業は、1-A～D区が9月16日から10月15日、1-E・F区が11月7日から11月26日、2区が11月27日から12月2日まで行った。12月2日までにプレハブや機材等の撤収を行い、調査を終了した。

第4節 室内調査等の経過

室内調査は、平成20年度に基礎的整理作業、平成21年度に本格的整理作業を行った。基礎的整理作業では、

遺物の洗浄・注記・接合・復元および図面整理を平成 21 年 1 月 7 日から 3 月 11 日まで行った。本格的整理作業では、遺物の実測・トレースおよび遺構のトレースを平成 22 年 1 月 12 日から 3 月 26 日まで行った。平成 22 年度には、報告書刊行に向けて、遺物・遺構・写真図版を作成し、平成 23 年 2 月 25 日に刊行となった。

また、整理作業の段階で抽出した各資料について、平成 21 年度には、自然化学分析として炭化物の炭素 14 年代測定と材同定、平成 22 年度には、石器の実測・トレース、自然化学分析として土器付着物質の X 線回析分析および赤外線分光分析、炭化材の樹種同定、土壤の微細物分析の業務委託を行った。

竜安寺川西遺跡発掘調査に係る法的手続きおよび報告事項

(平成 20 年度)

・平成 20 年 6 月 12 日 文化財保護法第 99 条第 2 項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出
文書番号／文書名：教理文第 171 号／竜安寺川西遺跡の発掘調査報告・実施について

・平成 20 年 12 月 11 日 文化財保護法第 100 条第 2 項に埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、笛吹警察署への提出を依頼

文書番号／文書名：教理文第 596 号／竜安寺川西遺跡発掘調査に伴う遺物発見通知の提出について

・平成 20 年 12 月 19 日 発掘調査結果報告を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号／文書名：教理文第 597 号／竜安寺川西遺跡発掘調査の完了について

・平成 21 年 3 月 6 日 実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号／文書名：教理文第 736 号／実績報告書の提出について

(平成 21 年度)

平成 22 年 3 月 5 日 実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号／文書名：教理文第 893 号／実績報告書の提出について

第 5 節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所 長 新津 健（平成 20 年度） 小野正文（平成 21・22 年度）

次 長 小野正文（平成 20 年度） 渡辺晶夫（平成 20・21 年度） 平賀孝雄（平成 22 年度）

調査課長 小林広和（平成 20 年度） 出月洋文（平成 21・22 年度）

調査担当者 猪股一弘（平成 20 年度） 石井 明（平成 21 年度） 依田幸浩（平成 20～22 年度）

作業員

発掘調査 新谷和美 石井弘文 石坂恵理 石原昭武 猪股順子 岡日出入 加藤光男 河住初美 河住ふざ子 河住光子 神沢正孝 河野逸廣 佐藤あけみ 田中初子 新津多恵 野呂瀬英臣 マスードナビート 望月茂 山本三重子 依田和美

基本的整理作業 石坂恵理 猪股順子 新津多恵 山本三重子

本格的整理作業 堀内律子 川住たまみ 清水真弓 斎藤律子 新津多恵 野沢喜美 依田和美 渡辺麗子

第2章 遺跡周辺の環境と歴史

竜安寺川西遺跡は、笛吹市境川町（旧東八代郡境川村）前間田地内の標高約330～370mの地点に位置する。笛吹市は、平成16年に旧東八代郡石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村、旧東山梨郡春日居町が合併して発足し、平成18年には旧東八代郡芦川村を編入している。

遺跡は、甲府盆地の南縁に発達する曾根丘陵の東端に立地している。曾根丘陵は、北側の甲府盆地と南側の御坂山地との間に広がるベンチ状の平坦な地帯で、西八代郡川三郷町（旧三珠町）から笛吹市（旧境川村）まで連なる丘陵であるが、笛吹市境川町にある標高394.9mの坊ヶ峰から以東は笛吹川に流れる幾つかの支流によって扇状地が形成され、盆地に向かって北西方向の緩斜面が連続する地形となる。遺跡の東側には遺跡名の由来となった竜安寺川が流れおり、川際は高低差が15mほどの谷になっている。竜安寺川は、旧境川村と旧八代町の境界線となっていたが、竜安寺川西遺跡のある川の西側は北向きの緩斜面であるのに対し、東側は竜安寺山の急崖となっている。また、遺跡から350mほど西側には孤川が流れおり、川の両側に小規模な扇状地を形成しているが、左岸に比べ遺跡のある右岸の方が急勾配となっている。竜安寺川西遺跡は竜安寺川の左岸（西側）に沿って南北方向に細長い範囲に位置が設定されており、南側は比較的なだらかな斜面であり、今回発掘調査が行われた北側はやや急な斜面となる。遺跡周辺には、桃畠が広がり、調査区内も以前は桃畠やブドウ畠であったが、桑も残っていたことから、かつては養蚕用の桑が植えられていたようである。

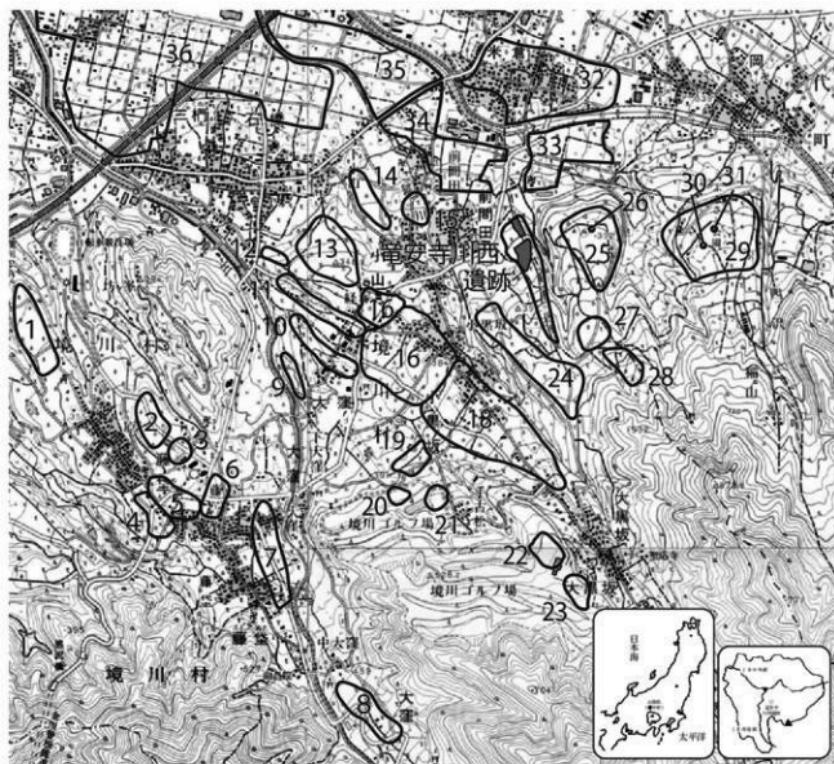
曾根丘陵上には、旧石器時代から古墳時代の遺跡が数多く存在し、笛吹市に限ってもその状況は変わらないが、さらに平安時代の遺跡が多く見られるようになる。これは奈良・平安時代において笛吹市一帯が甲斐国の中核地であったということだけでなく、坊ヶ峰以東の盆地へとつながる傾斜する地形が関係するともみられる。

竜安寺川西遺跡と同じく孤川と竜安寺川に挟まれた北向きの緩斜面上に立地する仲原遺跡（第1図24）は、孤川の右岸（東側）に沿って展開する。平成5年に当時の境川村教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文時代前期・中期（約5,000～4,500年前）の住居跡や土坑が確認されている。

孤川左岸（西側）は右岸に比べ傾斜が緩く、北西方向の緩斜面となり、比較的大規模な集落遺跡が存在している。一の沢遺跡（18）は孤川扇状地の扇頂部に位置する遺跡で、のべ10回にわたる発掘調査が行われ、縄文時代前期前半～後期前半（約5,500～3,500年前）の集落跡や埴輪を削平された古墳が確認されている。昭和58年に行われた2次調査では、山梨県内では類例の少なかった縄文時代中期の土器型式である井戸尻式期の住居跡が7軒確認され、特に4号住居跡から出土した良好な土器群は貴重な一括資料として平成11年に重要文化財に指定された。立石北遺跡（17）は一の沢遺跡と同じ孤川左岸の扇状地上に立地し、一の沢遺跡の北側に接している。昭和61年と平成6年に発掘調査が行われ、縄文時代～平安時代の住居跡などが確認されている。また立石北遺跡から北に300mほど下った地点にある西原遺跡（13）からは弥生時代後期～古墳時代前期（約1,800年前）の方形周溝墓群が確認されている。さらにリニア実験線の本線上に位置する中丸遺跡（14）と中丸東遺跡（15）は、平成20・22年に発掘調査が行われ、縄文時代前期（約5,500年前）の土坑や古墳時代前期（約1,700年前）の住居跡などが確認されている。

竜安寺川右岸の竜安寺山山には舌状台地が広がり、この地点にも多くの遺跡が存在する。上の平遺跡（25）では、縄文時代中期や弥生時代後期の住居跡、平安時代の土坑など（昭和59年調査）、大谷沢A遺跡（27）では平安時代と推定される住居跡（平成5年調査）が、旧八代町教育委員会の発掘調査によって確認されている。また、この台地上には竜塚古墳（26）と富士塚古墳が築かれている。特に5世紀前半に築かれた竜塚古墳は、この時期では東日本最大級の方墳として平成6年には山梨県指定史跡に指定されている。古墳は、竜塚古墳からさらに南東に600mほどの地点に前方後円墳の県指定史跡岡跳子塚古墳（30）が存在する他、境川や孤川、竜安寺川の流れ込む浅川流域に古墳時代後期の円墳を中心とした古墳群が確認されている。

さらに、曾根丘陵前面の甲府盆地内平坦部においても、前間田条里制遺跡や米倉条里制遺構などの条里遺構などがある存在し、散布地を含め縄文時代～平安時代にかけての遺跡の密集地となっている。

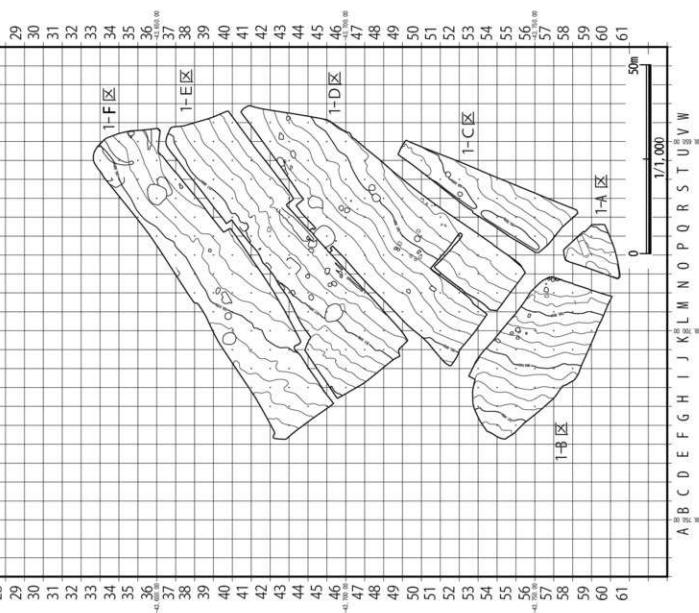
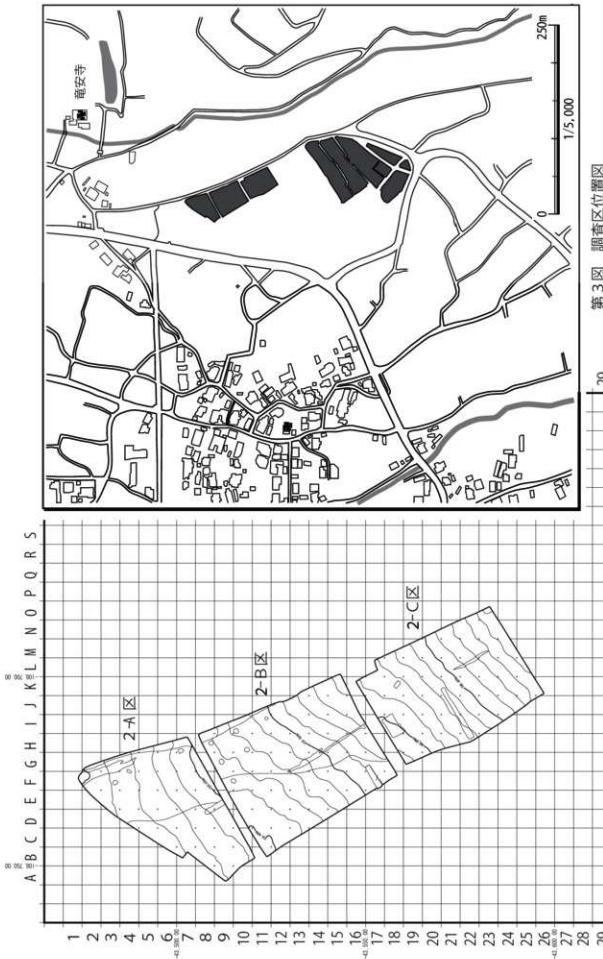


第1図 竜安寺川西遺跡と周辺の遺跡位置図 (S = 1/25,000)

1. 調訪尻遺跡（縄文～古墳；集落跡）2. 北の宮遺跡（縄文、古墳、平安；集落跡）3. 大塚古墳（古墳；古墳）4. 莢在家遺跡（縄文、古墳～平安；集落跡）5. 臨尻遺跡（古墳、近世；集落跡）6. 辻遺跡（縄文、古墳；集落跡）7. 水口遺跡（縄文、古墳；集落跡）8. 温湯遺跡（平安；集落跡）9. 鮎山古墳群（古墳；古墳）10. 金山遺跡（縄文、古墳、平安；集落跡）11. 神原遺跡（縄文；集落跡）12. 堤遺跡（古墳；古墳）13. 西原遺跡（縄文～古墳；集落跡）14. 中丸遺跡（縄文、古墳；集落跡）15. 中丸東遺跡（縄文、古墳；集落跡）16. 京原遺跡（縄文；中世；集落跡）17. 立石北遺跡（縄文～古墳、平安；集落跡）18. 一の沢遺跡（縄文、古墳、平安、中世；集落跡）19. 手古松遺跡（古墳；集落跡）20. 亀の子遺跡（縄文；集落跡）21. 机遺跡（縄文；集落跡）22. 寺平遺跡（縄文；集落跡）23. 砂原山遺跡（縄文、平安；集落跡）24. 仲原遺跡（縄文、古墳、平安、中世；集落跡・古墳）25. 上の平遺跡（縄文～平安；集落跡）26. 竜塚古墳（古墳、古墳）27. 大谷沢A遺跡（縄文、古墳、平安；集落跡）28. 真福寺遺跡（縄文；集落跡）29. 銚子原遺跡（縄文～平安；集落跡）30. 園跡子塚古墳（古墳；古墳）31. 孟塚古墳（古墳；古墳）32. 米倉B条里制遺構（奈良、平安；条里）33. 米倉C条里制遺構（奈良、平安；条里）34. 前前田条里制遺構（奈良、平安；条里）35. 米倉A条里制遺構（奈良、平安；条里）36. 石橋条里制遺構（奈良、平安；条里）

引用・参考文献

- ・境川村 1978『境川村誌』
- ・八代町 1975『八代町誌』上巻
- ・奥山和久他 1985『上の平遺跡』八代町教育委員会
- ・小林広和・里村晃一 1989『一の沢遺跡調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第42集 山梨県教育委員会
- ・長沢宏昌・中山誠二 1986『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜井場遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第16集 山梨県教育委員会
- ・野崎進 1999『一の沢遺跡（10次）』境川村埋蔵文化財調査報告書第16集 境川村教育委員会



第3章 調査の方法と成果

第1節 発掘調査の方法

1. 調査区の地形・規模

調査区は大きく2地点に分かれるため、南側を1区、北東側を2区とした。1・2区ともに段差や農道などによって区画が細かく分かれていたため、1区を1-A～F区、2区を2-A～C区に分けて調査を行った。

1区では、1-A区と1-B区が西向きの斜面となり、1-C区から1-F区にかけてほぼ北向きの緩斜面となっている。また、1-D区の南西端部には周囲をコンクリートブロックで囲われた一段高い区画が残っていた。調査対象面積は約10,000m²であるが、区画の段差や農道部分、調査区際の安全帯を除き、1区全体で約6,120m²となる。

2区は、2-C区から2-A区にかけてほぼ北向きの緩斜面である。調査対象面積は約4,000m²であるが、1区と同様に、2区全体では約3,000m²となる。

2. 調査グリッドの設定

発掘調査に伴い、調査区内に世界測地系座標に基づく5m四方のグリッドを設定した。調査区の南北方向に北からアラビア数字で1・2・3・・・、東西方向に西からアルファベットの大文字でA・B・C・・・の順で記号を付け、それぞれが交差する地点をA-1グリッド、B-1グリッドのように表す。

3. 表土層の除去

本調査に先立って行われた試掘調査によって、表層の耕作土直下が遺構確認面であることが判明したため、重機を用いて30～50cmほど堆積していた耕作土を除去した。なお、1-C区では表土除去後も耕作による搅乱が調査区全体に見られたため、さらに重機で1mほど掘り下げ、下層の遺構確認を行った。

4. 表土層除去後の調査

重機による表土層除去後は、人力で遺構確認面の精査を行い、発見された遺構については、土層観察用のベルトを設けるか、半裁をして掘削した。各遺構については、平面図・土層断面図などを作成し、出土遺物の位置を記録した。調査の進捗状況および発見された遺構や遺物の状況は、小型一眼レフカメラやデジタルカメラで撮影した。また、調査区全体図の作成には、空中写真撮影による測量・図化を行った。

第2節 基本層位

調査を行った地点は、現地表下に30～50cmほど堆積した耕作土の直下が遺構確認面である暗黄褐色シルトの地山層となり、遺物包含層は確認されなかった。1区の西側や2区では地山が暗赤褐色粘土となり、この地点では遺構の密度が薄くなる傾向が見られる。調査区一帯は傾斜地特有の段々畑になっており、農地造成などによって土地の原形がかなり変化していると考えられる。また、畑の区画ごとに上方の段差付近などは下方の地点よりも深く地山を削っている状況が見られた。

遺構の覆土は、シルトまたはやや粘土質の暗褐色土を基本としているが、地山の暗黄褐色シルトをブロック状に含む黒褐色シルトのものも見られる（豊穴状遺構や周溝など）。

1-C区（第8図）や1-D区の一部深掘り（第10図）などで地山下層の確認をした結果、現地表下1mほどの深さで暗褐色粘土層、その下で暗黄褐色粘土層が見られたが、遺構・遺物は発見されなかった。

第3節 発見された遺構と遺物

1.1-1区（第4図）

1-A区では、遺構・遺物とともに確認されなかった。東西方向に重機でトレーニングを入れ、土壤の堆積状況を確認した。

2. 1-B 区（第5～7図）

1-B 区からは、土坑8基、集石土坑1基を発見した（第6・7図）。遺物は、縄文土器（中期）の小破片が少量出土したが、遺構からは出土しなかった。検出した土坑の中には、栄養ドリンクの瓶が出土するものもあり（1号土坑）、遺物が何も出土しない土坑についても近年の耕作時に掘られたものが含まれている可能性が高い。（※各土坑の詳細については第1表に記載。）

（1）集石土坑

1号集石土坑（第7図）

位置 1-B 区の北東壁沿いの K・L-55・56 グリッドに位置する。

形状・規模 平面形はややいびつな円形、断面は渦曲する V 字形となる。長軸 1.53 m、短軸 1.43 m、深さ 0.74 m。

検出状況 平面形を検出した際には、表面が暗褐色シルト（第1層）で覆われていた。土坑の中層に 30～40cm ほどの厚さで、径約 5～20cm の礫が詰め込まれていた。凝灰岩系の礫が多く使われていた。礫には熱を受けた様子がほとんど見られなかつたが、礫層中の土坑の東壁付近に焼土がブロック状に堆積していた。礫層の下は黒褐色シルトとなり、約 30cm 四方の範囲から炭化材を検出した。炭化材の年代測定・材同定を行い、年代測定が 4,960 ± 25yrBP、材同定がクリとの結果が出ている。

時期 縄文時代前期後半か

3. 1-C 区（第8・9図）

1-C 区では、土坑2基を発見した（第9図）。遺構内だけでなく、1-C 区全体において遺物の出土は皆無に等しく、表土の耕作土中から平安時代の土師器の小破片が出土しただけである。1-C 区南東壁面で地表から深さ 1.5 m ほど掘られた穴が確認されたことから、検出された土坑も同様のものである可能性が高い。付近の桃畠を所有している方に話を聞いたところ、戦前には調査区周辺にサツマイモを貯蔵しておくための芋蔵（いもぐら）と呼ばれる穴がいくつも掘られていたとのことである。（※各土坑の詳細については第1表に記載。）

4. 1-D 区（第10～21図）

1-D 区からは、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡1軒、縄文時代前期後半の土坑2基、時期不明の土坑16基を発見した。1-D 区全体に近年の耕作による搅乱があり、遺構確認面を掘り込んでいる。時期不明の土坑の中には、耕作時に掘られたものも含まれている可能性がある。

（1）住居跡

1号住居跡（第13～15図）

位置 1-D 区北西壁に接し、1-E 区まで達する。P・Q-45・46 グリッドに位置する。

形状・規模 南東側を試掘トレーナーにより掘削され、北西側は、1-E 区一帯の造成により削平されているが、直径 5.6 m ほどの円形であると考えられる。竪穴の深さは遺構確認面から約 20cm で、壁はやや斜めに立ち上がる。

柱穴 住居内から 1～3 号土坑を検出したが、この土坑の位置がもともと柱穴のあった位置と符合するものと考えられる。土坑は南西側（1 土）・北西側（3 土）・北東側（2 土）から 1 基づつ検出した。東側と南東側からは掘り込みの浅いビットを検出したが、柱穴とするには位置的にもややバランスが悪い。1～3 号土坑の位置関係から 4～5 本柱の住居であったことが想定される。

炉 住居のほぼ中央から石圓いりを検出した。石組みは南側の一部のみが残っていた。南東側に長さ 40cm ほどの扁平な礫を配置し、南側と南西側には 25～30cm ほどの礫を配置している。石組みが消失している部分には炉の周囲の床面から検出した熱を受けた礫が使用されていたものと考えられる。焼土は石組みの残る内側に集中して見られ、石組みがない方面には掘り方の覆土中に少量の焼土粒子が見られる程度であった。炉の掘り方の中からは土器がまとめて出土している（1）。

住居内土坑 柱穴の項でも触れたが、3 基の土坑を検出した。1 号土坑は住居内南西側から検出した。平面形は

楕円形で、断面は中间に段を持つU字形である。规模は、長軸1m、短軸0.86m、深さ0.83mである。土坑底部からは、加工されていない扁平な碟と深鉢形土器の破片が出土した。2号土坑は住居内北東側から検出した。平面形は不整形で、断面は表面から中段上部が描鉢状に広がり、その下は細長いU字形である。规模は、長軸、0.89m、短軸0.63m、深さ0.78mである。土坑中段から底部にかけての断面形から柱穴であると考えられる。3号土坑は住居内北西側から検出した。平面形は不整円で、南側にかけて描鉢状に広がり、断面は北側でピット状に一段深くなる。规模は、長軸1.19m、短軸0.70m、深さ0.50mである。土坑内からは大量の土器片と3~15cmほどの碟が出土した。

遺物出土状況 床面付近から出土した遺物は住居跡の北側に多く分布し、覆土上層から出土した土器は同一個体の破片が広範囲に散っている傾向が見られる(第15図)。

時期 繩文時代中期中葉(新道式期)

(2) 土坑

1~5、9~18号土坑については第1表に記載する。

6号土坑(第18図)

位置 1号住居跡の東、1-D区北西壁沿いのR・S-45グリッドに位置する。

形状・規模 平面形・断面ともに不整形で、長軸4.2m、短軸3.3m、深さ0.84mの規模である。

検出状況 所々に耕作による搅乱があり、覆土も地山と類似しているため、本来の形状を把握するのが困難であった。土坑底部も小起伏が連続し、安定していない。風倒木痕の類ではないかと考えられる。遺物は、床面上と覆土中から縄文時代中期中葉の土器片が出土した。表面がやや磨耗していたことから土坑の周囲から流れ込んだものと考えられる。

時期 不明(縄文時代中期中葉か)

7号土坑(第18・19図)

位置 1号住居跡の南東、R-46グリッドに位置する。

形状・規模 平面形は楕円形で南東方向に少し突出する箇所がある。断面は箱形である。長軸1.12m、短軸0.86m、深さ0.38m。

検出状況 土坑を半裁掘削する時点での土坑覆土と地山の境界が不明瞭であったため、断面観察によって形状を修正した。土坑内からは深鉢形土器(1)が押しつぶされたような状態で出土した。

時期 縄文時代前期後半(諸磯c式期)

8号土坑(第19図)

位置 7号土坑の南、R-47グリッドに位置する。

形状・規模 平面形はいびつな円形、断面は箱形である。長軸1.42m、短軸1.35m、深さ0.41m。

検出状況 北西側に土坑壁面を掘り込んだような窪みが見られるが、根跡やモグラなどによる搅乱の可能性もある。遺物は土坑中央やや東寄りの地点に集中している。有孔浅鉢(2・3)の破片が出土している。

時期 縄文時代前記後半(諸磯b式期)

5. 1-E区(第22~29図)

1-E区からは、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡1軒、土坑4基、集石土坑1基、弥生時代後期の竪穴状遺構1基、時期不明の竪穴状遺構3基、土坑9基、溝状遺構1条を発見した。1-D・F区にも見られるが、1-E区では、1号竪穴状遺構、2号土坑、溝状遺構を切り取る形で幅最大3mほどの搅乱が南東から北西方向に入っている。1-D・F区では搅乱の中央ライン上に10~40cmほどの碟が一列に並んでいる部分が見られる。碟の下には20~30cmほど暗褐色土を挟み、肥料用のビニール袋が埋められていた。調査地点の元所有者に話を聞いたところ、昔(戦前か)は作物運搬用の馬を畑に乗り入れるための道として溝が掘られていたらしい。近年はその跡を埋め戻し、暗渠として利用していたようである。溝状の搅乱から北東側はいたるところに耕作による

搅乱があり、平面での遺構確認以外に小トレンチを數十本入れてみたが、遺構は確認されなかった。

(1) 住居跡

1号住居跡（第25・26図）

位置 1-E区南西側のL・M-45・46グリッドに位置する。

形状・規模 西側が土地の区画の段差によって削平され失われているが、長軸5.52m、短軸4.35mの楕円形になるとされる。竪穴の深さは遺構確認面から42cm、北側の壁は立ち上がりが不明瞭で、近年の耕作や造成によって削除されたものと思われる。南西側で重複している土坑状の掘り込みは近年の耕作による搅乱である。柱穴 南東側から検出したピットは直径約40cm、深さ35cmほどで覆土中から深鉢形土器の底部(12)が出土した。北西側のピットは直径約50~65cm、深さ約30cmである。北東側と南西側のピットは深さが10cm未満と浅く、柱穴としては貧弱であるが、以上の4基のピットを柱穴とする4本柱の住居であったと想定される。

炉 住居跡中央から北西側のピットに寄った地点で焼土化した床面を検出した。焼土周辺を精査したが、礫を配置していたような明確な跡（掘り方）などは見られなかった。ただし、住居跡の南側を中心に床面や住居跡覆土中に熱を受けた10~30cmほどの礫が散らばっていたことから、これらの礫を用いた石囲い炉であった可能性も考えられる。

遺物出土状況 床面上から出土した遺物は少なく、大半が覆土中からの出土である（第26図）。南側の床面から5~10cmほど上の覆土中で長さ68センチ、幅15~24cm、厚さ6~21cmの大型の礫を検出した。長軸方向を北西→南東方向に向け横たわるように出土した。礫の背からは打製石斧（S20）が置かれたように出土し、礫の南東周辺からは石匙（S9）やくぼみ石（S33）、深鉢形土器の把手部分（6）などが出土した。礫南東周辺の遺物は住居跡の床面から5~15cmほど上の地点で出土している。大型の礫は加工はされていないが、形状が男性器に似ているとも見て取れ、住居の廃絶後に何らかの祭祀行為が行われた痕跡と考えられる。

時期 繩文時代中期中葉（新道式期）

(2) 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（第27図）

位置 1-E区内や北東側の北西壁付近、Q-41グリッドに位置する。

形状・規模 北西側と東側が搅乱によって消失している。南西コーナーが隅丸状に曲がるが、全体の形状や規模は不明である。遺構確認面から床面までの深さは約17cmである。

遺物出土状況 床面から弥生時代後期の甕（1）の破片が出土した。破片は最大で90cmほど離れて出土しているが、同一個体の甕である。

その他 床面に見られるピット状のくぼみは耕作等による搅乱による影響である。

時期 弥生時代後期

2号竪穴状遺構（第27図）

位置 1-E区中央、O-43・44グリッドに位置する。

規模・形状 北西側が搅乱によって消失している。南西壁→北東壁間の長さは4.3m。遺構確認面から床面までの深さは6~12cm。土地の傾斜に合わせて南東→北西方向と南西→北東方向に軸を持つ隅丸方形もしくは長方形になるとされる。北東壁と南西壁に突出部がある。南西壁にある方形の突出部は、断面の観察では明確に捉えられなかったものの、真っ直ぐに掘られた形状から近年の搅乱の可能性が高い。

遺物出土状況 覆土中から弥生時代後期の赤彩土器の破片が出土している。

その他 遺構中央から焼土化した床面を検出したが、浅くまだらに焼土化していることから、短い期間で火を使用した痕跡と考えられる。北東壁にある突出部分の床面も、わずかではあるが焼土化していた。遺構の覆土には全体的に焼土粒子や炭化粒子が確認された。特に南側のコーナー付近で顕著であったため精査したが、火を使用した痕跡や施設は検出されなかった。東側の床面からは不整形のくぼみ、南西壁際の床面からは溝状のくぼみを検出した。

時期 弥生時代後期

3号竪穴状遺構（第27図）

位置 2号竪穴状遺構の北側、1-E区北西壁際のO-42・43グリッドに位置する。

規模・形状 北西側が搅乱によって消失している。南西壁一北東壁間の長さは1.76m、遺構確認面から床面までの深さは10cm。2号竪穴状遺構と同じく南東一北西方向と南西一北東方向に軸を持つ隅丸方形もしくは長方形になると考えられる。北東壁の東側コーナー付近に突出部がある。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 不明

4号竪穴状遺構（第27図）

位置 3号竪穴状遺構の南西側、1-E区北西壁際のN-43グリッドに位置する。

規模・形状 北西側が1-E区の壁に接し、調査区外へ伸びる。南西壁一北東壁間の長さは1.97m、遺構確認面から床面までの深さは11～17cm。北東側の調査区壁に接する床面周辺が1段深くなる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 不明

(3) 土坑

2～11号土坑については、第1表に記載する。なお、1号土坑は1-E区北東側から検出し、当初は土坑としていたが、覆土中からビニール片が出土したため搅乱に変更し、欠番となっている。

12・13号土坑（第28図）

位置 1-E区中央から南に寄ったN-0-45・46グリッドに位置する。

形状・規模 二つの土坑が重複しており、東側が12号土坑、西側が13号土坑である。どちらも平面形はややいびつな梢円形で、断面は底部の広いU字形である。12号土坑は、長軸1.15m、短軸0.81m。13号土坑は、長軸1.02m、短軸0.83m。遺構確認面からの深さは、12号土坑が27cm、13号土坑が10cmである。覆土の堆積状況を見ると13号土坑の後に12号土坑が掘られている。

遺物出土状況 試掘調査の段階で確認されている土坑で、試掘調査の際には土坑の表面付近から深鉢形土器の胴部（5）が押しつぶされたような状態で出土した。本調査では、12号土坑の覆土中から3～10cmほどの礫とともに深鉢形土器や器台形土器（6）の破片が出土した。

時期 12号土坑：縄文時代中期中葉（新道式期）。13号土坑：不明

(4) 集石土坑

1号集石土坑（第29図）

位置 12・13号土坑の南、N-0-46グリッドに位置する。

形状・規模 溝状遺構と重複している。平面形・断面ともに不整形である。長軸1.2m、短軸0.71m、遺構確認面からの深さ0.11m。

検出状況 土坑の上層には周囲の溝状遺構（もしくは搅乱）と同じ覆土が堆積しており、中層に3～10cmほどの礫が集中している。礫の下層には暗黄褐色土（第4層）が堆積していた。焼土や炭化物は検出されず、礫にも熱を受けた様子は見られなかった。集石の上面から縄文時代中期中葉の土器の小破片が出土した。

時期 縄文時代中期中葉か

(5) 溝状遺構

1号溝状遺構（第29図）

位置 1-E区南東壁の中央部に沿ったN-47、0-46、P-44・45、Q-R-43・44グリッドに位置する。

形状・規模 南西一北東方向に走っている。南西側と北東側に分かれが、位置や軸の方向などから同一の遺構と考えられる。北東側では北東端が2号土坑とともに搅乱によって失われている。南西に向かって二股に別れ、片方が南西端で4号土坑に接している。南西側では1号集石土坑のあたりで二股の名残が見られるが、集石土坑

周辺は形状が不安定である。幅は0.4～1.6m、遺構確認面からの深さは0.06～0.31m。底部は各所にピット状のくぼみがあり、耕作等による搅乱の影響を受けている。

検出状況 2・4号土坑、1号集石土坑と重複しているが、いずれの土坑上層においても溝状遺構と同じ覆土が確認されている。全体的に形状が不安定で、掘り込みも浅く、人工的な遺構とは言い切れないが、北東側で南東～北西方向に走る搅乱（暗渠）に流れ込んでいるように見える。

遺物出土状況 覆土中から縄文土器や陶器の細かい破片が出土している。

時期 不明

6. 1-F区（第30～42図）

1-F区からは、縄文時代前期後半の竪穴住居跡1軒、ピット1基、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構1基、時期不明の竪穴状遺構2基、土坑5基、周溝1基を発見した。1-E区と同様に調査区の北東側で搅乱の影響を多く受けているが、竪穴住居跡や竪穴状遺構、周溝などが検出された。

（1）住居跡

1号住居跡（第34・35図）

位置 1-F区の北東側、R・S-36・37グリッドに位置する。

形状・規模 直径5.3mほどの不整円形である。竪穴の深さは遺構確認面から26～60cm。南東側で1号竪穴状遺構と重複する。竪穴の壁は全体的に緩やかに立ち上がる。

柱穴 床面から検出したピットはいずれも深さ10～15cmほどと浅いが、配置としては4本柱の住居となろうか。南西側のピットが存在したであろう地点には後に掘られたと推定される土坑を検出した。

炉 住居跡中央で地床がと考えられる焼土化した床面を検出した。焼土からやや離れた地点の床面上に長さ25cmほどの扁平な礫が2つ出土しているが、熱を受けた様子は見られなかった。

住居内土坑 住居内の南西側から土坑を検出した。平面形はややいびつな梢円形で、断面は箱形である。長軸1.2m、短軸1.05m、深さ0.45～0.76m。底部の東側にピット状の堀り込みがあり、10cmほど深くなっている。土坑上部の南側には深さ5～10cmほどの浅いくぼみがある。底部に近い土坑覆土中から長さ15～30cmほどの扁平な礫が出土したが、遺物は出土しなかった。

遺物出土状況 床面上から出土した遺物は少なく、ほとんどが覆土中から出土している（第35図）。遺物は、深鉢形土器や有孔浅鉢形土器の口縁部や胴部の破片資料が多いが、全体に縄文を施し、口縁部にボタン状の貼付文の付いた深鉢形土器の口縁部から胴部（7・9）が覆土上層から広範囲に散らばった状態で出土している。

時期 縄文時代前期後半（諸磯b式期）

2号住居跡（第36・37図）

位置 1-F区やや南西側の北西壁付近、K-40・41グリッドに位置する。

形状・規模 長軸3.71m、短軸3.3mの梢円形である。竪穴の深さは遺構確認面から30cmで、壁は斜めに立ち上がる。北東側の壁にあたる部分から後に掘られたと考えられる土坑を検出した。

柱穴 住居内から8基のピットを検出した。直径が21～36cm、深さが27～64cmである。南東側の浅いくぼみにも柱が配置されていたと想定すると4本柱の住居となろうか。南北の壁際にあるピットは住居の内側と外側に並んでいることから、住居の建て替え（拡張）が行われた可能性が考えられる。

炉 住居の中央やや北寄りの地点から深鉢形土器の上半部（9）が地中に埋められた埋甕炉を検出した。埋甕炉内の覆土からは焼土や炭化材などは検出されず、暗褐色土の中に少量の焼土・炭化粒子が含まれている程度であった。炉の周辺を精査したところ、埋甕炉の西側の掘り方覆土中から深鉢形土器の胴部（10）が出土した。この土器も埋甕炉として機能していたと考えられ、柱穴の配置からも想定されるように、住居の建て替えの際に新しいものに替えた可能性が考えられる。

住居内土坑 住居の北東側の壁を壊し、住居外にややはみ出る形で土坑を検出した。平面形はややいびつな楕円形で、断面は底部の広いU字形である。長軸0.6m、短軸0.54m、深さ0.5m。土坑底部の15cmほど上の地点から、長さ57cm、幅35cm、厚さ9cmの台石が出土した。台石の周囲や上部からは摩製石斧（S31）や浅鉢形土器の破片（14）、さらに上層からは打製石斧（S25）などが出土している。また、土坑に接する住居東側の壁際からは白色粘土が塗られた完形のミニチュア土器（16）が出土している。

遺物出土状況 床面付近よりも遺構確認面や覆土上層から多くの遺物が出土した（第37図）。土器に比べ、石鎌（S2～5）や打製石斧（S22～28）の比率が多い。

時期 繩文時代中期中葉（新道式期）

3号住居跡（第38図）

位置 1-F区ほぼ中央の北西壁際、N・O-37・38グリッドに位置する。

形状・規模 北西側は1-F区の調査区外へ延びている。北東側は攪乱によって消失している。隅丸状に曲がる南西コーナーを検出したが、全体的には、楕円形・隅丸形（もしくは長方形）のいずれかになると考えられる。

北東側の攪乱との境目でわずかに壁の立ち上がりを検出したため、南西壁一北東壁間の長さは4.8mほどと推定される。遺構確認面から床面までの深さは48cmである。

柱穴 ピットは4基検出したが、住居南東壁に近い2基は深さ10cm以下の浅いピットである。西側調査区壁寄りのピットは長軸39cm、短軸27cm、深さ53cm。住居中央やや東寄りのピットは長軸27cm、短軸18cm、深さ63cmで、西側に斜めに掘り込んでいる。

遺物出土状況 南西コーナー付近の床面上から弥生時代後期の壺形土器（1）の上半部が出土した。

遺物は非常に少なく、繩文時代前期後半の有孔浅鉢形土器（2）や深鉢形土器の破片（3）などが出土している。

その他 南東壁際ピット脇の床面上の覆土から焼土を検出した。堆積の範囲は薄かったが、床面もやや焼土化していた。西側調査区壁際の北東側で攪乱と接する付近の床面上から炭化材を検出した。周囲の覆土中にも炭化粒子が含まれていた。炭化材の年代測定と材同定を行い、年代測定が $1,965 \pm 25$ yrBP、材同定がコナラ属コナラ亜属コナラ節との結果が出ている。

時期 弥生時代後期

（2）竪穴状遺構

1～3号竪穴状遺構に共通して、平面形が不整形で、竪穴の掘り込みが浅い。1・3号土坑の床面からは灰と考えられる礫を伴う焼土化した床面を検出している。2号土坑からも焼土や炭化材が検出されていることから、いずれの遺構も同時期（弥生時代後期か）の住居跡である可能性が考えられる。

1号竪穴状遺構（第39図）

位置 1号住居跡の南東側に接する。S・T-37グリッドに位置する。

形状・規模 北西側で1号住居跡と重複している。南西側のコーナーが歪曲し、北東側は所々攪乱で失われている。南西壁一北東壁間の長さは4.8～5.8mほどと推定される。遺構確認面から床面までの深さは9～21cm。1号住居跡と接する北西側の床面が一段高くなっている。

ピット 床面から3基のピットを検出した。径21～30cm、深さ15～21cmである。

炉 住居北側の1号住居跡と接する付近から焼土化した床面と石囲い状の礫を検出した。焼土化した床面上に長さ18～29cmの礫が長方形に囲うように配置されている。石囲いの中の空間は、長軸19.5cm、短軸9cmである。焼土周辺から採取した炭化材の年代測定と材同定を行い、年代測定が $2,005 \pm 25$ yBP、材同定がクリとの結果が出ている。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 不明（弥生時代後期か）

2号竪穴住居跡（第40図）

位置 4号土坑と5号土坑の間、M・N-40グリッドに位置する。

形状・規模 平面形は長軸3m、短軸2mほどの長方形になると考えられるが、北側の立ち上がりが確認できず、西側のコーナーから北西の壁が北方向に広がっているため、多角形もしくは不整形となる可能性も考えられる。遺構確認面から床面までの深さは7.5cm。

遺構出土状況 遺構は出土しなかった。

その他 穴の覆土は黄褐色土ブロックを含んだ黒褐色土の單一層である。南東壁から北東壁に近い床面で炭化材と焼土化した床面を検出した。北西の壁に接するように土坑状の浅いくぼみがあり、くぼみの底部は焼土化していた。

時期 不明（弥生時代後期か）

3号竪穴状遺構（第40図）

位置 1号住居跡の北、1-F区北西壁際のS-T-34・35グリッドに位置する。

形状・規模 平面形は不整形で北方向に溝状の掘り込みが伸びている。覆土は同じ黄褐色土ブロックを含んだ黒褐色土であるが、竪穴状遺構の一部であるかは不明である。東側は擾乱によって消失している。南西・北西コーナーは隅丸状に曲がっている。両コーナー間の長さは2.9mである。

ピット 2基のピットを検出した。ピットを結んだラインが西壁と並行するように配置されている。ピットの径は18～21cm、深さはともに51cm。

炉 竪穴の中央北寄りの地点から焼土化した床面と礫を検出した。礫は17～28cmほどの大きさで、炉の片側に置かれる枕石とも、1号竪穴状遺構で見られた石廻いの一角とも見て取れる配置となっている。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 不明（弥生時代後期か）

（3）土坑

2～4号土坑については第1表に記載する。

1号土坑（第40図）

位置 1-F区北東壁際、V-35グリッドに位置する。

形状・規模 平面形はいびつな梢円形、断面は角の丸い箱形で西壁が屈曲して立ち上がる。長軸1.58m、短軸1.2m、深さ0.42m。

検出状況 土坑の表面からは長軸83cm、短軸38cm、厚さ12cmの扁平な礫を検出した。土坑の覆土中から凝灰岩製の石蹴（S6）が出土した。

時期 不明（縄文～弥生時代）

5号土坑（第41図）

位置 2号竪穴状遺構の西側、L-40グリッドに位置する。

形状・規模 平面形はほぼ円形で、断面はいびつな箱形である。壁面が屈曲しながらやや開いてたちあがり、底部はゆるやかな起伏がある。直径1.77～1.86m、深さ1.31m。

検出状況 土坑覆土上層から縄文時代前記後半の土器片が出土した。土坑底部からは11～27cmほどの礫が出土した。土坑覆土の南西側下層では黒褐色土が帶状に暗褐色土に混入している状況が見られた（第5層）。土坑覆土の微細物分析を行ったが、植物の実・種子等は検出されなかった。

時期 不明（縄文時代前期後半（諸磯b～c式期）か）

（4）ピット

1号ピット（第41図）

位置 1号土坑の西隣、V-35グリッドに位置する。

形状・規模 平面形はややいびつな梢円形、断面は不整形で南側が深くなる。長軸36cm、短軸32cm、深さ16.5cm。

検出状況 覆土上層から縄文時代前期後半の深鉢形土器の口縁部破片が出土した。覆土は黄褐色土ブロックを含む暗褐色土の單一層である。

時期 繩文時代前期後半（諸磯 b 式期）

(5) 周溝（第42図）

位置 1-F区北東端のT-34・35、U-34・36、V-34・36 グリッドに位置する。

形状・規模 幅0.6～1.96m、深さ0.12～0.83mの2条の溝が向かい合い、1-F区北東壁外側の竜安寺川の谷部上面へ延びている。おそらく調査区外の北東側でつながり、直径28mほどの円形の周溝になるものと想定される。溝の断面は丸形であるが、北側では周溝の内側がゆるやかに立ち上がる傾向が見られる。南西側に周溝が途切れる部分があり、溝も途切れる部分に近づくにつれ、幅が狭く、深さも浅くなっている。周溝の外側と内側をつなぐブリッジ（陸橋部）になるものと考えられる。ブリッジの幅は直線距離で5.2mである。

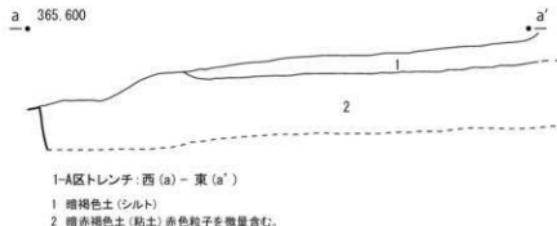
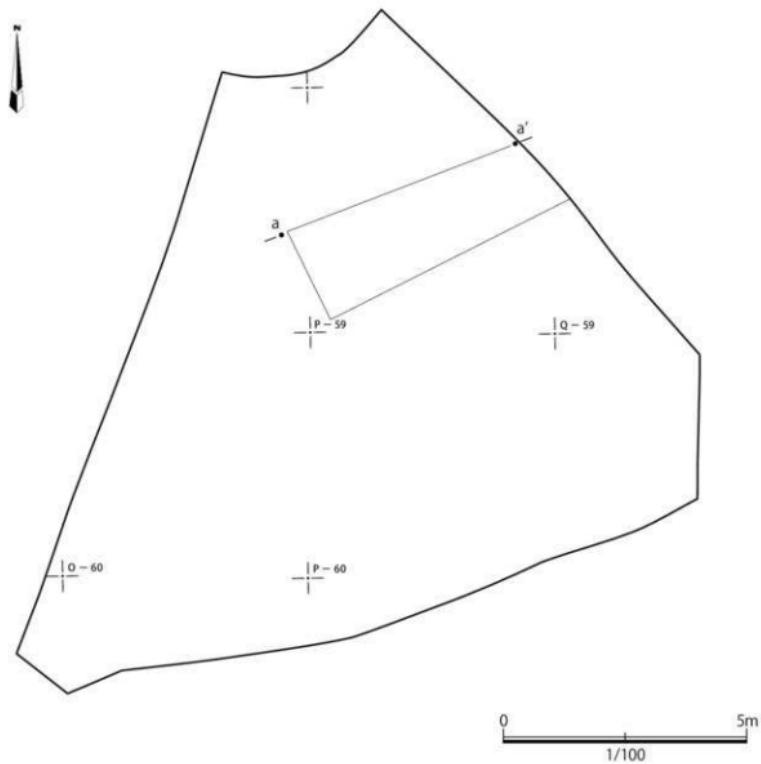
遺物出土状況 全体的に遺物の出土量は少ないが、底部付近から弥生時代後期の壺または甕の破片が出土した。また、覆土上層からは縄文時代前期後半の土器片が出土している。

その他 周溝の内側に1号土坑が存在するが、両者の関連性は明確にしえなかった。

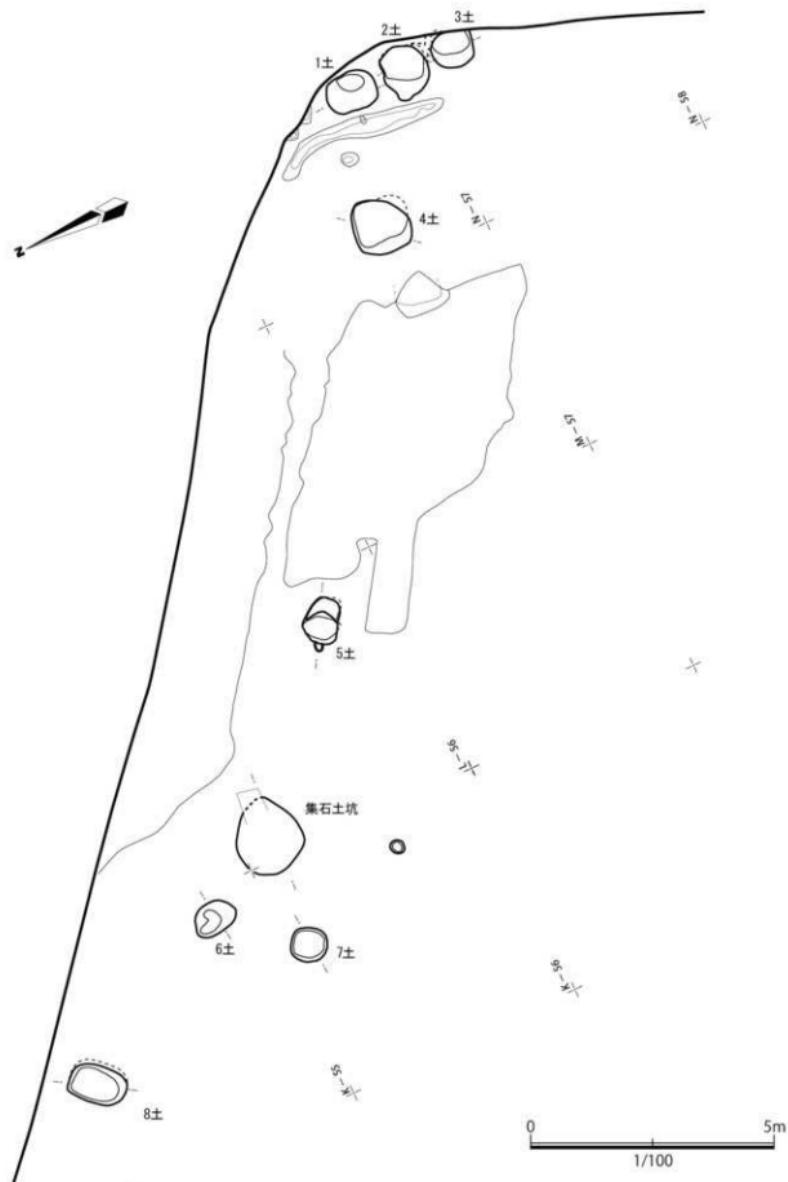
時期 不明（弥生時代後期か）

7. 2区

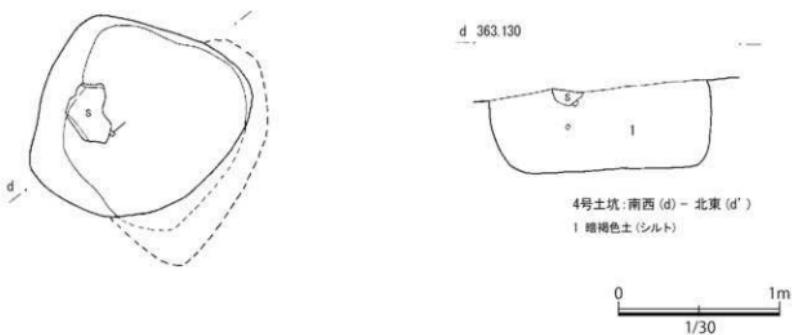
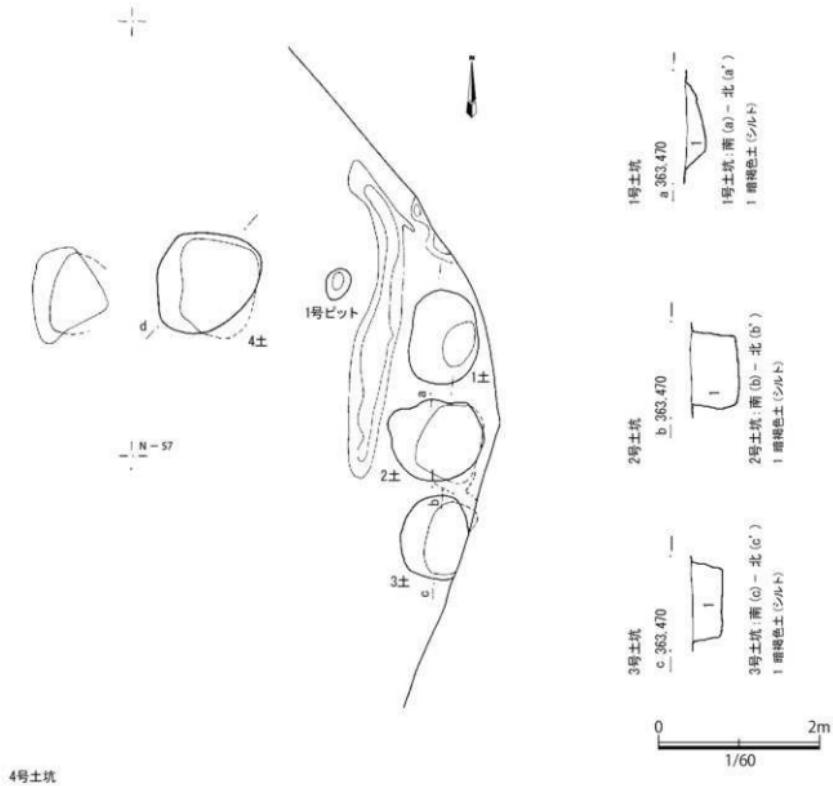
2区では、耕作土の中から縄文土器と思われる磨耗した土器の破片が出土したもの、2-A区から2-C区にかけて遺構は確認されなかった。2-A区や2-B区では、褐色土または暗褐色土を覆土とした径1m前後の土坑が確認されたが、遺物は出土せず、2-B区では規則的に並ぶ土坑表面でアンカーと考えれる針金の巻かれた蹠が見られたことから、植物栽培用の棚など耕作によって掘られた穴の跡ではないかと考えられる。また各区の中央部付近には1区でも見られた溝状（暗渠）の搅乱が部分的に確認された。



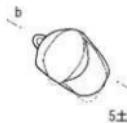
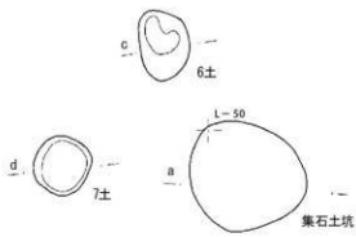
第4図 1-A区 全体図



第5図 1-B区 全体図



第6図 1-B区 1~4号土坑



7号土坑

d 361.650

7号土坑：西(d) - 東(d')
1 赤褐色土(シルト)

6号土坑

c 361.850

6号土坑：西(c) - 東(c')
1 赤褐色土(シルト)

5号土坑

b 361.530

5号土坑：北西(b) - 南東(b')
1 暗褐色土(シルト) 黄褐色土ブロックを少量含む。

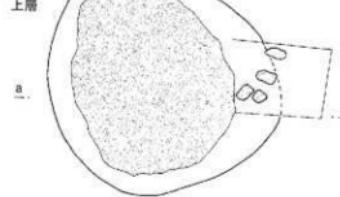
8号土坑

e 361.200

8号土坑：南西(e) - 北東(e')
1 細褐色土(シルト)

0
2m
1/60

集石土坑
上層



a 361.900



集石土坑：西(a) - 東(a')
1 暗褐色土(シルト) 炭化粒子を少量含む。

2 墓 径約5~20cm, 暗褐色土を含む。

3 燃土。

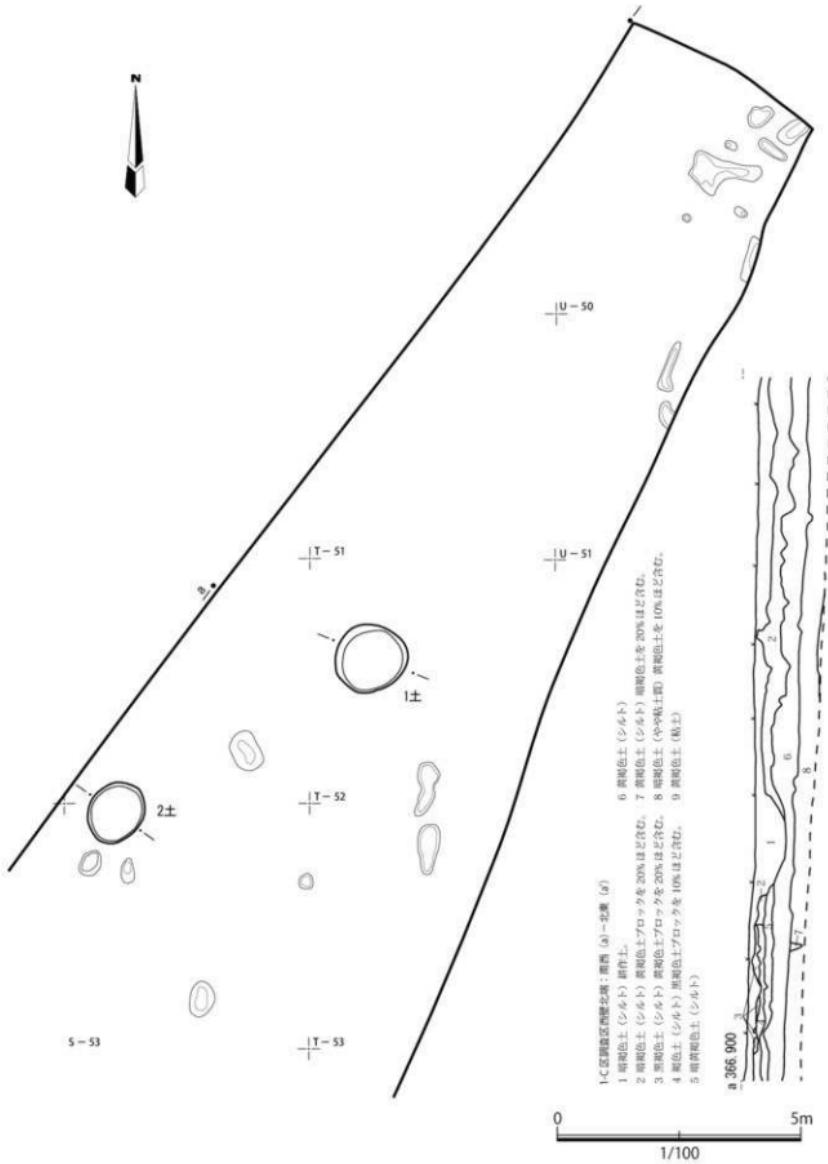
4 黒褐色土(シルト) 炭化粒子を大量に含む。

5 黄褐色土(シルト) 地山。

6 黄褐色土(シルト) 地山。

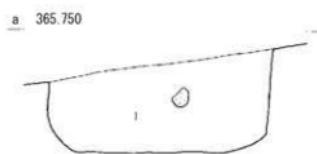
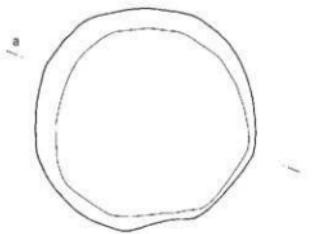
0
1m
1/30

第7図 1-B区 5~8号土坑・集石土坑



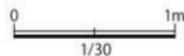
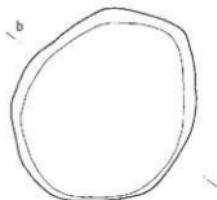
第8図 1-C区 全体図

1号土坑

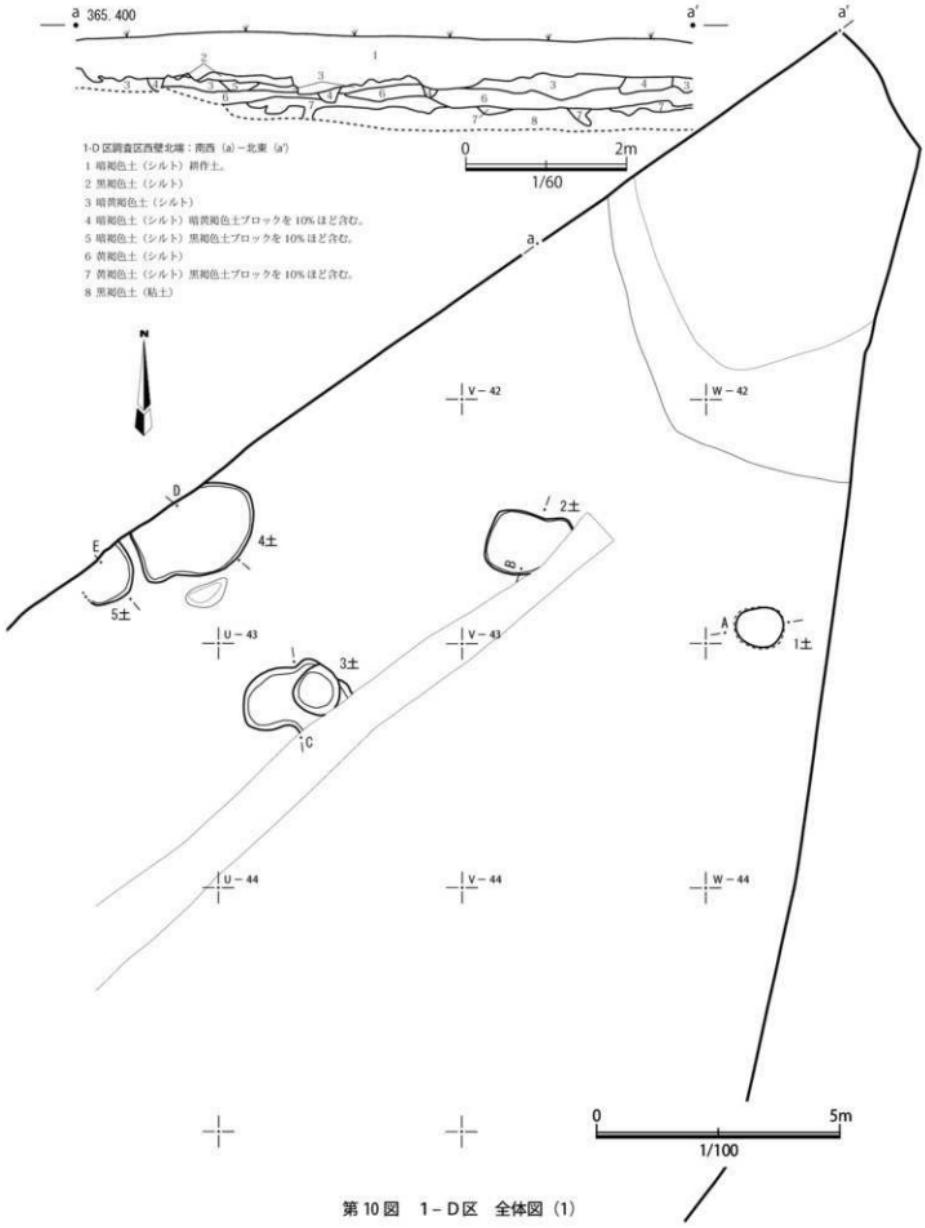


1号土坑：西 (a) ~ 東 (a')
1 細褐色土 (シルト) 黃褐色土ブロックを5%ほど含む。

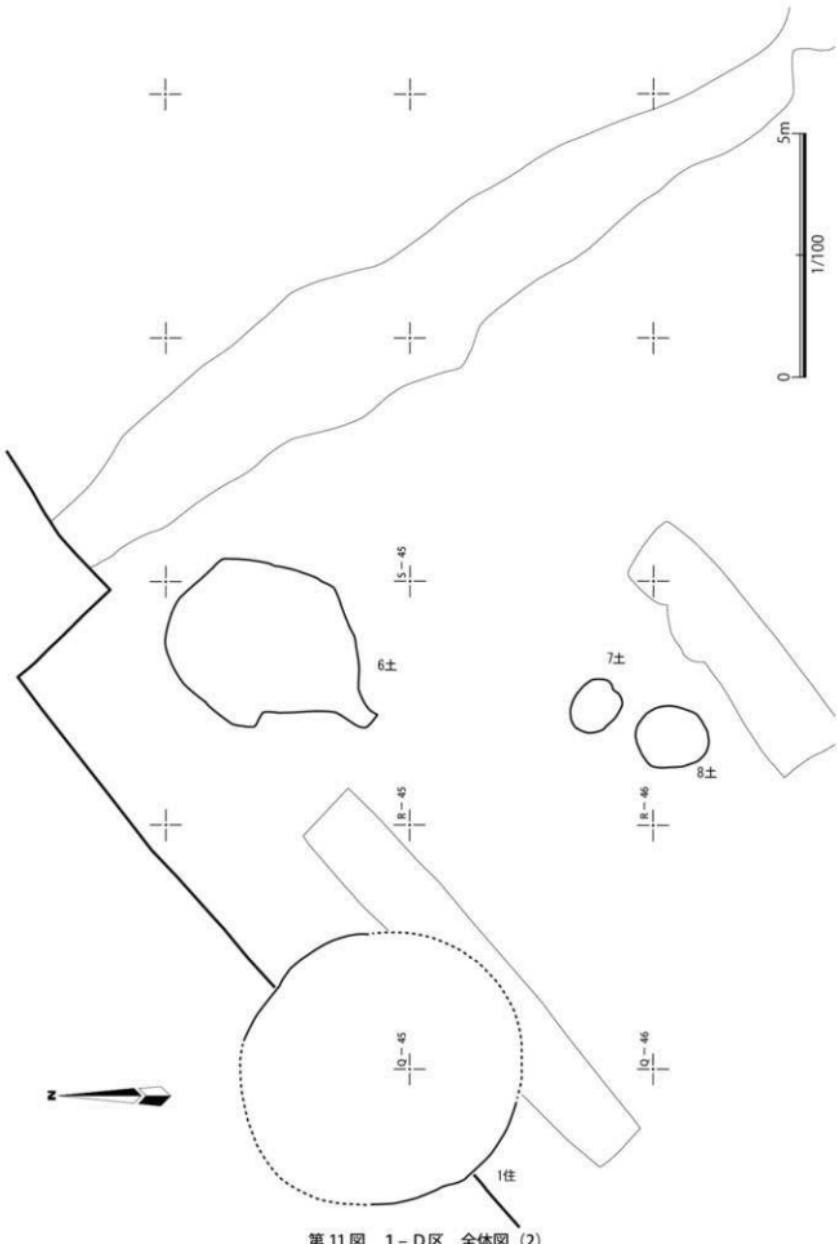
2号土坑



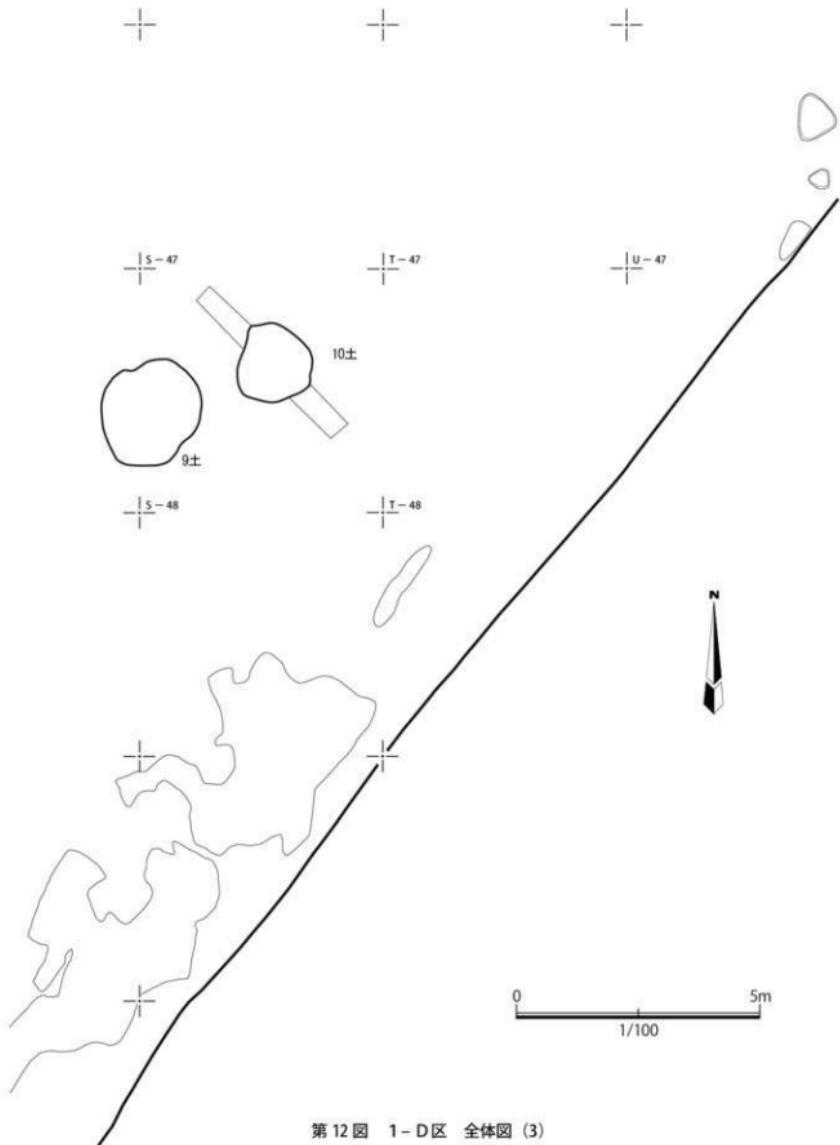
第9図 1-C区 1・2号土坑



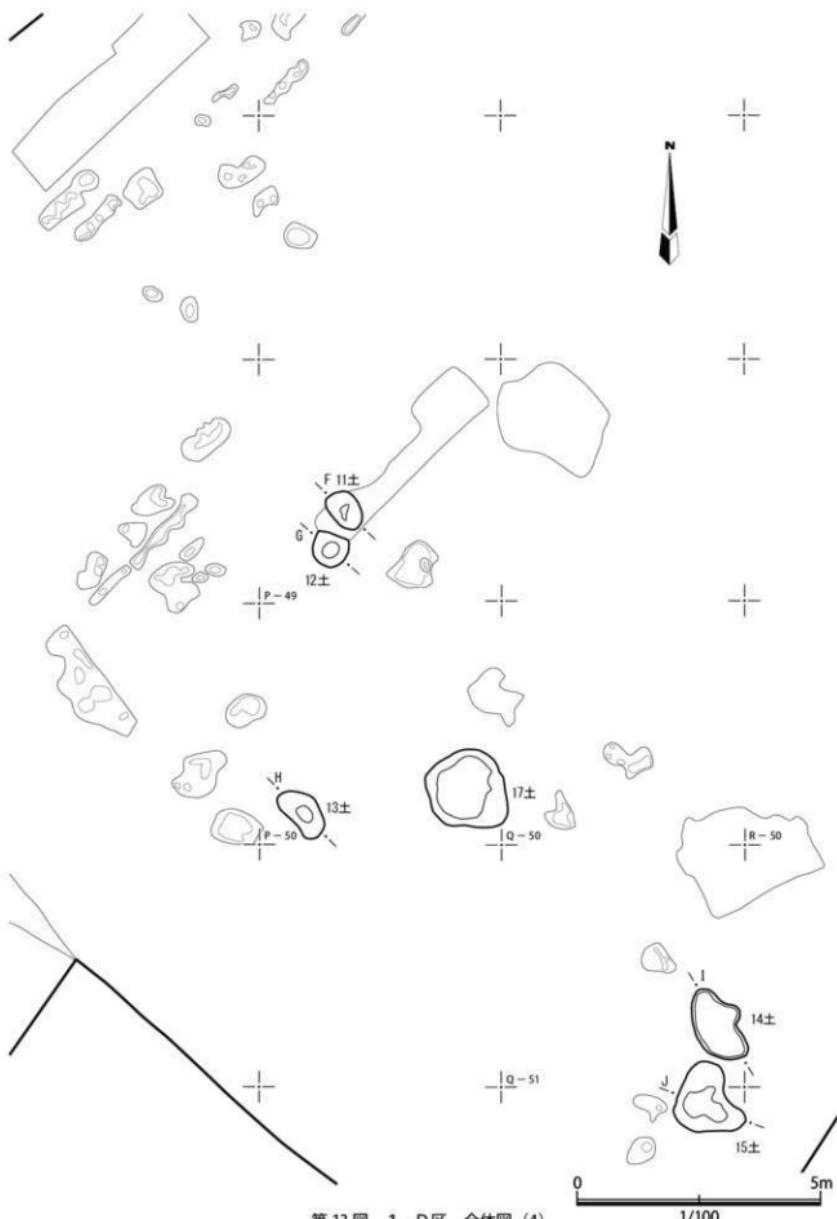
第 10 図 1-D 区 全体図 (1)



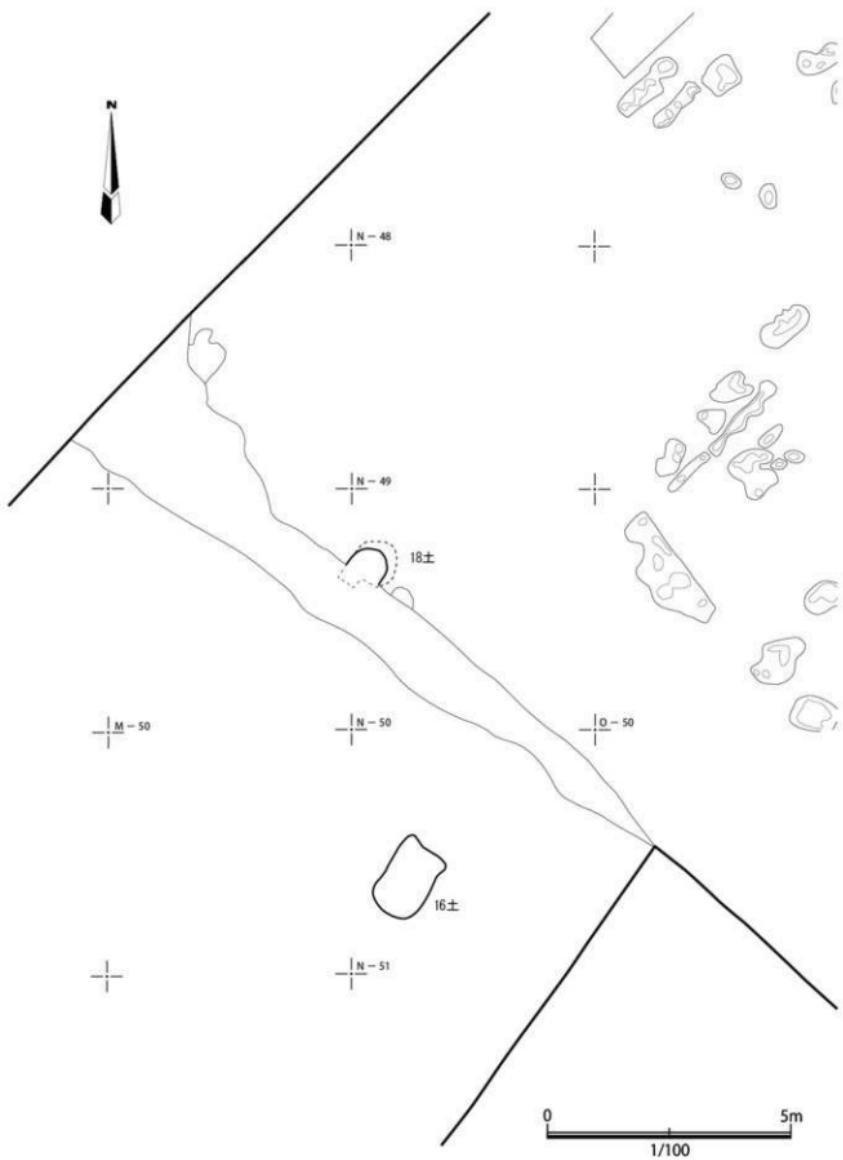
第11図 1-D区 全体図(2)



第12図 1-D区 全体図 (3)

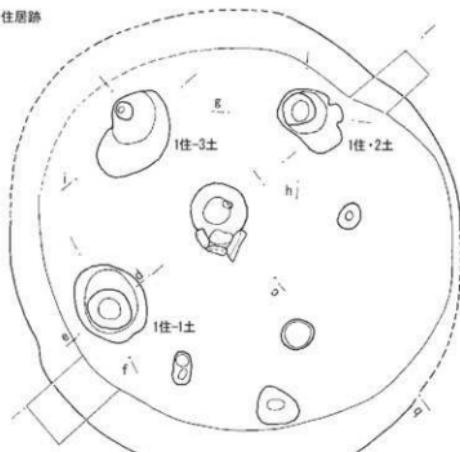


第13図 1-D区 全体図(4)

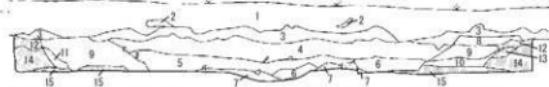


第14図 1-D区 全体図(5)

1号住居跡



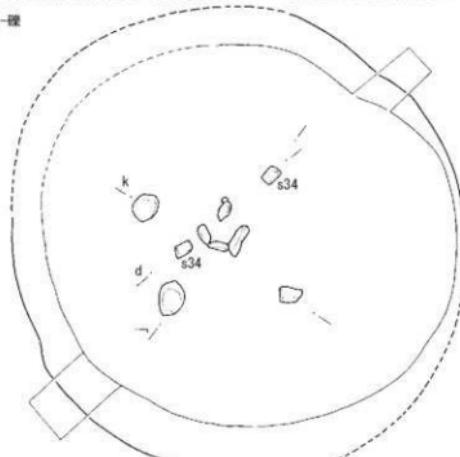
a 360.350



1号住居跡 - 南西 (a) - 北東 (a')

- 1 線褐色土 (ジルト) 腐化土作土、しまり弱。
- 2 褐色土 (ジルト) 褐褐色土ブロックを20%ほど含む。
- 3 棕褐色土 (ジルト) 褐褐色土ブロックを10%ほど含む。
- 4 線褐色土 (ジルト) 腐化粒子を微量含む。
- 5 線褐色土 (やや粘土質) 腐化土作土、腐化粒子を微量含む。
- 6 線褐色土 (やや粘土質) 腐化粒子、土粒子を少々含む。
- 7 線褐色土 (粘土) 増黄褐色土ブロックを少々含む。
- 8 線褐色土 (ジルト) 褐色土ブロックを少量含む。
- 9 線褐色土 (やや粘土質) 増黄褐色土ブロックを少々含む。
- 10 線褐色土 (やや粘土質) 増黄褐色土ブロックを微量含む。
- 11 線褐色土 (やや粘土質) 増黄褐色土ブロックを微量含む。
- 12 線褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを少々含む。
- 13 線褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを少々含む。
- 14 線褐色土 (やや粘土質) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
- 15 線褐色土 (粘土) 地山、明褐褐色土ブロックを30%ほど含む。

1住-標



c 359.700



1号住居跡 - 南東 (b) - 北西 (b')

- 1 線褐色土 (ジルト) 腐化土作土、しまり弱。
 - 2 線褐色土 (ジルト) 腐化粒子を少々含む。
 - 3 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
 - 4 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
 - 5 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
 - 6 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを20%ほど含む。
 - 7 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
 - 8 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
 - 9 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
 - 10 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
 - 11 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
3. 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
4. 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
5. 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
6. 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを20%ほど含む。
7. 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
8. 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
9. 高層褐色土 (ジルト) 地山、高層褐色土ブロックを微量含む。
10. 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。
11. 増黄褐色土 (ジルト) 増化粒子を微量含む。

j 359.900

k 359.900

0 2m
1/60

第 15 図 1-D 区 1号住居跡 (1)

I住-炉



d 359.800

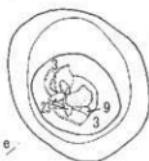


I住-炉: 南西 (d) - 北東 (d')

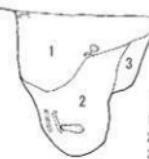
- 1 暗褐色土 (シルト) 炭化粒子・焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 (シルト) 炭化粒子・焼土粒子を微量含む。黄褐色土ブロックを10%ほど含む。
- 3 暗褐色土 (シルト) 炭化粒子・焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 (シルト) やや砂質。
- 5 黄褐色土 (粘土)。

i 359.800

I住-1号土坑



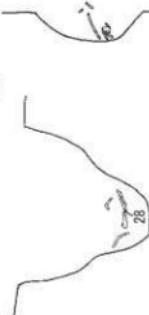
e 359.700



I住-1号土坑: 南西 (e) - 北東 (e')

- 1 暗褐色土 (シルト) 炭化材・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 (シルト) 炭化粒子を微量含む。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 (やや粘土質) 黄褐色土ブロックを10%ほど含む。

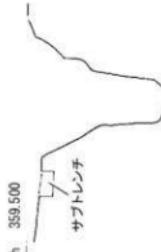
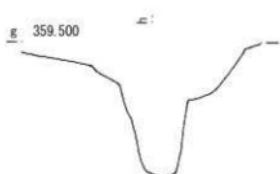
f 359.700



I住-2号土坑



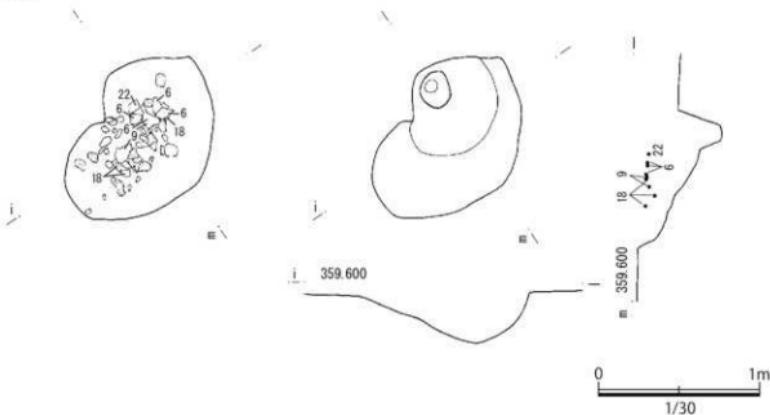
g 359.500



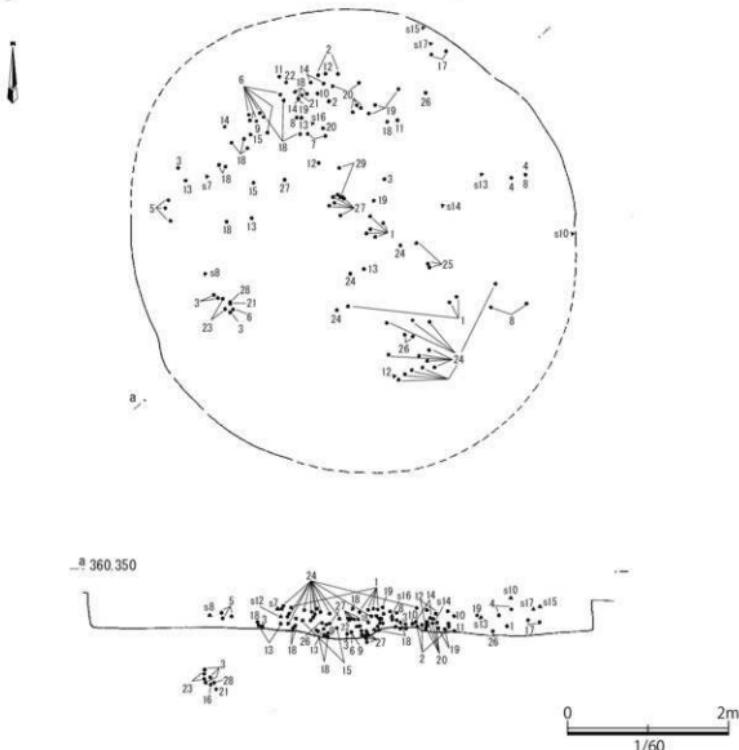
0 1m
1/30

第 16 図 1-D 区 1号住居跡 (2)

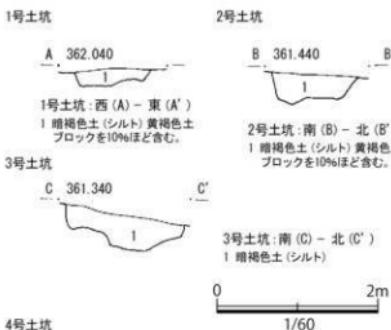
1住-4号土坑



1住-遺物分布

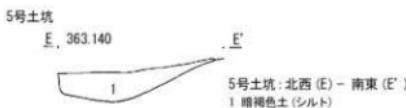


第17図 1-D区 1号住居跡 (3)



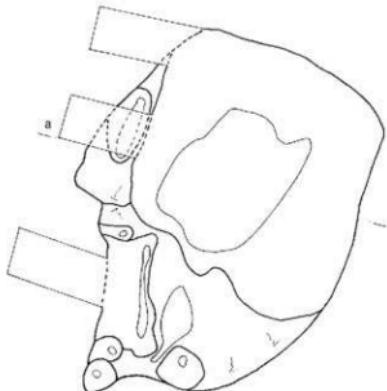
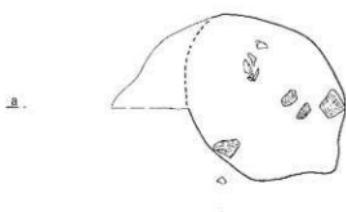
4号土坑：北西（D）—南東（D'）

- 1 暗褐色土（シルト）。
 - 2 黒褐色土（シルト）。
 - 3 褐色土（シルト）。
 - 4 暗褐色土（シルト）黄褐色土ブロックを微量含む。
 - 5 暗褐色土（シルト）僅1mm以下の砂を多く含む。
 - 6 暗褐色土（シルト）褐色土ブロックを10%ほど含む。
 - 7 増褐色土（シルト）褐色土ブロックを10%ほど含む。僅1mm以下の砂を少量含む。
 - 8 増褐色土（シルト）褐色土ブロックを20%ほど含む。僅1mm以下の砂を微量含む。
 - 9 増褐色土（シルト）僅1mm以下の砂を微量含む。
 - 10 黄褐色土（シルト）山。

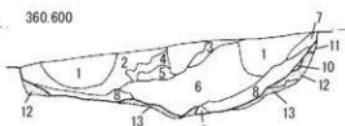


7号土坑

上册

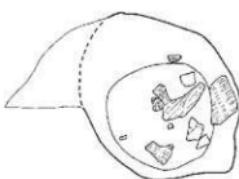


360 600



6号土坡·南西(a) - 北東(a')

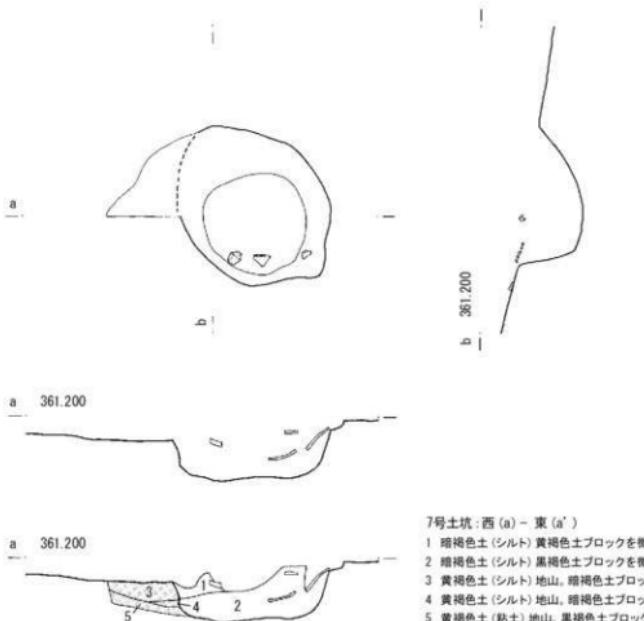
- 1 暗褐色土（シルト）耕作土、暗褐色土ブロックを10%ほど含む。
 - 2 黄褐色土（シルト）暗褐色土ブロックを微量含む。
 - 3 黄褐色土（土や粘土質）リソリド
 - 4 黄褐色土（シルト）暗褐色土ブロックを30%ほど含む。
 - 5 黑褐色土（やや粘土質）黄褐色土ブロックを微量含む。
 - 6 黄褐色土（暗褐色土）暗褐色土ブロックを微量含む。一部葉理系に堆積。
 - 7 暗褐色土（暗褐色土）黄褐色土ブロックを30%ほど含む。
 - 8 黑褐色土（やや粘土質）黄褐色土ブロックを10%ほど含む。
 - 9 黑褐色土（粘土）
 - 10 黑褐色土（やや粘土質）黄褐色土ブロックを微量含む。
 - 11 明褐色土（シルト）地山。
 - 12 黑褐色土（粘土）黄褐色土ブロックを10%ほど含む。
 - 13 黄褐色土（粘土）地山。



※遺物はすべてNo.1

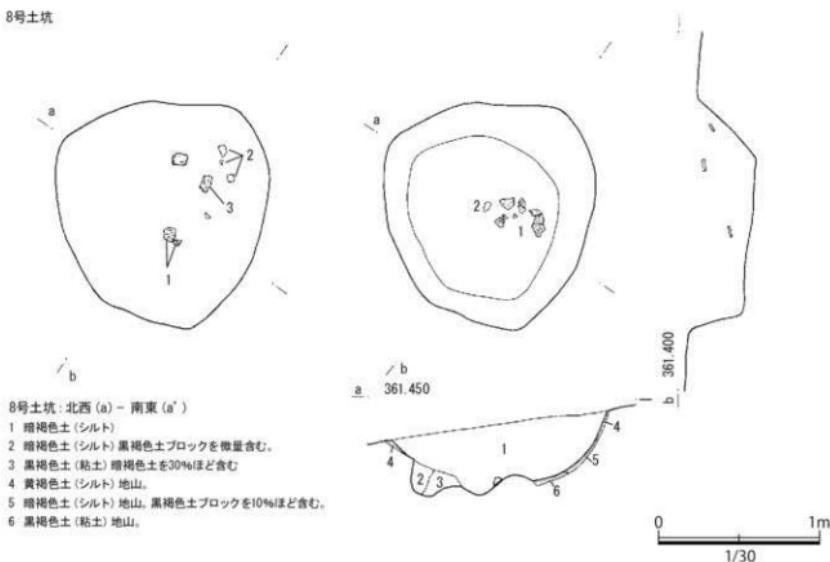
第18図 1-D区 1~7号土坑

7号土坑



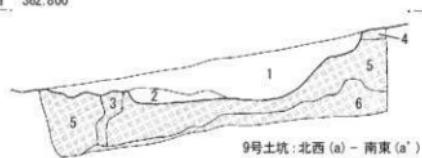
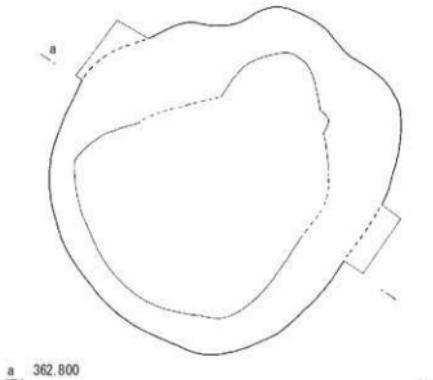
7号土坑: 西 (a) - 東 (a')

8号土坑

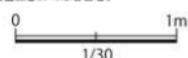
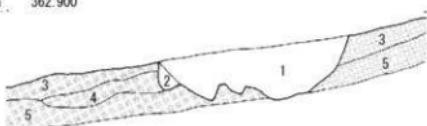


第19図 1-D区 7・8号土坑

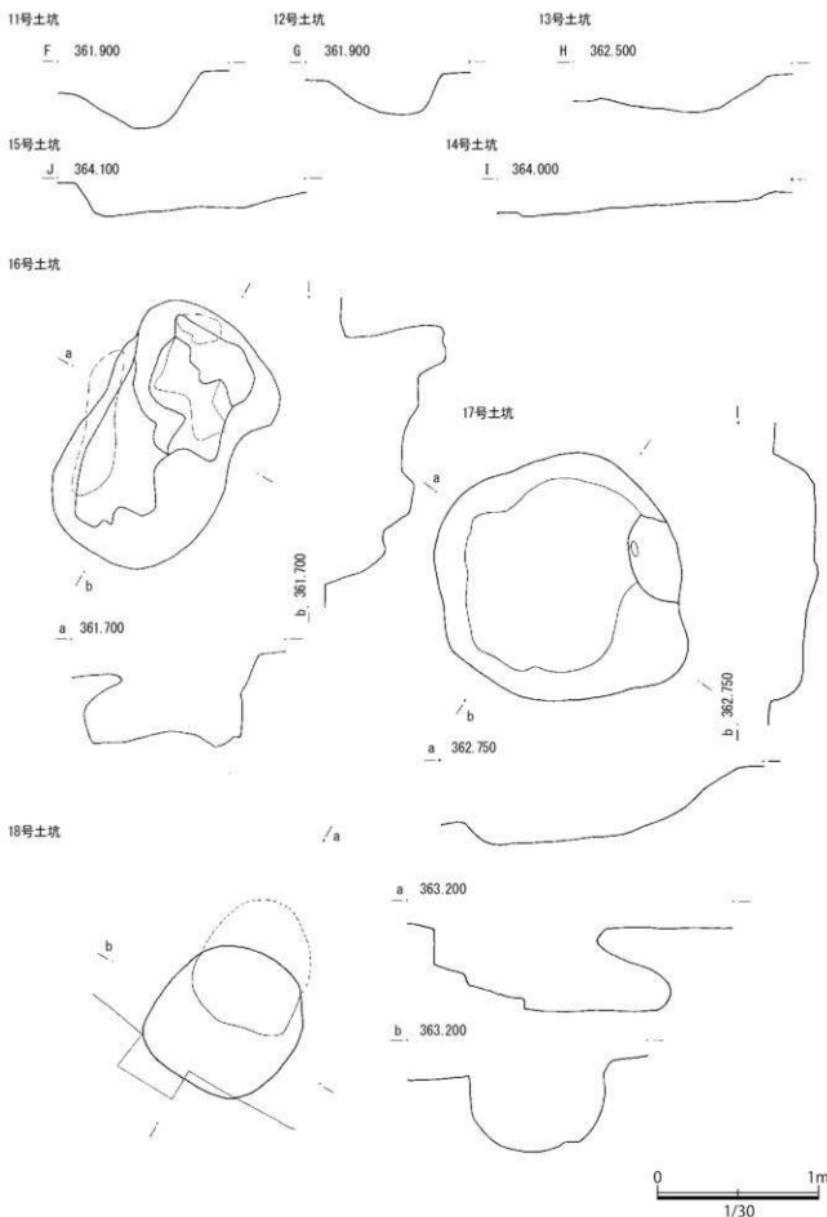
9号土坑



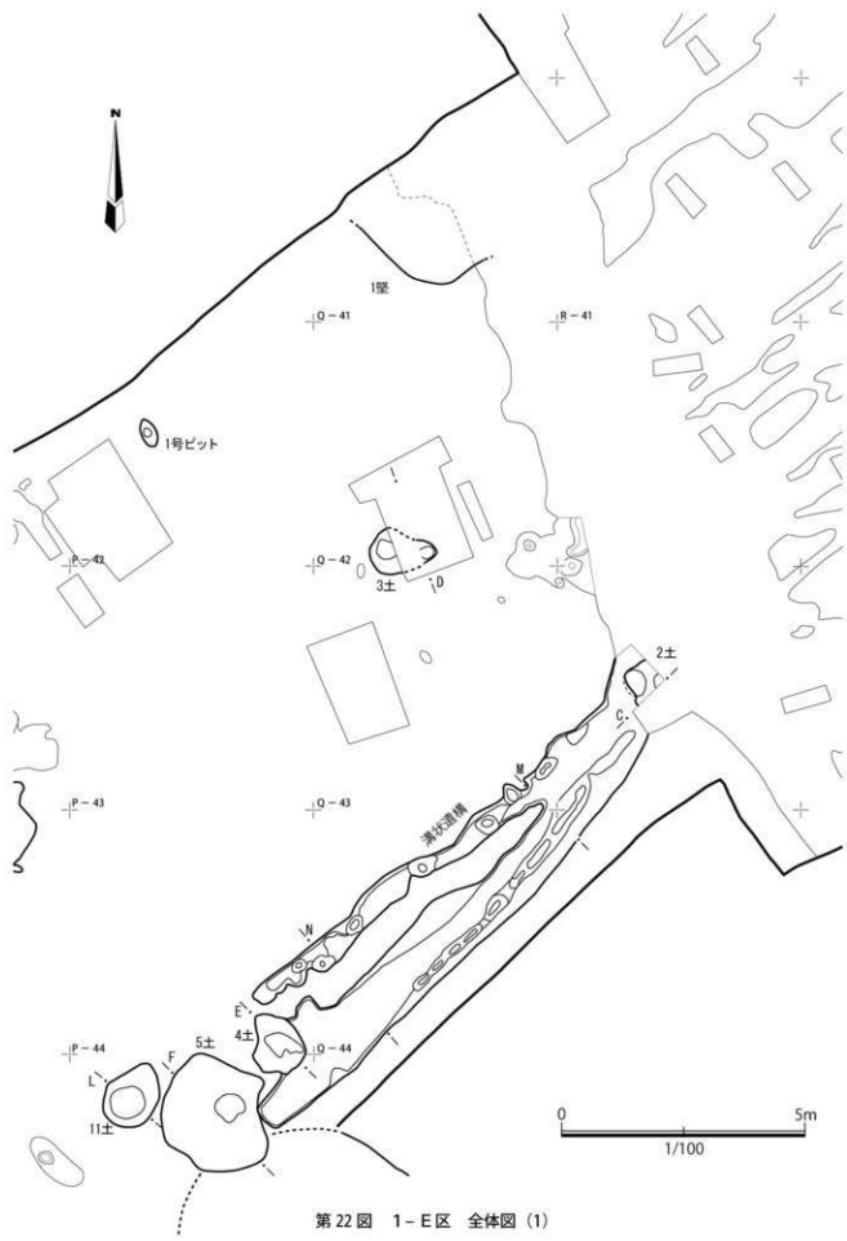
10号土坑



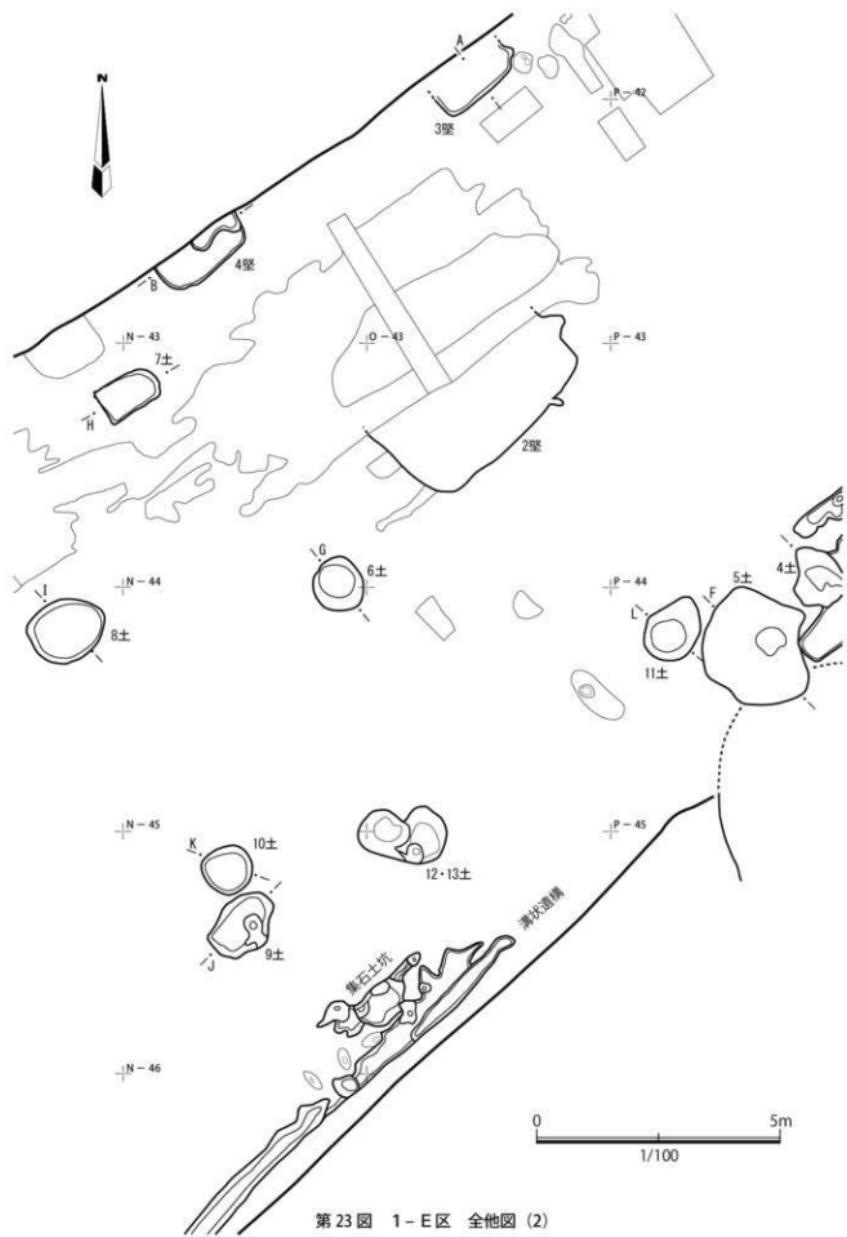
第20図 1-D区 9~10号土坑



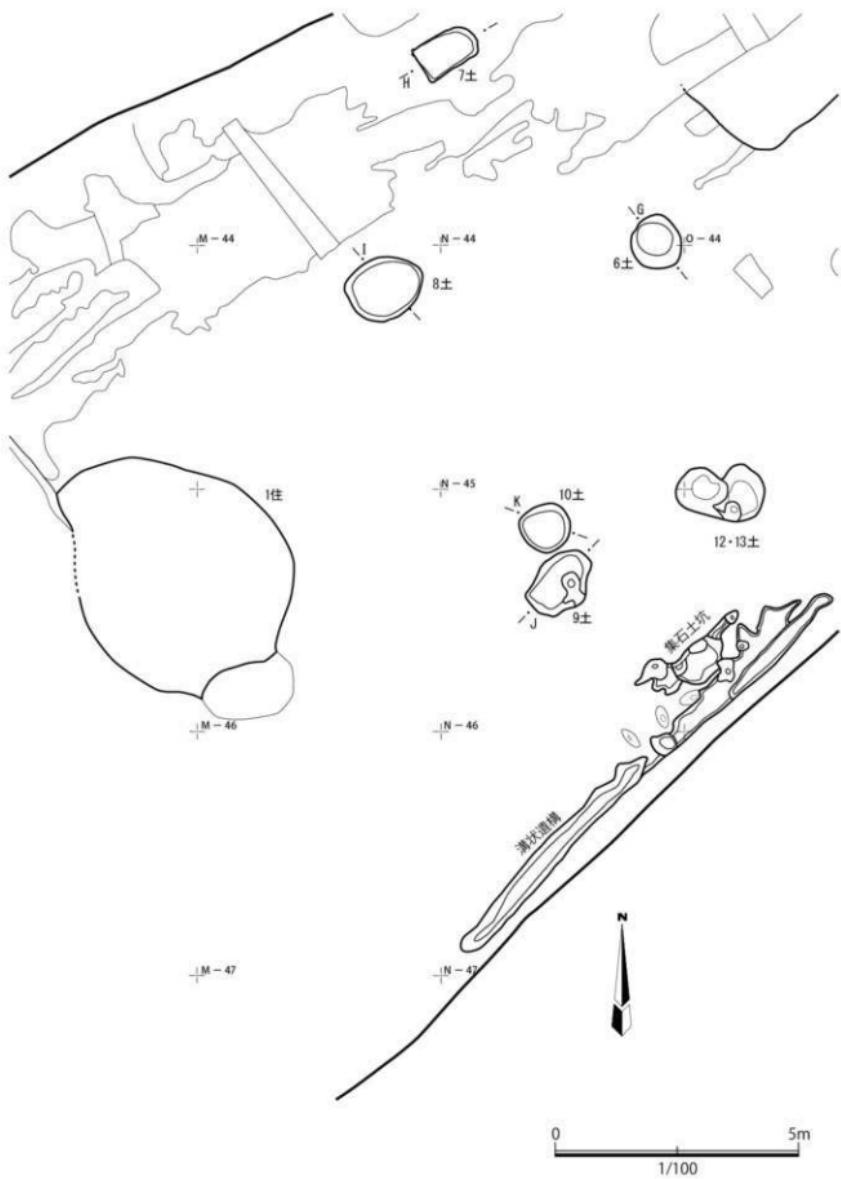
第21図 1-D区 11~18号土坑



第22図 1-E区 全体図(1)

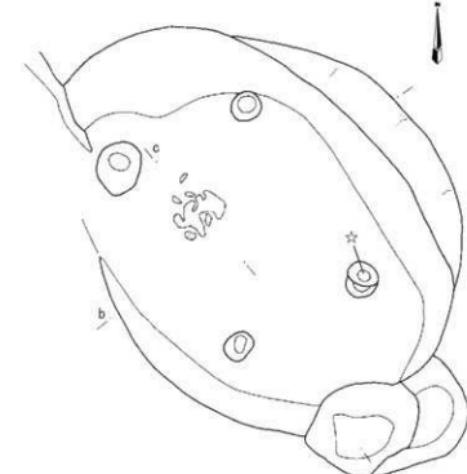


第23図 1-E区 全他図(2)

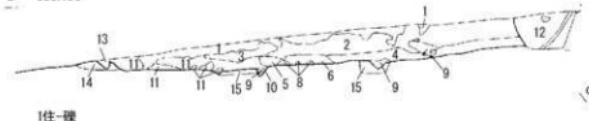


第24図 1-E区 全他図 (3)

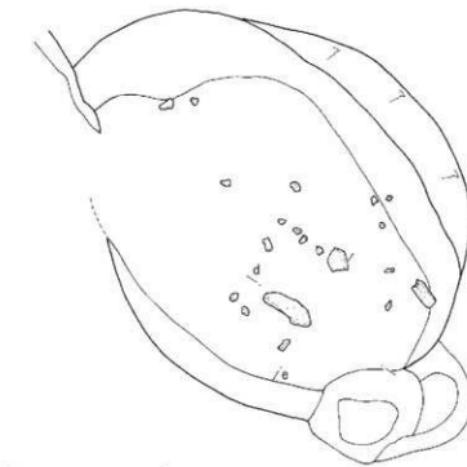
a. 1号住居跡



a. 358.100



1住-壁



0
1/60
2m

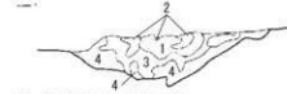


b. 358.000

- 1号住居跡・北西 (a') - 南東 (a'') - 南西 (b') - 北東 (b'') 共通
- 1 地色土 (シルト) 喀斯特土 (結水土) を10%~30%ほど含む。ビニール片混入。
 - 2 暗褐色土 (シルト) 暗色土ブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色土 (シルト) 暗色土ブロック、炭化粒子を少量含む。
 - 4 暗褐色土 (シルト) 混入。
 - 5 暗褐色土 (シルト) 砂質ブロックを10%ほど含む。
 - 6 暗褐色土 (シルト) 砂質ブロック、粒子を10%ほど含む。炭化粒子を少量含む。
 - 7 暗褐色土 (シルト) 砂質土質を少量含む。
 - 8 烟土。
 - 9 暗褐色土 (シルト) 砂質土質、炭化粒子ブロックを少量含む。
 - 10 暗褐色土 (シルト) 砂質ブロックを10%ほど含む。
 - 11 暗褐色土 (シルト) 黒褐色土ブロックを少量含む。
 - 12 暗褐色土 (シルト) 黑褐色土ブロックを少量化。
 - 13 暗褐色土 (シルト) 混入。
 - 14 地色土 (シルト) 地山。
 - 15 南面褐色土 (粘土) 地山。

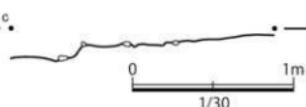


c. 357.600



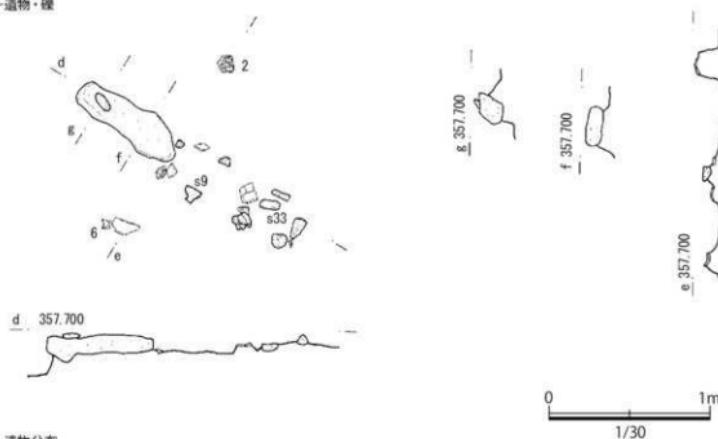
1住-炉・北西 (c) - 南東 (c'')

- 1 焼土。
- 2 暗褐色土 (シルト) 炭化粒子、燒土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 (シルト) 烧土粒子を20%ほど含む。燒土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 (シルト) 烧土粒子を少量含む。

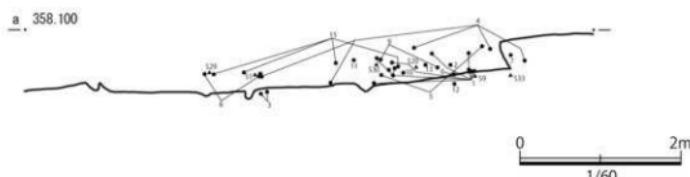
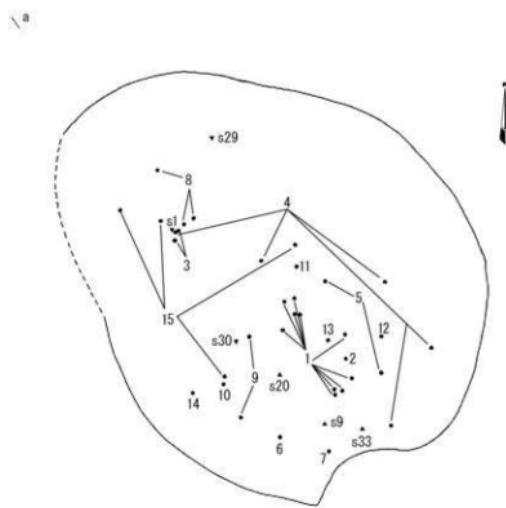


c.

第25図 1-E区 1号住居跡 (1)

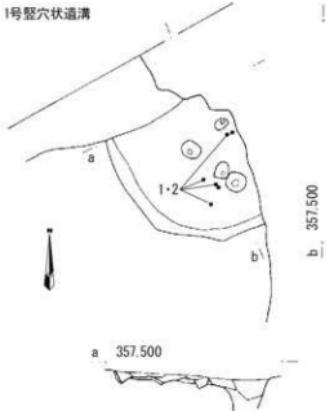


2住-遺物分布



第26図 1-E区 1号住居跡 (2)

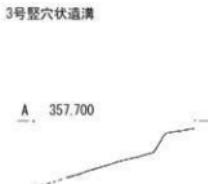
1号整穴状造溝



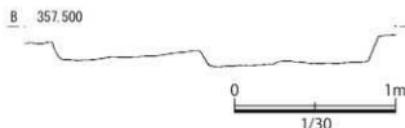
1号整穴状造溝 南西(a) - 北東(a')

- 1 黒褐色土(シルト) 黒褐色土ブロックを10%~20%ほど含む。
- 2 梅色土(シルト) 黒褐色土ブロックを20%ほど含む。
- 3 棕褐色土(シルト) 黑褐色土ブロックを少量含む。
- 4 棕褐色土(シルト) 黑褐色土・黒褐色土ブロックを少量含む。
- 5 棕褐色土(シルト) 黑褐色土ブロックを20%ほど含む。
- 6 黄褐色土(シルト) 黑褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土(シルト) 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土(やや粘土質) 黄褐色土地山。

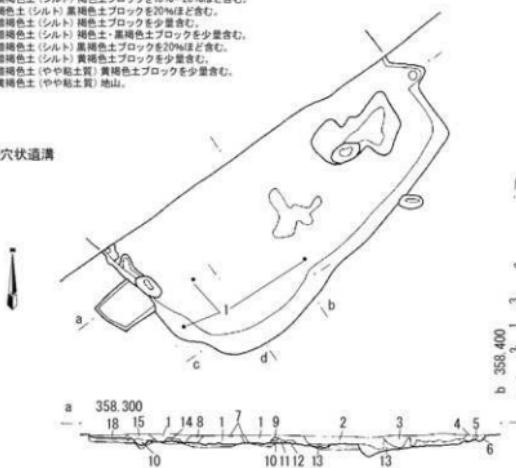
3号整穴状造溝



4号整穴状造溝



2号整穴状造溝



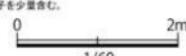
2号整穴状造溝 南西(a) - 北東(a')

- 1 黒褐色土(シルト) 粘土粒子・徑3mm以下の砂礫を少量含む。
- 2 黒褐色土(シルト) 粘土粒子・黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を10%ほど含む。黒褐色土ブロックを微量含む。
- 4 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を20%ほど含む。徑3mm以下の砂礫を少量含む。
- 5 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を少量含む。
- 6 黑褐色土(シルト) 粘土粒子・黄褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黑褐色土(シルト) 黑褐色土ブロックを微量含む。
- 8 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を少量含む。黒褐色土ブロックを10%ほど含む。
- 9 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を少量含む。黑褐色土ブロックを微量含む。

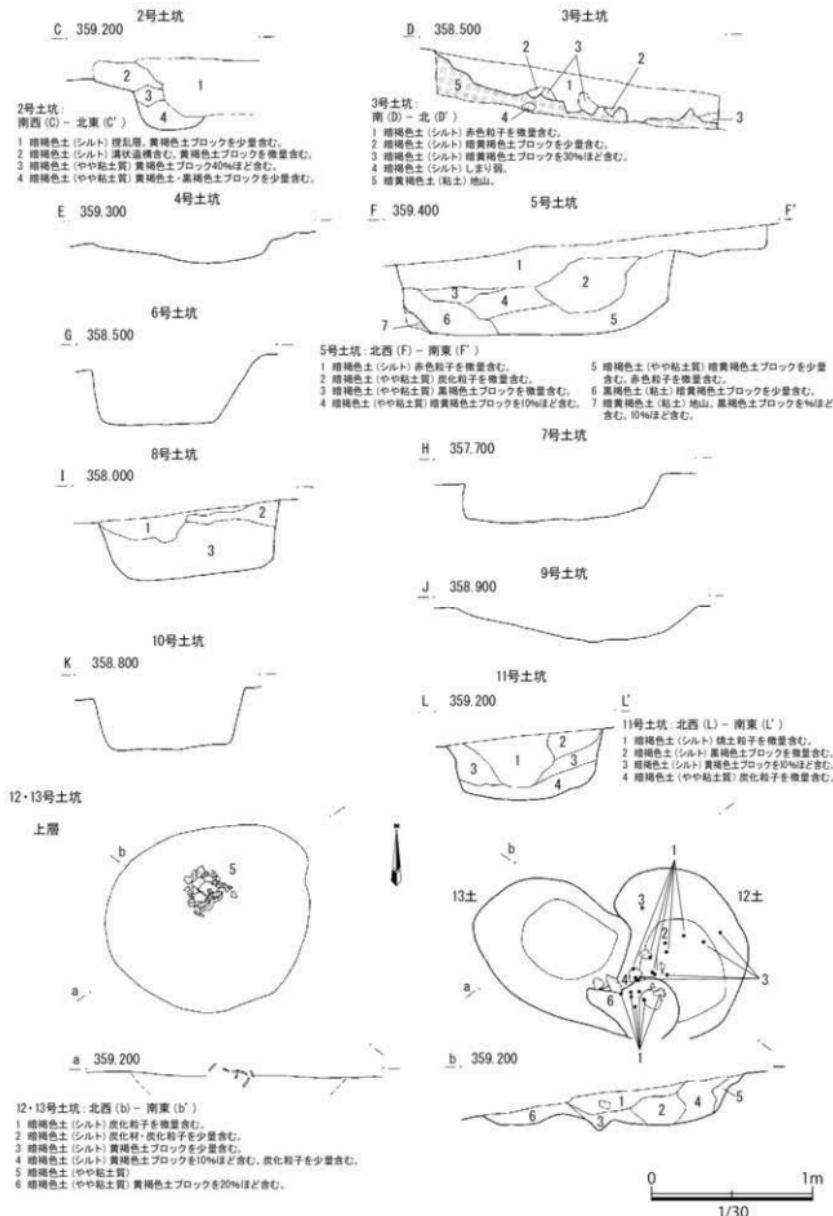
- 10 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を微量含む。
- 11 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を10%ほど含む。
- 12 黑褐色土(シルト) 粘土ブロック・佛土粒子を10%ほど含む。黒褐色土ブロックを少量含む。
- 13 黑褐色土(粘土) 黑褐色土ブロックを30%~40%含む。
- 14 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を20%ほど含む。黒化材を微量含む。
- 15 黑褐色土(シルト) 粘土・炭化粒子を微量含む。
- 16 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を少量含む。黒化材を微量含む。
- 17 黑褐色土(シルト) 粘土ブロック・佛土粒子を40%ほど含む。
- 18 黄褐色土(シルト) 黄褐色土ブロックを少量含む。

2号整穴状造溝 南西(c) - 北東(c') - 南東(d) - 北西(d') 共通

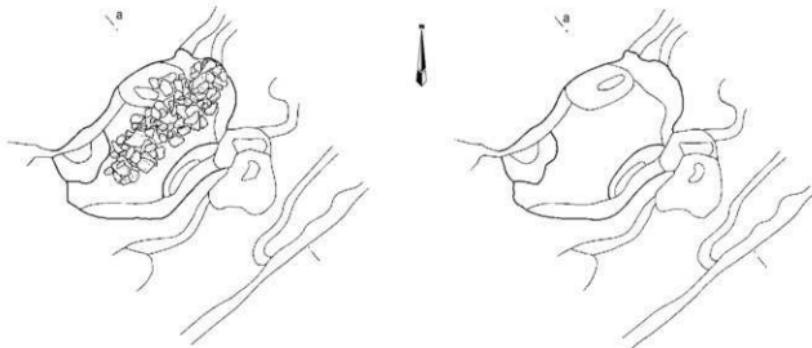
- 1 黑褐色土(やや粘土質)
- 2 黑褐色土(シルト)
- 3 黑褐色土(シルト) 黄化・佛土粒子を微量含む。
- 4 黑褐色土(シルト) 佛土粒子を20%ほど含む。
- 5 黑褐色土(シルト) 佛土粒子を少量含む。炭化粒子を微量含む。
- 6 黑褐色土(シルト) 佛土粒子を少量含む。炭化材を微量含む。
- 7 黑褐色土(シルト) 粘土粒子を10%ほど含む。炭化粒子を少量含む。
- 8 黄褐色土(粘土) 地山。
- 9 黄褐色土(やや粘土質) 黄褐色土ブロックを30%ほど含む。
- 10 黄褐色土(シルト) 糜黃褐色土ブロックを10%ほど含む。
- 11 黄褐色土(シルト) 佛土粒子を40%ほど含む。
- 12 黄褐色土(やや粘土質) 糜黃褐色土ブロックを20%ほど含む。



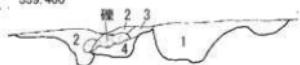
第27図 1-E区 1~4号整穴状造溝



集合土坑



a. 359.400



集合土坑: 北西 (a) - 南東 (a')

- 1 暗褐色土 (シルト) 溝状遺構に付帯するくぼみ (擾乱か)。黄褐色土ブロックを少量含む。炭化・燒土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 (シルト) 径5mm以下の砂礫、炭化・燒土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 (やや粘土質) 黄褐色土・黒褐色土ブロックを少量含む。
- 4 雜黃褐色土 (やや粘土質) 暗褐色粒子を10%ほど含む。

溝状遺構

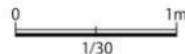
M. 359.500



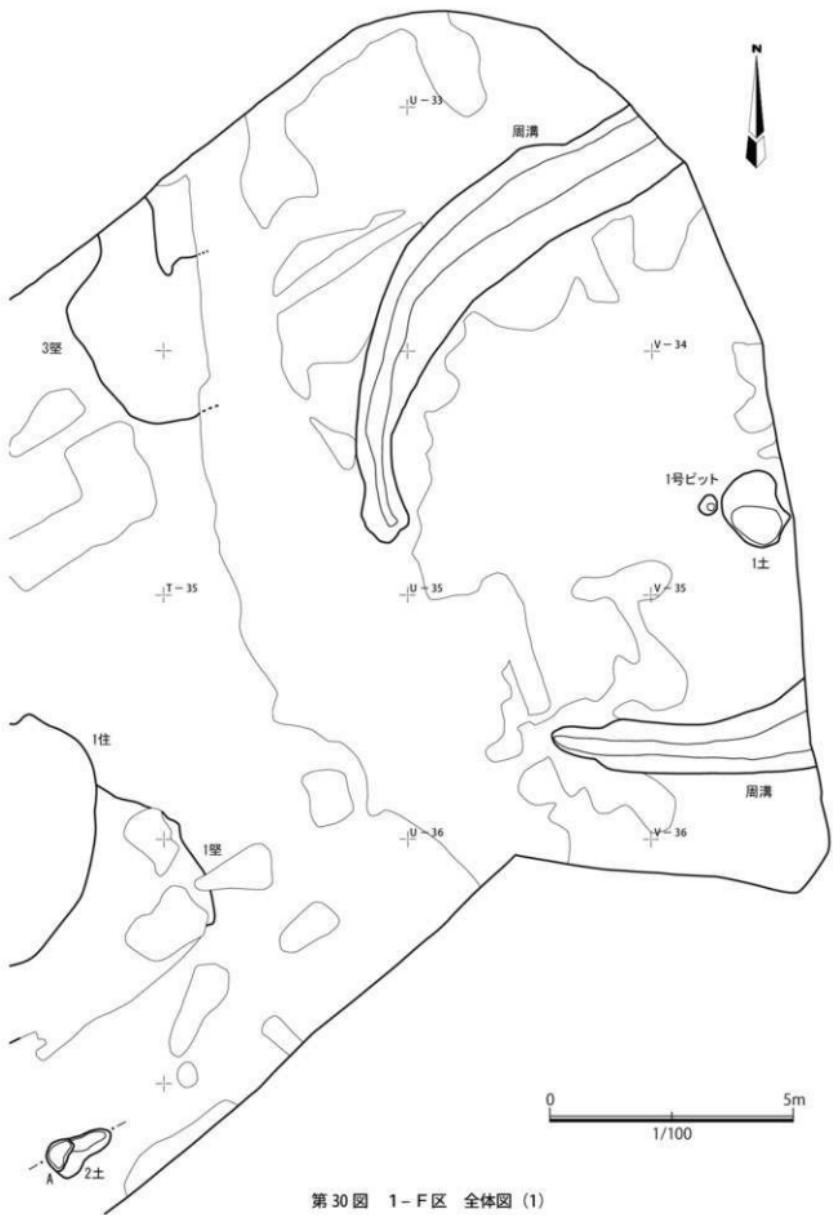
溝状遺構: 北西 (M) - 南東 (M')・北西 (N) - 南東 (N') 共通

- 1 雜褐色土 (シルト) 耕作土。ややしまり強。
- 2 暗褐色土 (シルト) 黄褐色土ブロックを30%ほど含む。
- 3 黄褐色土 (粘土) 地山。
- 4 黑褐色土 (シルト) 暗褐色土ブロックを20%ほど含む。
- 5 暗褐色土 (シルト) 黑褐色土・黄褐色土ブロックを20%ほど含む。
- 6 暗褐色土 (シルト) 黄褐色土ブロックを10%ほど含む。
- 7 黑褐色土 (シルト) 暗褐色土ブロックを10%ほど含む。

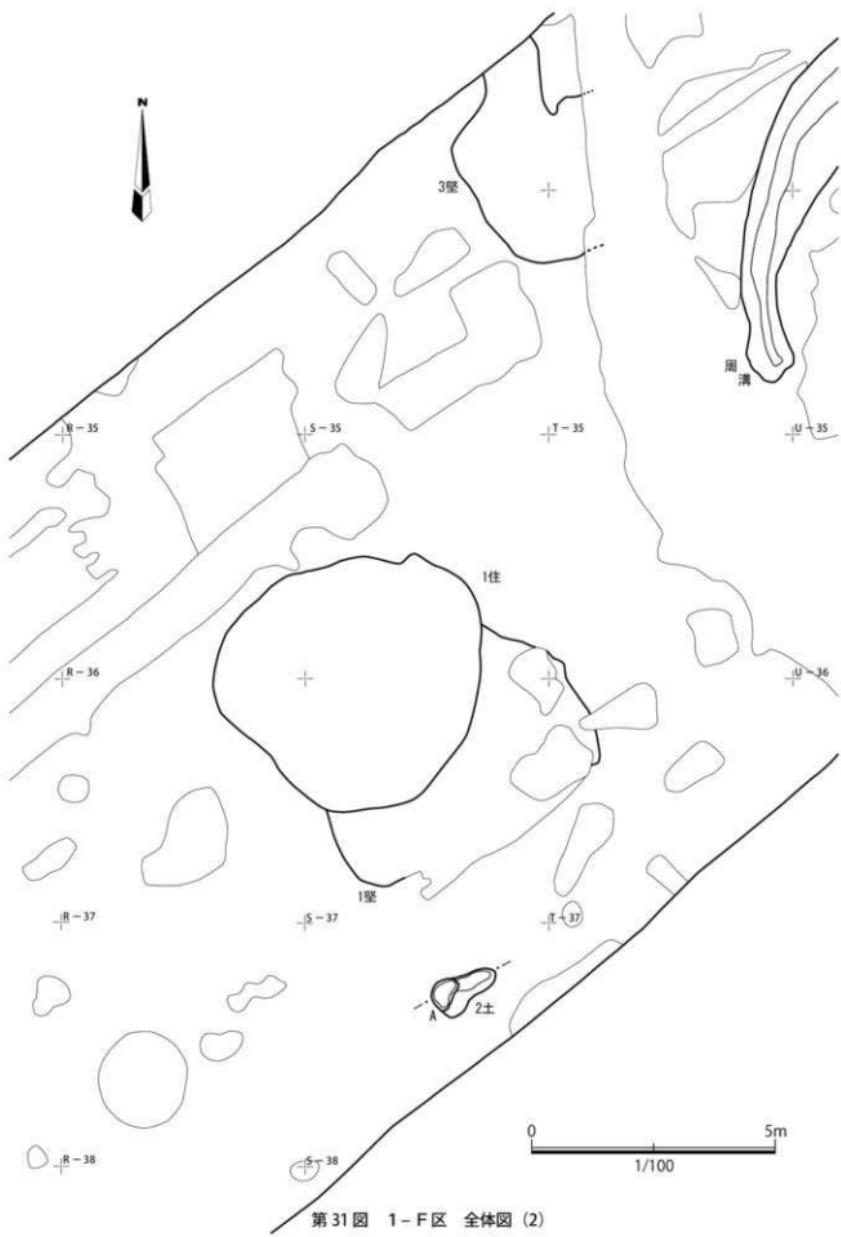
N. 359.500



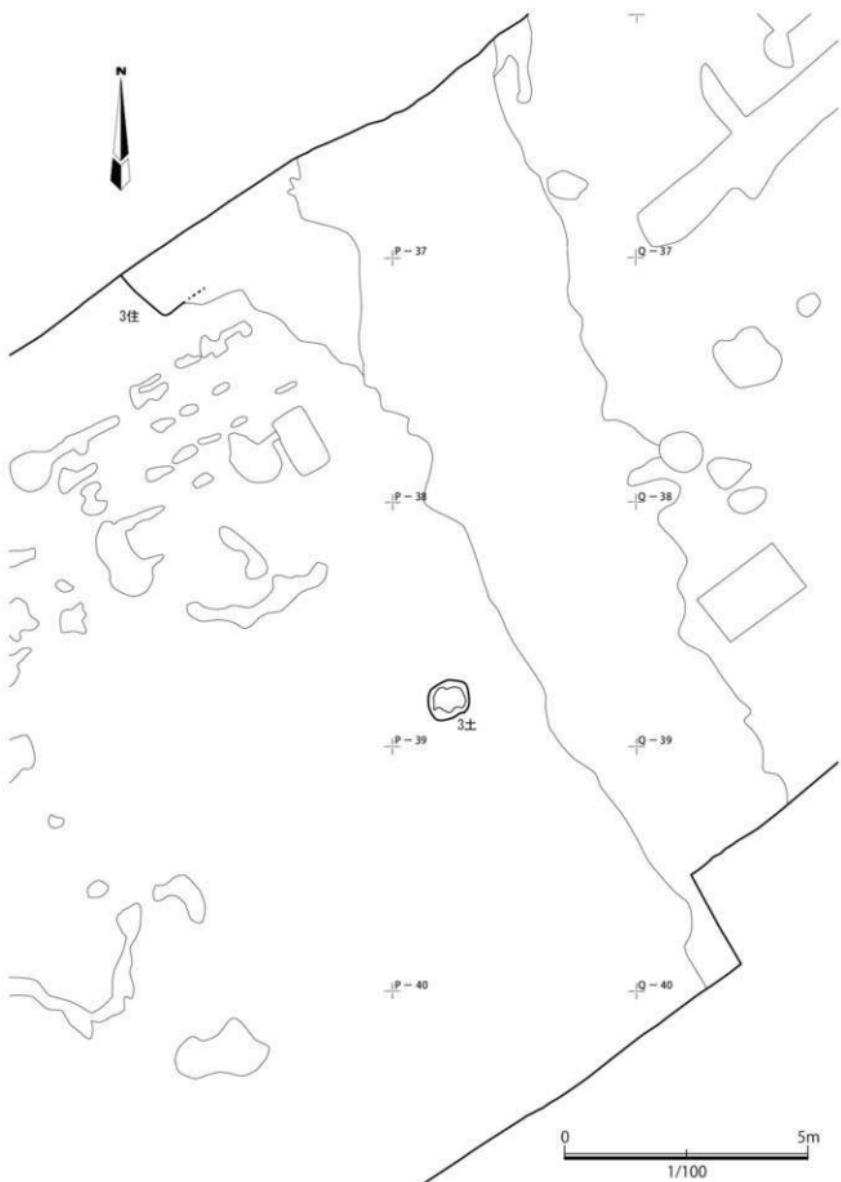
第29図 1-E区 集石土坑・溝状遺構



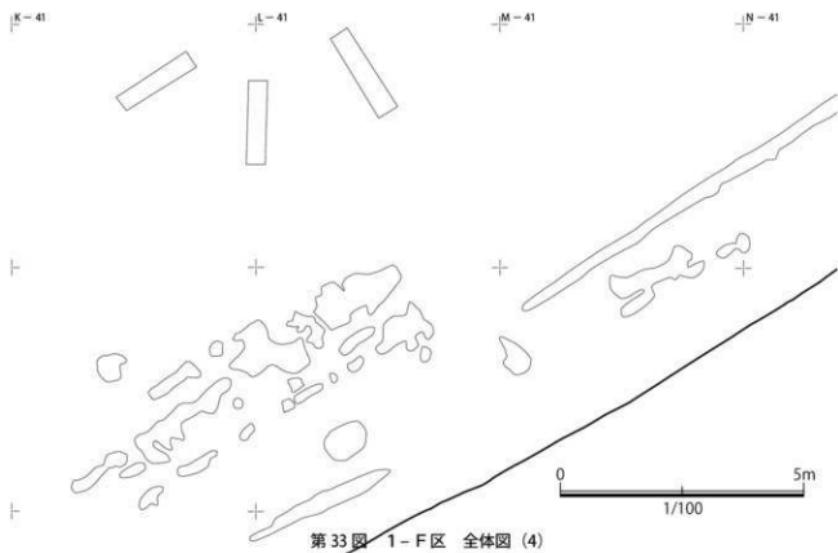
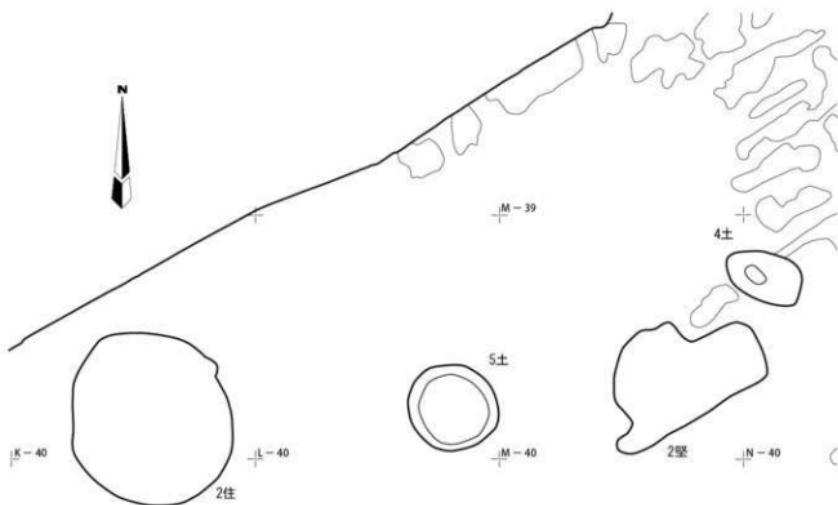
第30図 1-F区 全体図(1)



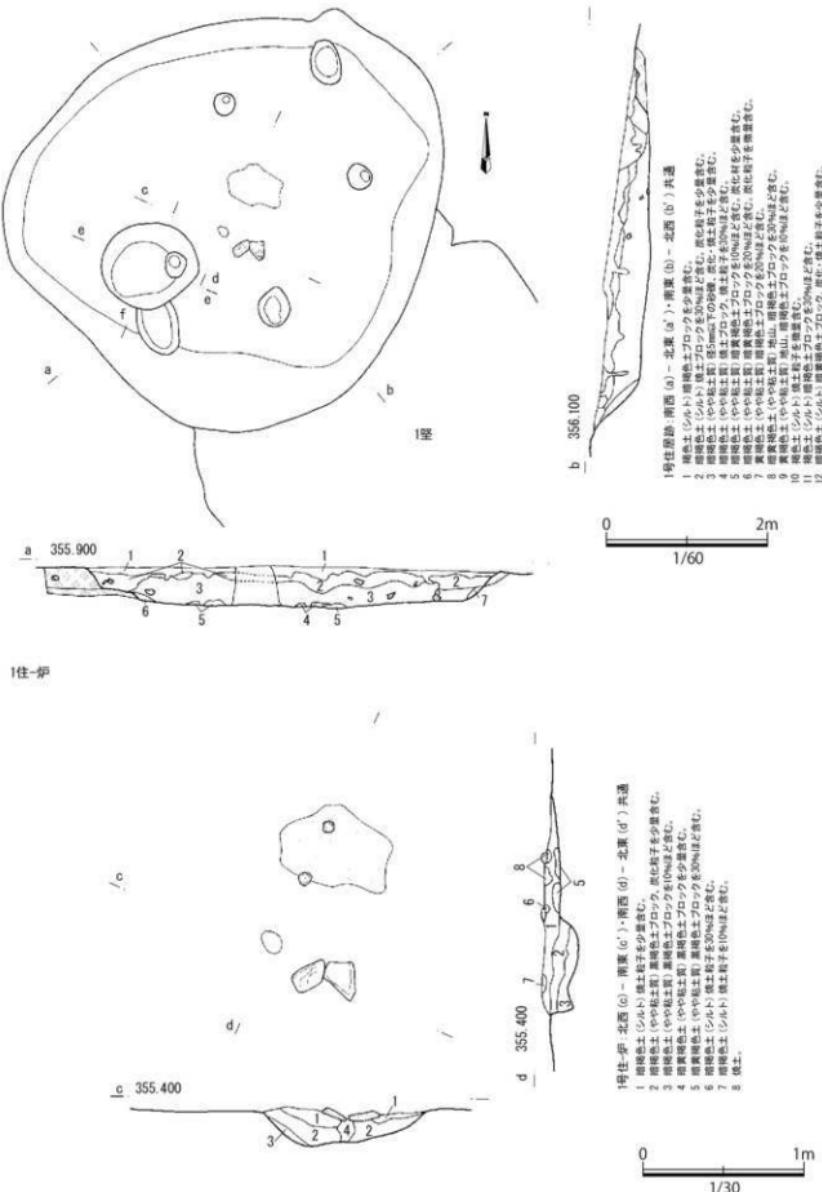
第31図 1-F区 全体図(2)



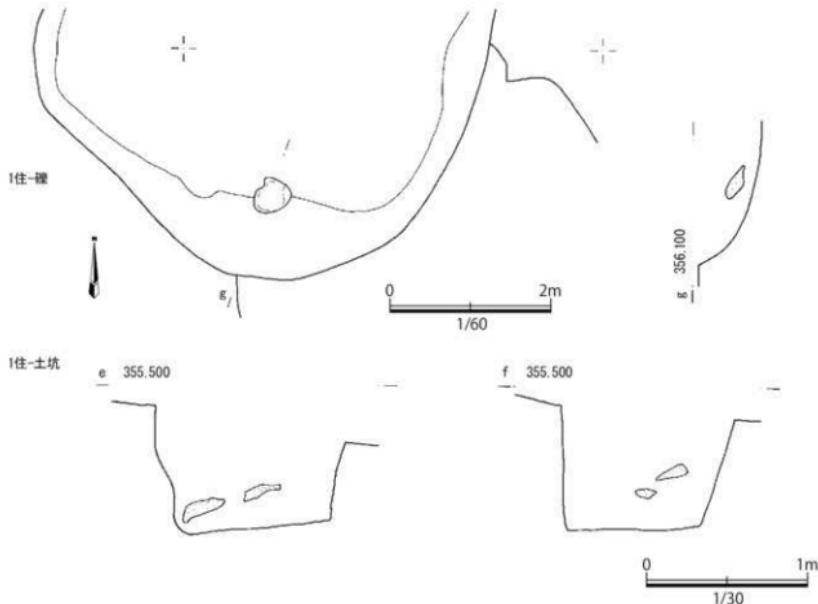
第32図 1-F区 全体図 (3)



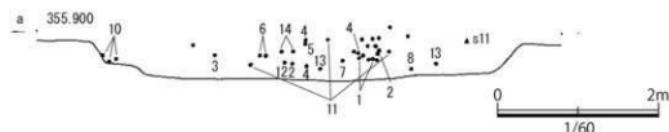
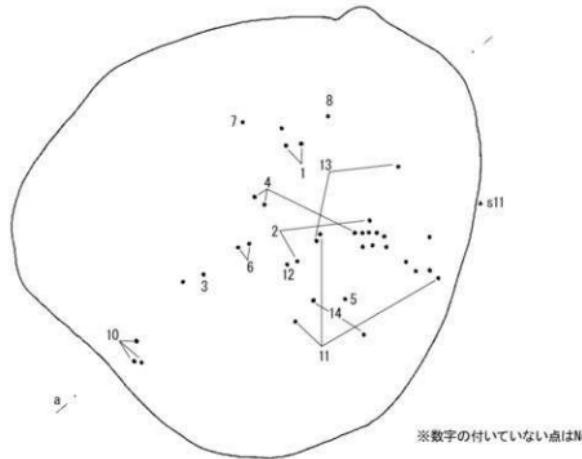
第33図 1-F区 全体図 (4)



第34図 1-F区 1号住跡 (1)

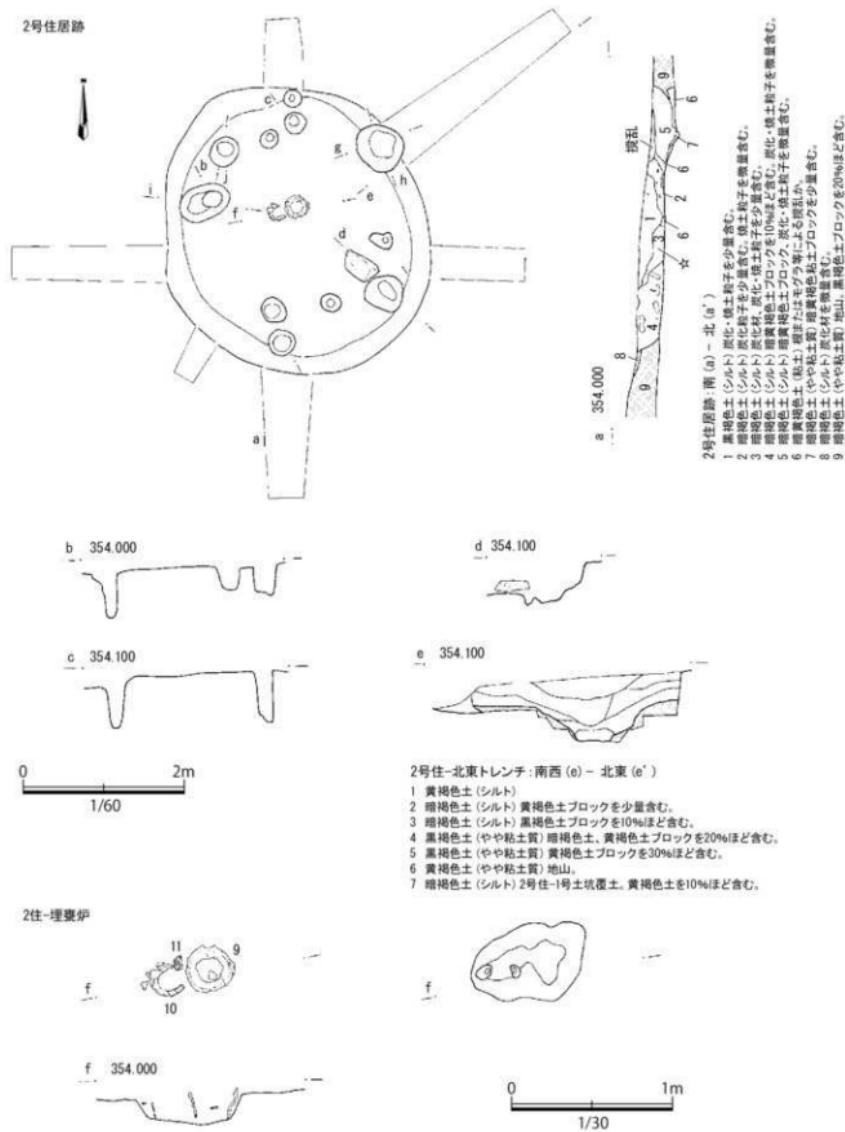


1住-遺物分布



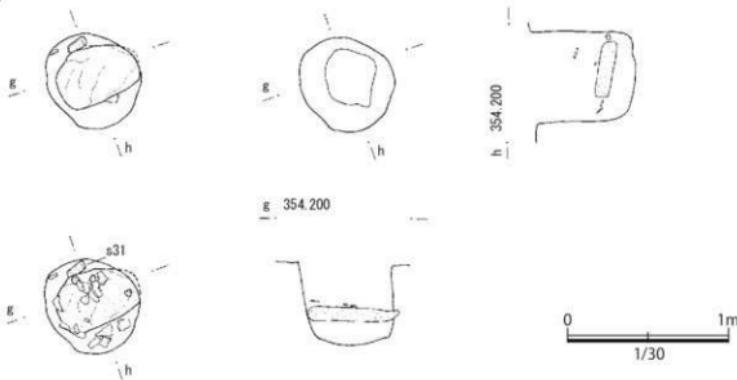
第35図 1-F区 1号住居跡 (2)

2号住居跡

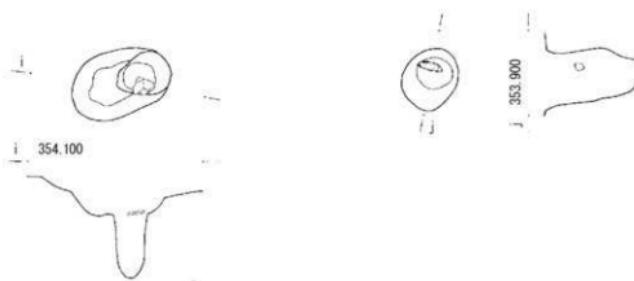


第36図 2号住居跡 (1)

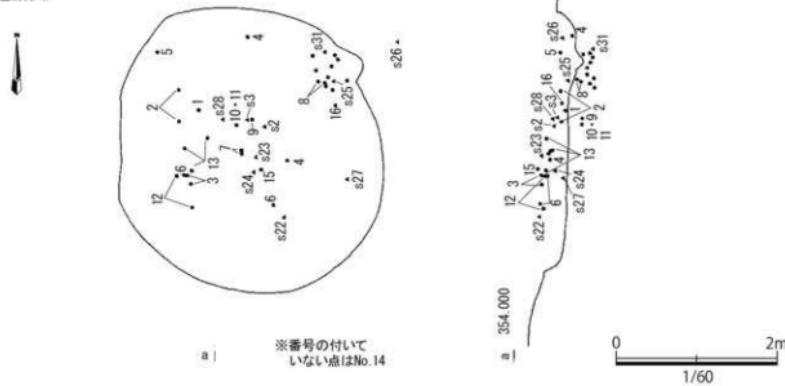
2住-土坑(縫)



2住-ピット

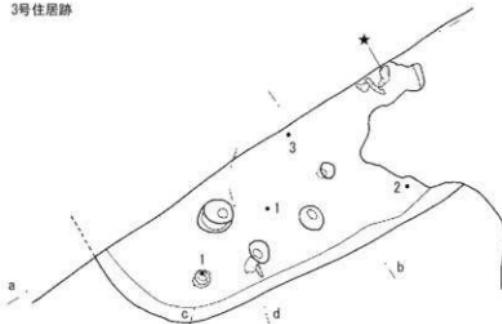


2住-遺物分布

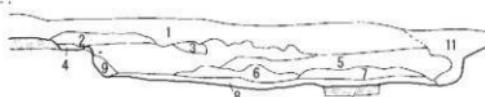


第37図 1-F区 2号住居跡 (2)

3号住居跡

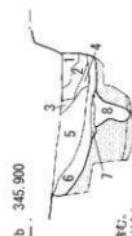


a 355.100



3号住居跡: 南西 (a) - 北東 (a')

- 1 黒褐色土 (シルト) 踏作土。
- 2 黒褐色土 (シルト) 黒褐色土 (踏作土) ブロックを10%ほど含む。
- 3 黒褐色土 (シルト) 黑褐色土 (踏作土)・黒褐色土ブロックを少量含む。
- 4 黑褐色土 (シルト) 棕褐色粗砂を10%ほど含む。褐色土ブロックを少量含む。
- 5 黑褐色土 (シルト) 棕褐色粗砂を少量含む。
- 6 棕褐色土 (やや粘土質) 黑褐色土粒子を少量含む。
- 7 棕褐色土 (やや砂質) 棕褐色粗砂を20%ほど含む。
- 8 黑褐色土 (シルト) 活化灰、炭化粒子を少量含む。燒土粒子を微量含む。
- 9 黑褐色土 (シルト) 棕褐色土 (地山) ブロックを20%ほど含む。
- 10 棕褐色土 (やや粘土質) 地山。
- 11 棕褐色土 (シルト) 踏作土、棍乱。



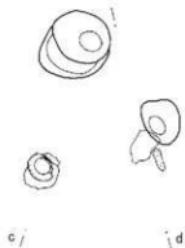
b 345.900

3号住居跡: 南東 (b) - 北西 (b')

- 1 黒褐色土 (シルト) 棕褐色砂を10%ほど含む。
- 2 黑褐色土 (シルト) 棕褐色砂を20%ほど含む。
- 3 黑褐色土 (やや砂質) 棕褐色粗砂を20%ほど含む。
- 4 黑褐色土 (シルト) 燃焼物の骨を微量含む。
- 5 黑褐色土 (シルト) 燃焼物の骨を少量化。
- 6 黑褐色土 (シルト) 燃焼物の骨を少量化。
- 7 黑褐色土 (やや粘土質) 黑褐色土ブロック、炭化灰を微量含む。
- 8 黑褐色土 (やや粘土質) 黑褐色土ブロック、炭化灰を微量含む。
- 9 黑褐色土 (粘土質) 地山。
- 10 黑褐色土 (粘土) 地山。

0 2m
1/60

3号-遺物・ビット



3号-焼土



c 354.500

d 354.900

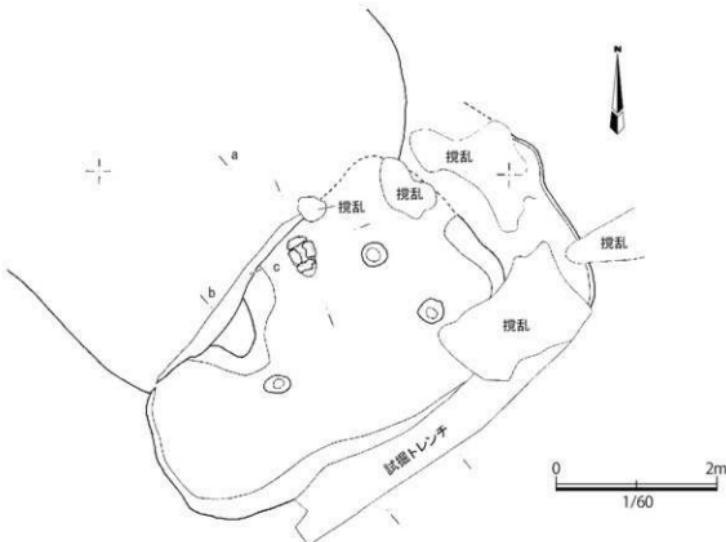
3号-焼土: 南東 (d) - 北西 (d')

- 1 黑褐色土 (シルト) 燃化土質を少量含む。
- 2 黑褐色土 (やや粘土質) 地山か、黑褐色土ブロックを少量含む。

0 1m
1/30

第38図 3号住居跡

1号竪穴状遺構



b 366.500

a 366.500

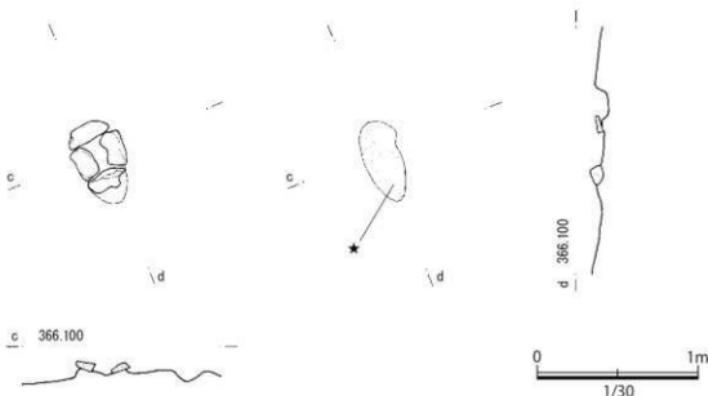
2m

1号竪穴状遺溝: 北西 (a) - 南東 (a')

- 1 黒褐色土 (シルト) 暗褐色土ブロックを30%ほど含む。
- 2 黒褐色土 (シルト) 燐土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 (シルト) 黒褐色土を少量含む。
- 4 暗褐色土 (シルト) 黒褐色土を30%ほど含む。炭化・焼土粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 (シルト) 暗褐色土を10%ほど含む。
- 6 黒褐色土 (シルト) 燐土粒子を10%ほど含む。

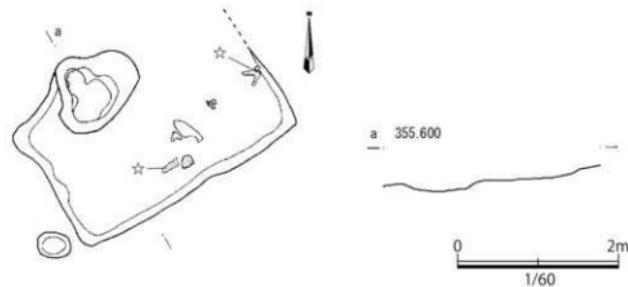
- 7 暗褐色土 (シルト) 黒褐色土を20%ほど含む。炭化材・焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 (シルト) しまりやや弱。1号住居跡の覆土か。
- 9 暗褐色土 (シルト) 試掘トレンチ。
- 10 暗褐色土 (シルト) 黒褐色土を20%ほど含む。
- 11 褐色土 (シルト) 暗褐色土ブロックを10%ほど含む。1号住居跡の覆土か。
- 12 褐色土 (シルト) 地山。

1号竪穴・壁

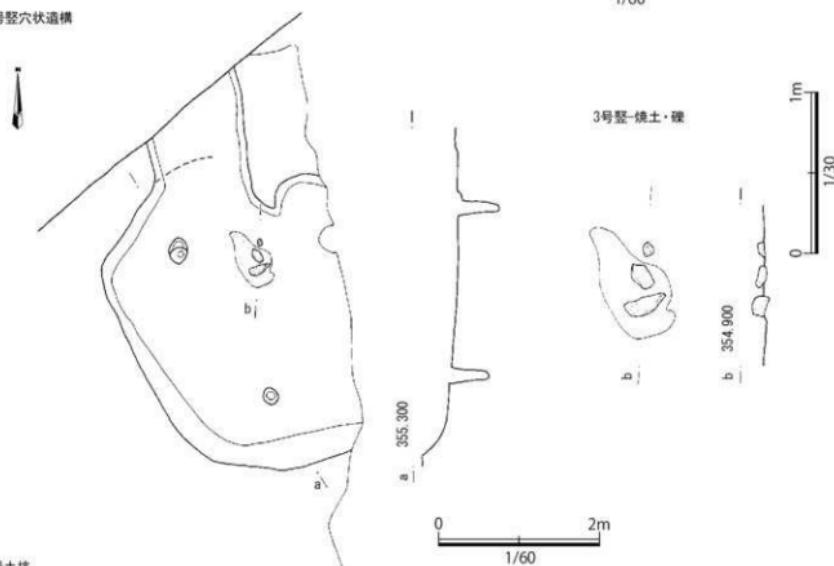


第39図 1-F区 1号竪穴状遺構

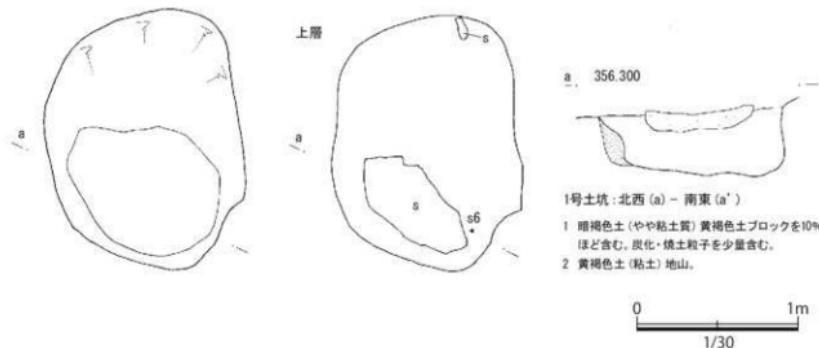
2号竪穴状遺構



3号竪穴状遺構



1号土坑



第40図 1-F区 2・3号竪穴状遺構・1号土坑

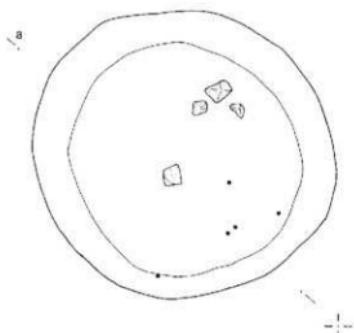
2号土坑



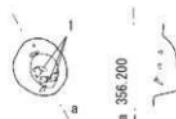
4号土坑



5号土坑

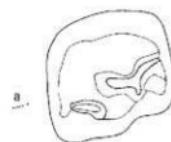


1号ビット



3号土坑

上層



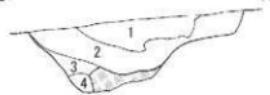
3号土坑：南西(a) - 北東(a')

- 1 線褐色土(シルト)炭化粒子を微量含む。
- 2 線黄色褐色土(粘土)線褐色土ブロックを10%ほど含む。
- 3 線黄色褐色土(粘土)地山。黒褐色土ブロックを少量含む。

3号土坑：355.900



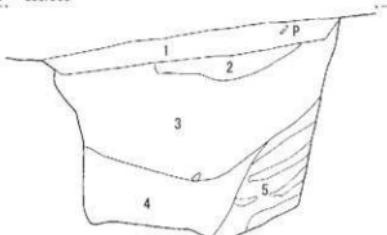
a. 355.800



4号土坑：北西(a) - 南東(a')

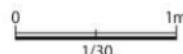
- 1 線黄色褐色土(やや粘土質)燒土粒子を少量含む。
- 2 線褐色土(シルト)炭化粒子を少量含む。
- 3 線褐色土(シルト)線黄色褐色土ブロックを少量含む。
- 4 線褐色土(シルト)線黄色褐色土ブロックを10%ほど含む。しまり弱。
- 5 線黄色褐色土(粘土)地山。

a. 355.000

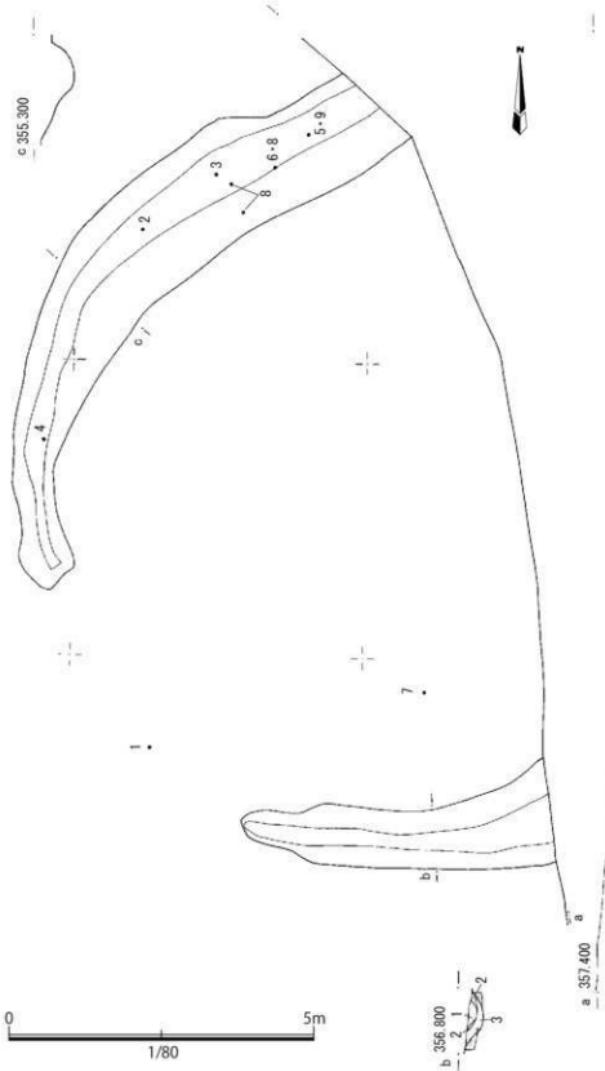


5号土坑：北西(a) - 南東(a')

- 1 線褐色土(シルト)炭化粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土(やや粘土質)黃褐色土ブロックを少量含む。
- 3 線褐色土(やや粘土質)黃褐色土ブロックを少量含む。炭化粒子を微量含む。
- 4 線褐色土(やや粘土質)黒褐色土ブロックを20%ほど含む。炭化粒子を微量含む。
- 5 線褐色土(やや粘土質)黒褐色土ブロックが帯状に混ざる。



第41図 1-F区 2～5号土坑・1号ビット



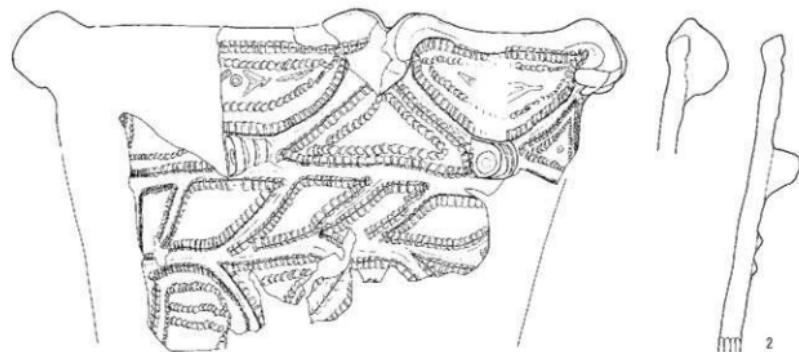
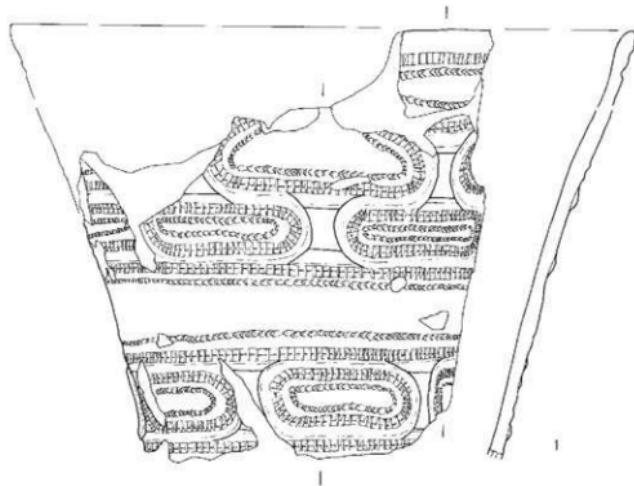
第42図 1-F区 周溝

固溝・南東(a) - 北西(b)

- 1 黄褐色土(シルト) 黄褐色土ブロックを少量含む。しかし弱。
- 2 黄褐色土(シルト) 黄褐色土を40%ほど含む。
- 3 黄褐色土(シルト) 黄褐色土を10%ほど含む。
- 4 黄褐色土(シルト) 黄褐色土ブロック、径5-20mmの砂を20%ほど含む。
- 5 黄褐色土(やや粘土質) 地山。

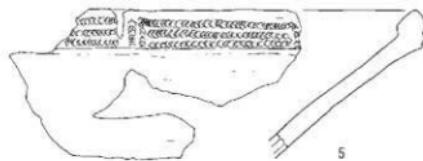
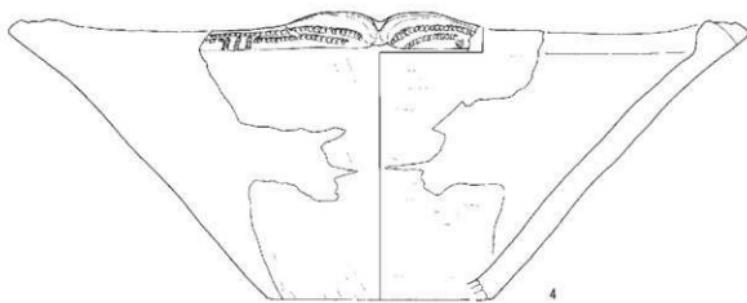
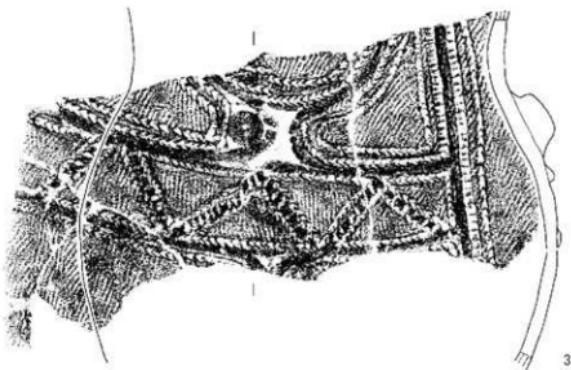
固溝・南東(a) - 北西(b)

- 6 黄褐色土(シルト) 黄褐色土ブロックを含む。
- 7 黄褐色土(シルト) 所在。黄褐色土ブロックを約30%ほど含む。
- 8 黄褐色土(やや粘土質) 黄褐色土ブロックを20%ほど含む。
- 9 黄褐色土(やや粘土質) 黄褐色土ブロックを含む。
- 10 黄褐色土(やや粘土質) 地山。



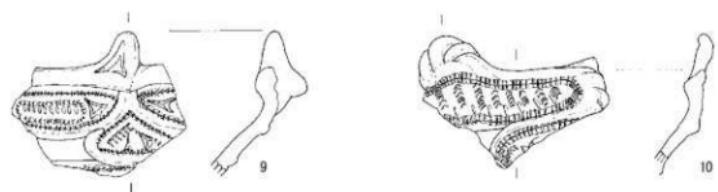
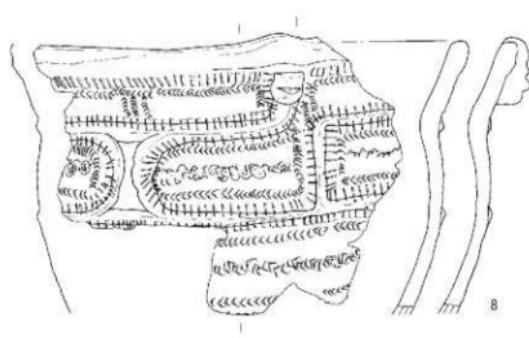
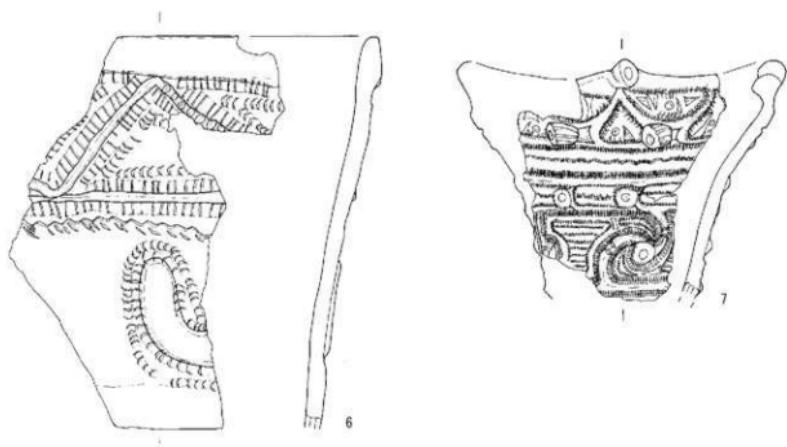
0 10cm
1/3

第43図 1-D区 1号住居跡 (1)



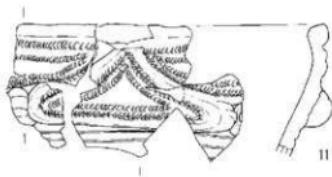
0 10cm
1/3

第44図 1-D区 1号住居跡 (2)

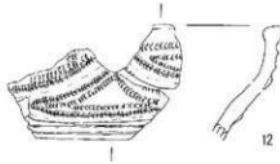


0
10cm
1/3

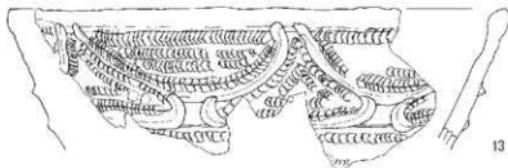
第45図 1-D区 1号住居跡 (3)



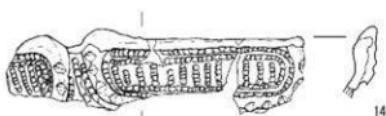
11



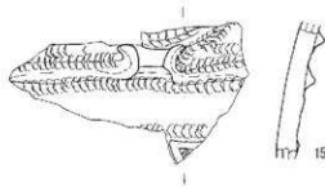
12



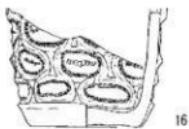
13



14



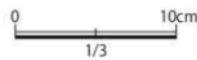
15



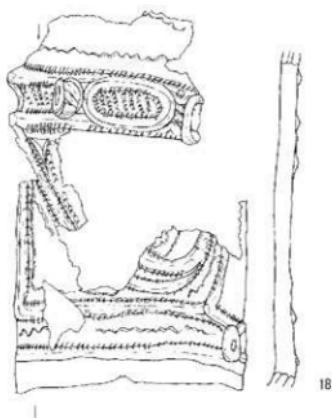
16



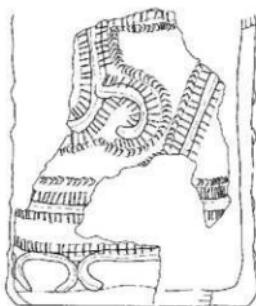
17



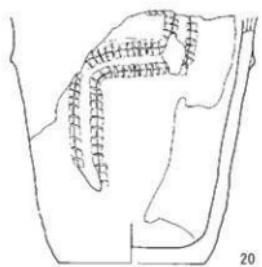
第46図 1-D区 1号住居跡 (4)



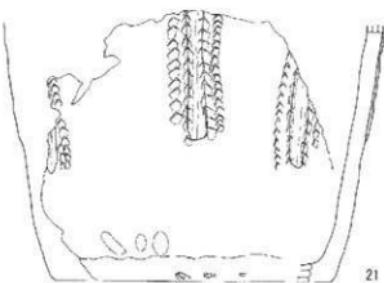
18



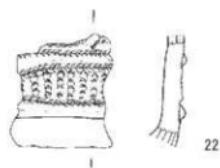
19



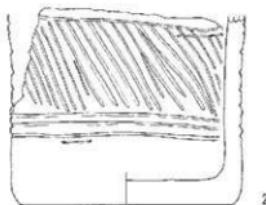
20



21



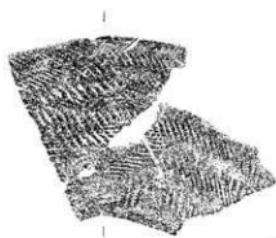
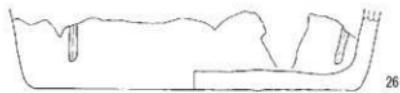
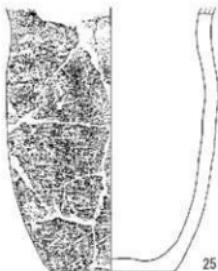
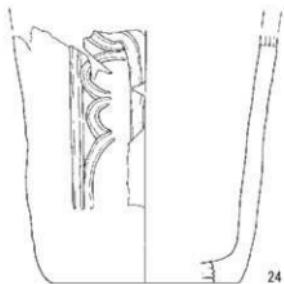
22



23

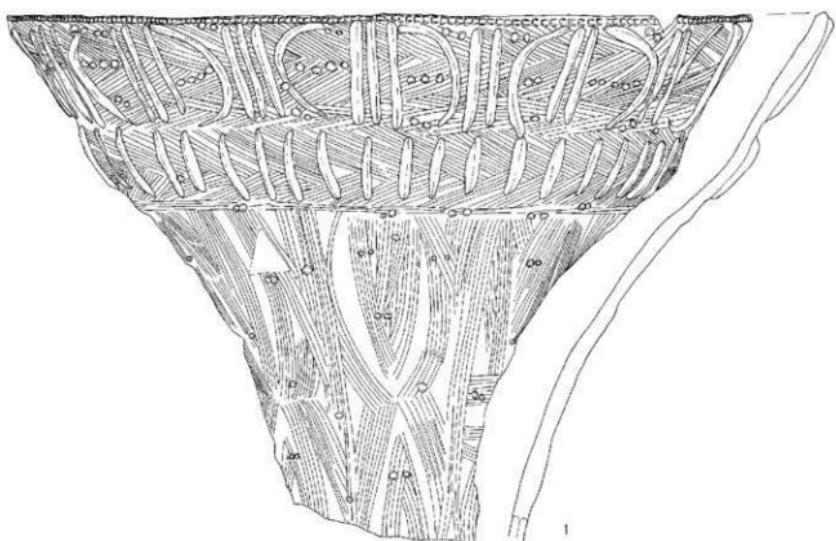
0 10cm
1/3

第47図 1-D区 1号住居跡(5)

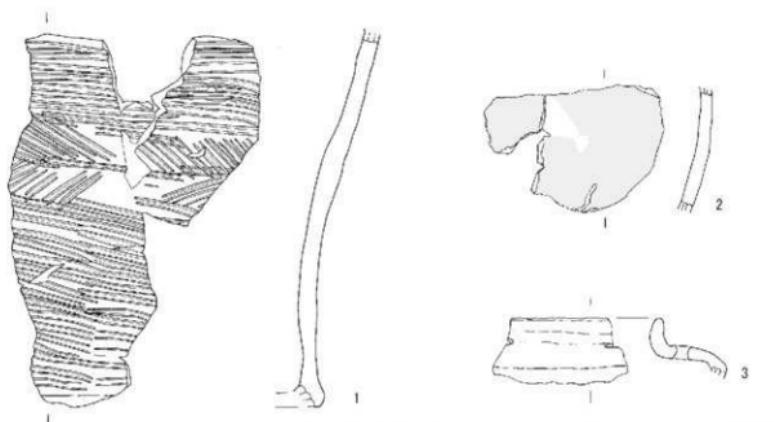


0 10cm
1/3

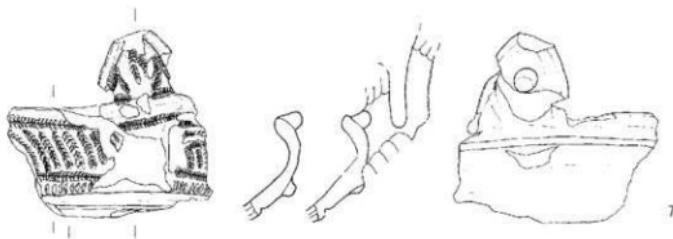
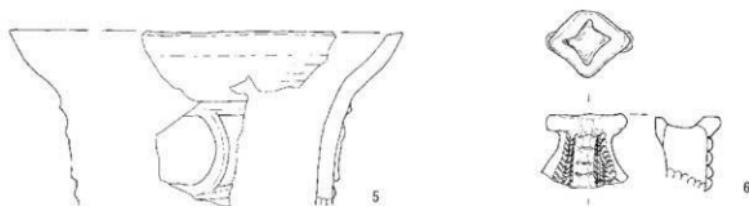
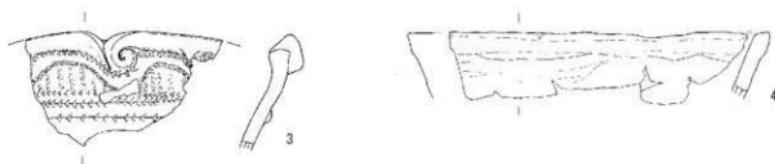
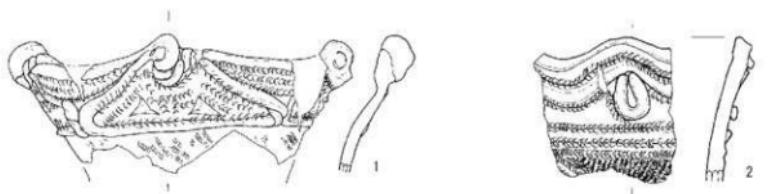
第48図 1-D区 1号住居跡 (6)



1-D区 7号土坑

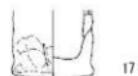
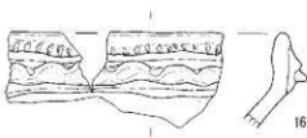
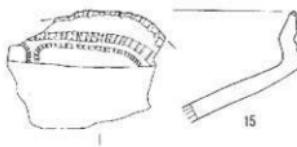
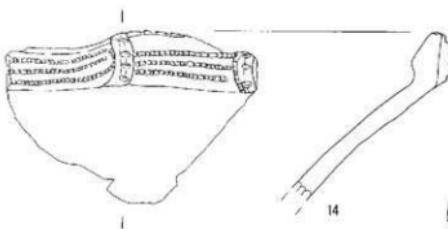
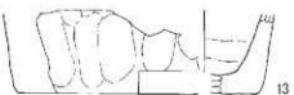
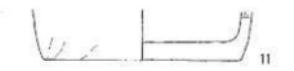
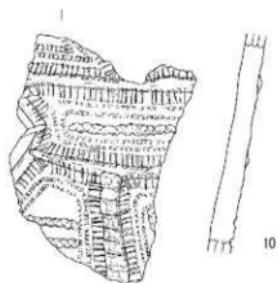
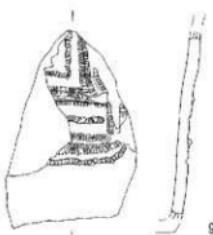
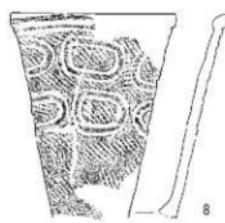


第49図 1-D区 7・8号土坑



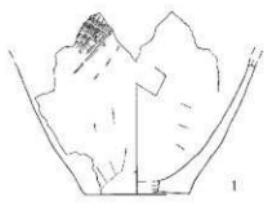
0 10cm
1/3

第50図 1-E区 1号住居跡(1)

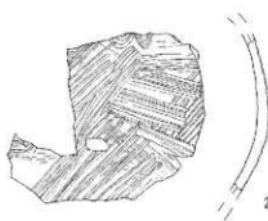


0 10cm
1/3

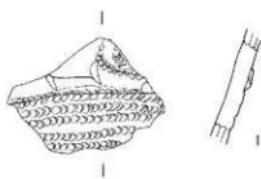
第51図 1-E区 1号住居跡 (2)



1-E区 1号竖穴状遗構



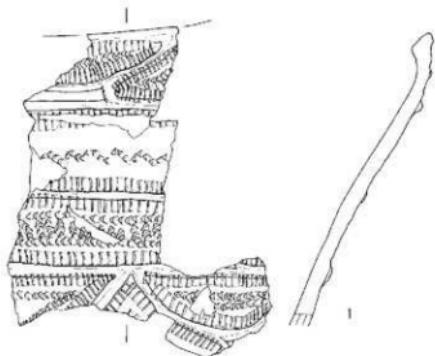
1-E区 2号竖穴状遗構



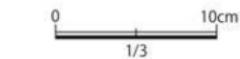
1-E区 3号土坑



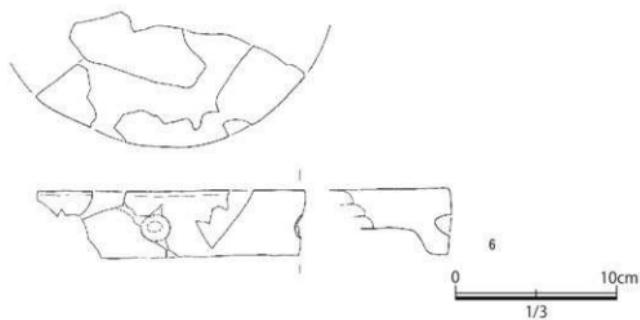
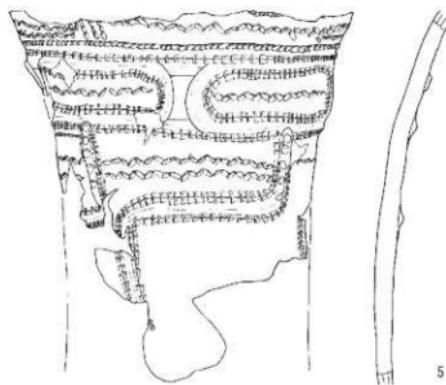
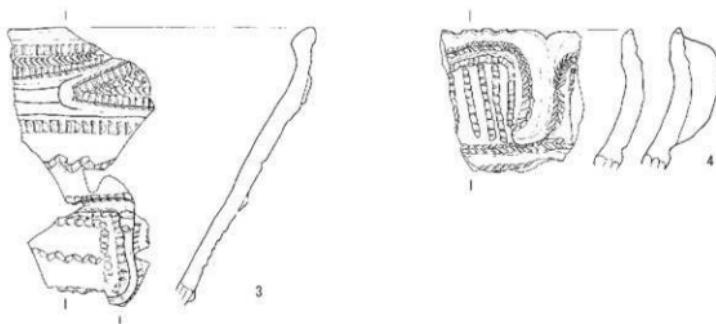
1-E区 4号土坑



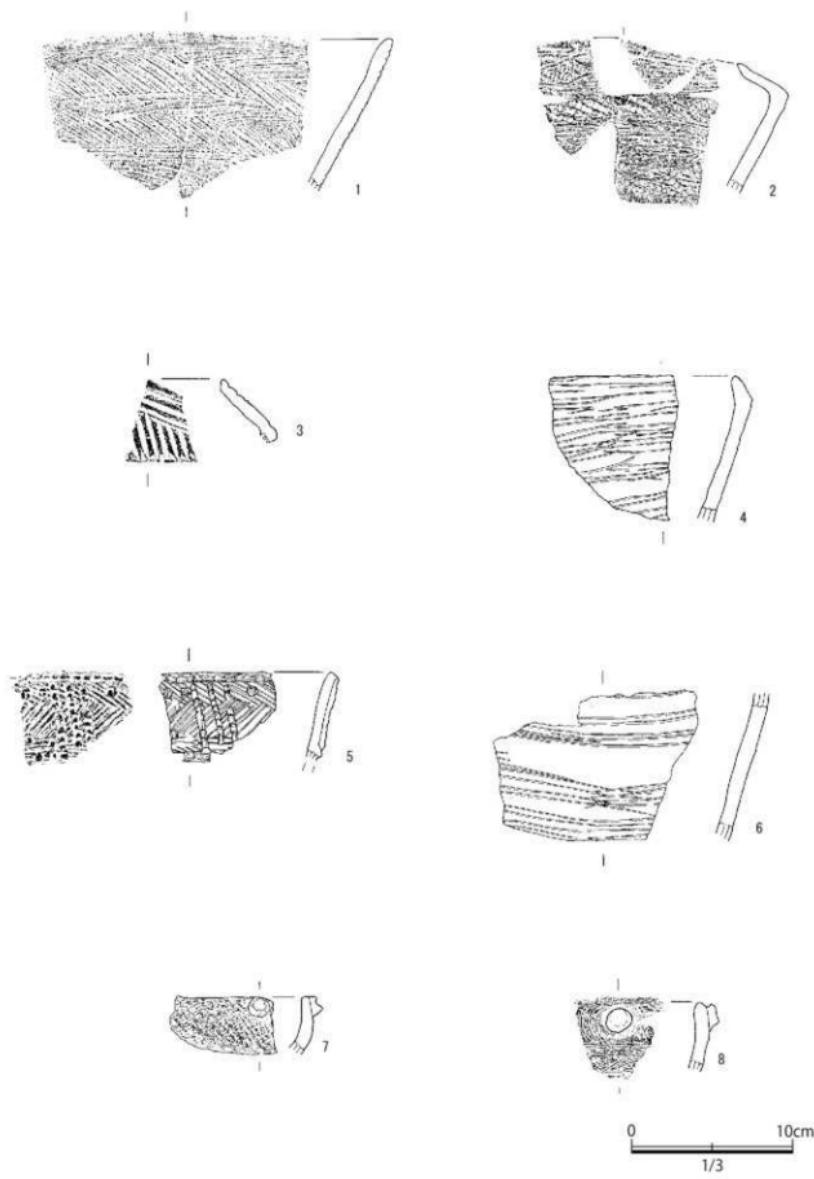
1-E区 12号土坑 (1)



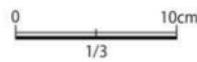
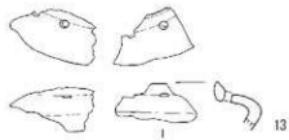
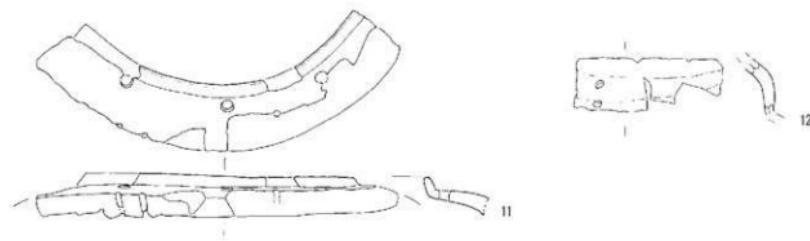
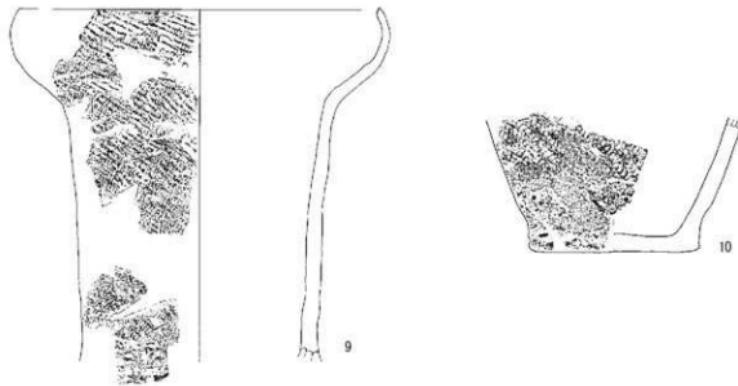
第52図 1-E区 1・2号竖穴状遗構、3・4号土坑、12号土坑 (1)



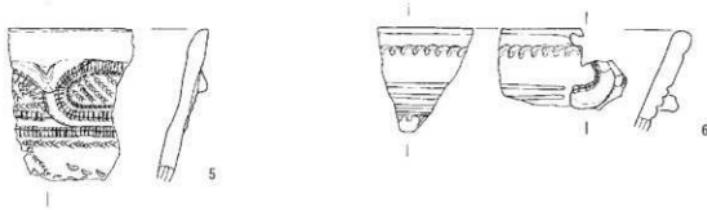
第53図 1-E区 12号土坑 (2)



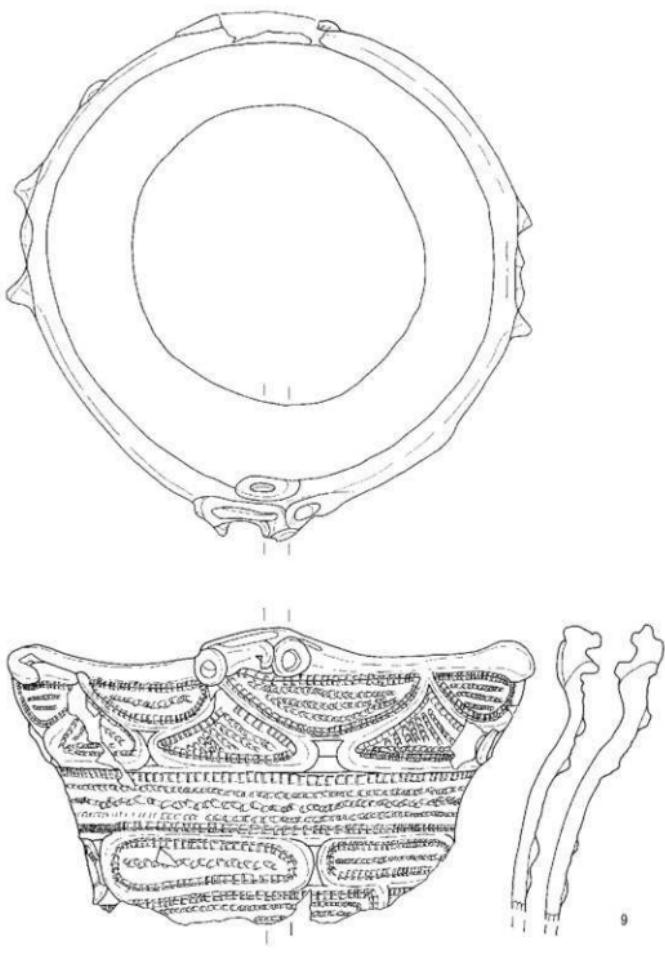
第 54 図 1-F 区 1号住居跡 (1)



第 55 図 1-F 区 1号住居跡 (2)

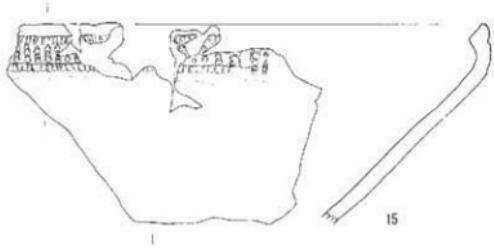
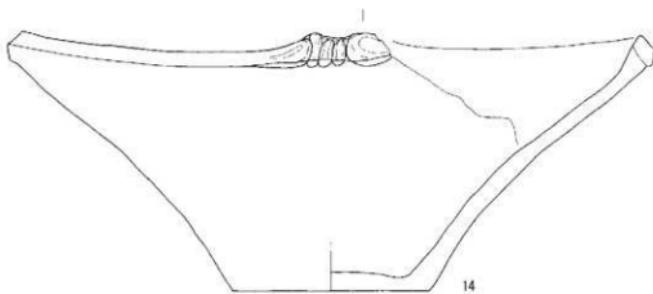
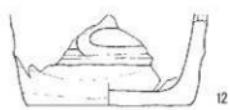
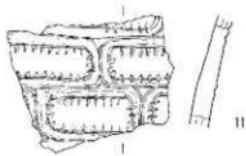
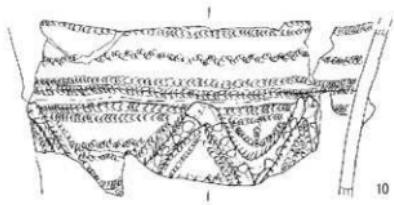


第 56 図 1-F 区 2号住居跡 (1)



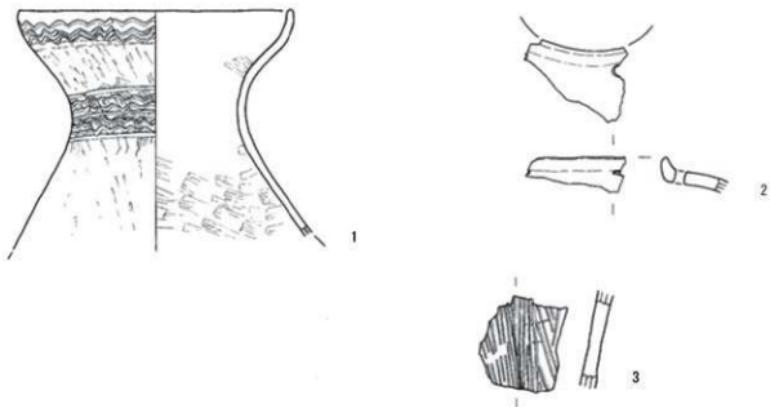
0
1/3 10cm

第57図 1-F区 2号住居跡(2)

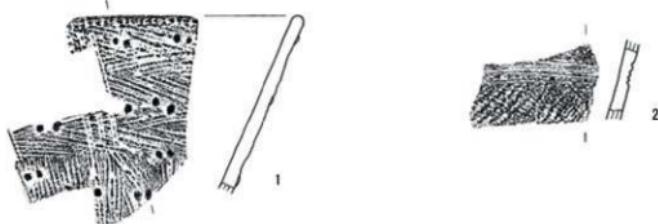


0 10cm
1/3

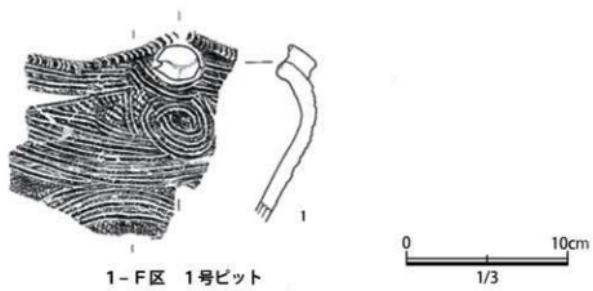
第58図 1-F区 2号住居跡(3)



1 - F 区 3号住居跡

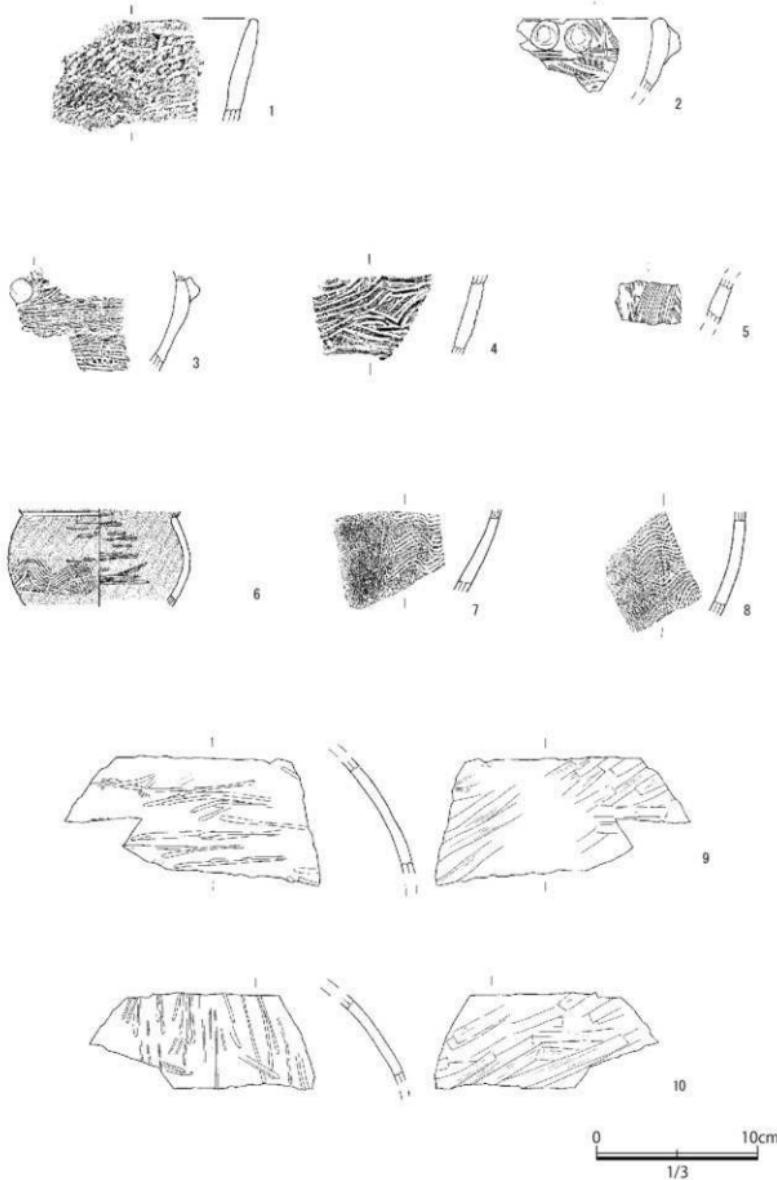


1 - F 区 5号土坑

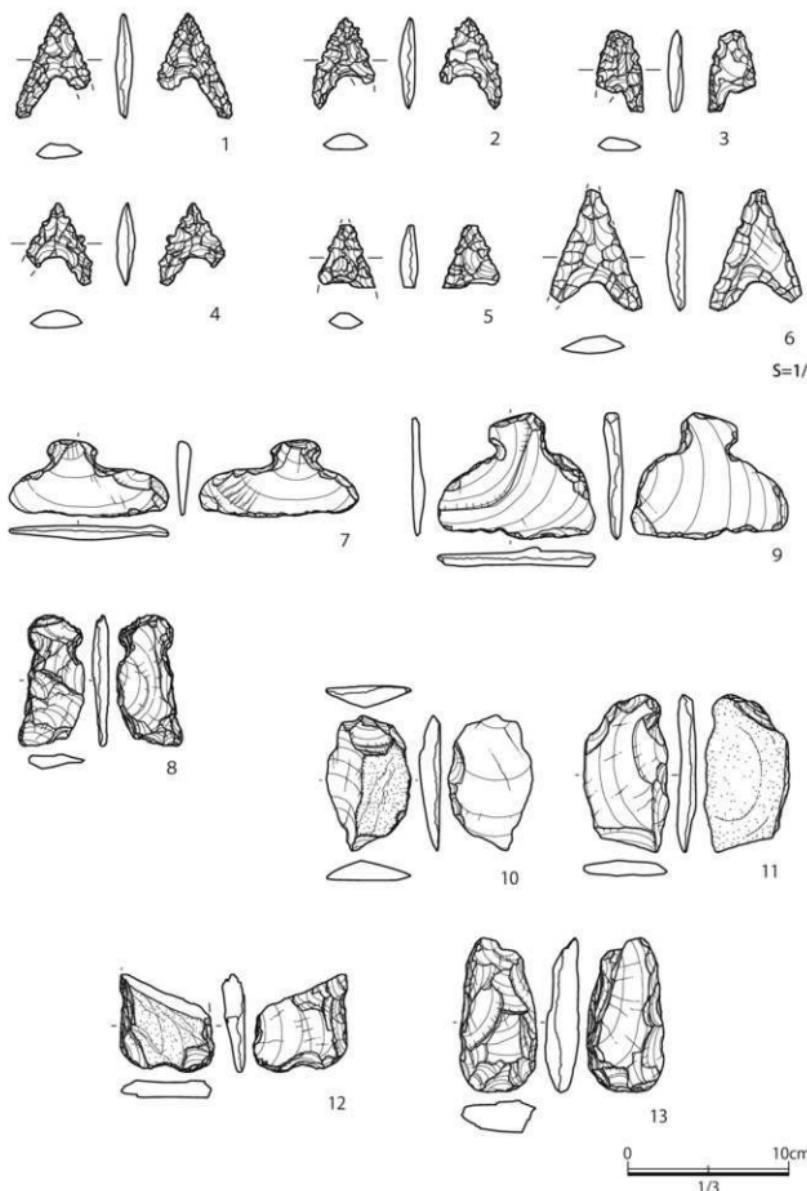


1 - F 区 1号ピット

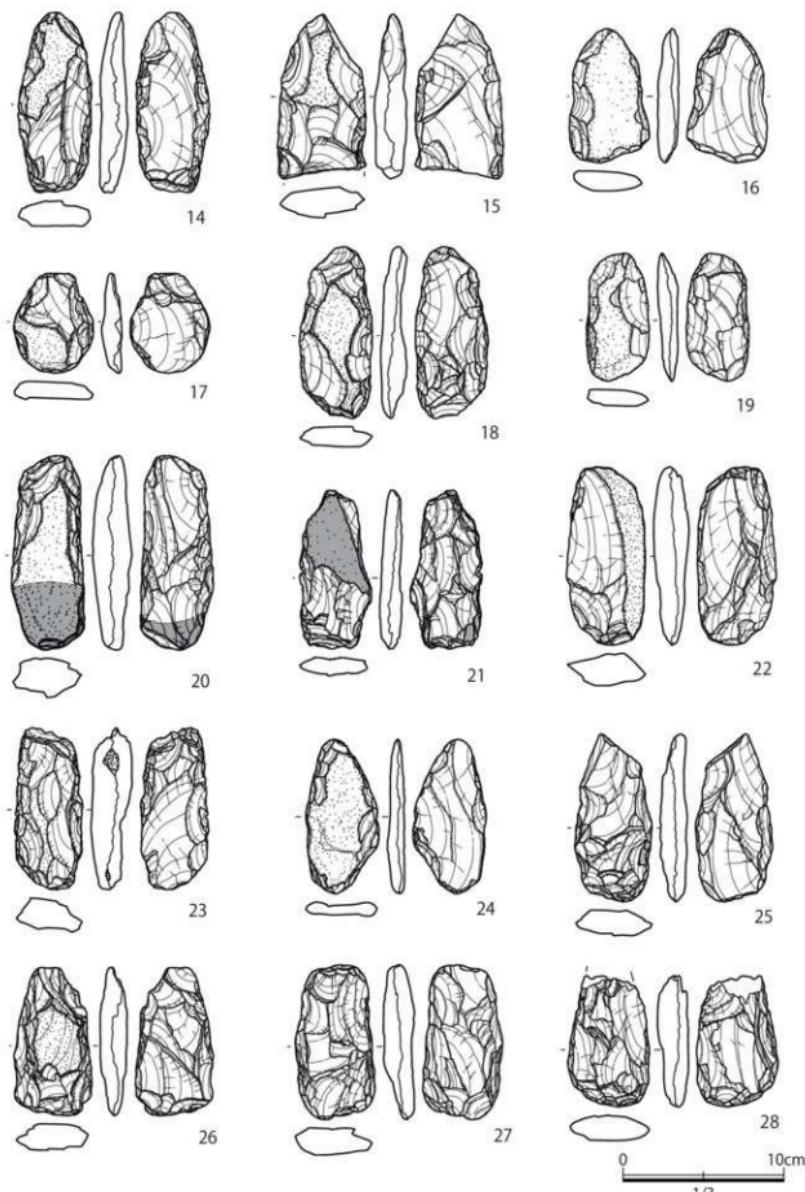
第 59 図 1 - F 区 3号住居跡、5号土坑、1号ピット



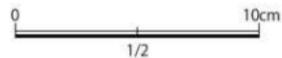
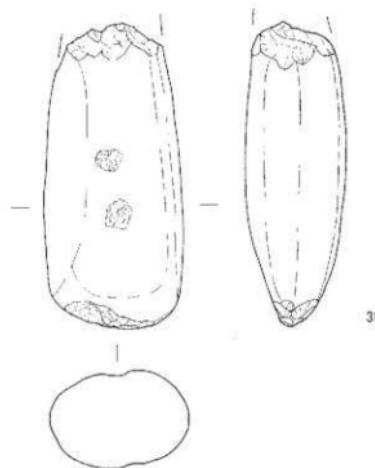
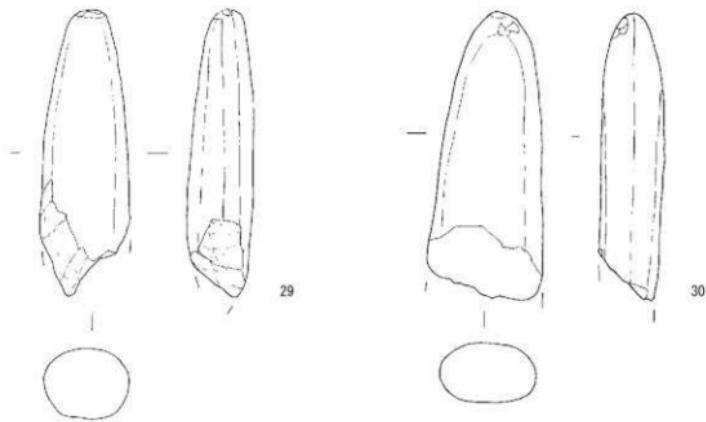
第60図 1-F区 周溝



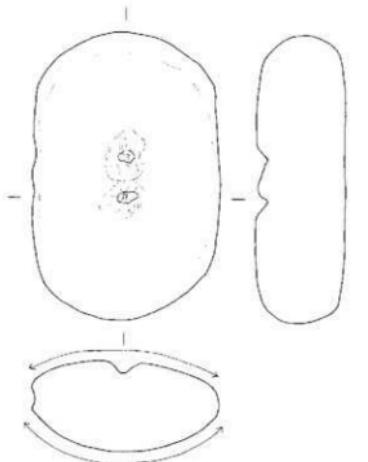
第61図 石鏃・石匙・削器・打製石斧 (1:1-E区1号住居跡、2~5:1-F区2号住居跡、6:1-F区1号土坑、7・8:1-D区1号住居跡、9:1-E区1号住居跡、10:1-D区1号住居跡、11:1-F区1号住居跡、12・13:1-D区1号住居跡)



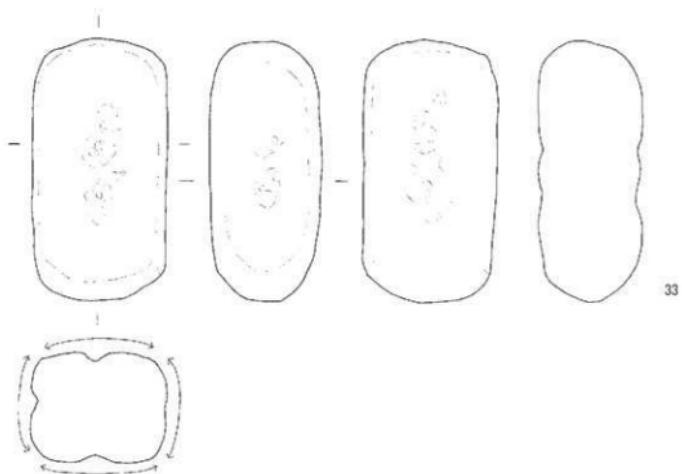
第62図 打製石斧 (14～19:1- D区1号住居跡、20:1- E区1号住居跡、21:1- E区J-44 グリッド、22～28:1- F区2号住居跡)



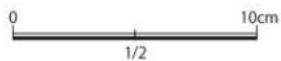
第63図 磨製石斧 (29・30: 1-E区1号住居跡、31: 1-F区2号住居跡)



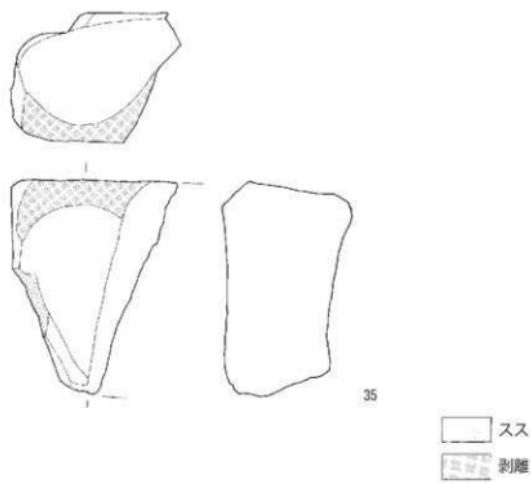
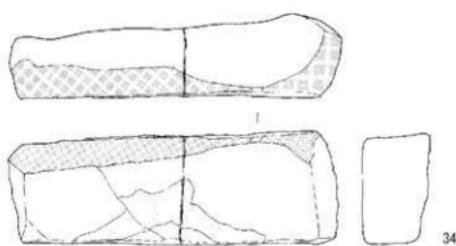
32



33



第 64 図 クボミ石 (32: 1 - D区 1号住居跡、33: 1 - E区 1号住居跡)



0 20cm
1/6

第65図 石圓い炉礫 (1-D区 1号住居跡)

第1表 土坑・ピット一覧表

調査区	遺構名	位置(グリッド)	平面形	断面	長軸m	短軸m	深さm	時期	備考
1-B区	1号土坑	N-57	楕円形	すり鉢状	1.06	0.81	0.27	—	
1-B区	2号土坑	N-57・58	不整形	袋状	1.11	0.89	0.63	現代	ビンが出土
1-B区	3号土坑	N-58	楕円形	袋状	0.96	0.75	0.43	—	
1-B区	4号土坑	N-57	不整円形	袋状	1.34	1.14	0.59	—	
1-B区	5号土坑	L-56	不整形	不整	0.94	0.65	0.44	—	
1-B区	6号土坑	K-55	不整円形	すり鉢状	0.92	0.65	0.26	—	
1-B区	7号土坑	K-56	円形	箱形	0.74	0.71	0.17	—	
1-B区	8号土坑	K-55	楕円形	箱形	1.17	0.76	0.3	—	
1-B区	集石土坑	K・L-55・56	不整円形	すり鉢状	1.53	1.43	0.74	縄文前期・中期	
1-C区	1号土坑	T-52	円形	箱形	1.51	1.34	0.66	—	
1-C区	2号土坑	S-52・53	楕円形	箱形	1.3	1.08	0.53	—	
1-D区	1号土坑	W-43・44	楕円形	袋状	0.97	0.83	0.29	現代	ビンが出土
1-D区	2号土坑	V-43	不整形	箱形	1.88	1.4	0.28	—	
1-D区	3号土坑	U-44	不整形	不整	(2.2)	—	0.67	—	
1-D区	4号土坑	T・U-43	不整形	すり鉢状	2.48	—	(0.66)	—	
1-D区	5号土坑	T-43	円形	すり鉢状	(1.31)	—	0.2	—	
1-D区	6号土坑	R・S-45	不整形	不整	4.2	3.3	0.84	縄文中期	頭倒木か
1-D区	7号土坑	R-46	楕円形	箱形	1.12	0.86	0.38	縄文前期	
1-D区	8号土坑	R-46・47	不整円形	箱形	1.42	1.35	0.41	縄文前期	
1-D区	9号土坑	R・S-48	不整円形	不整	2.29	1.93	0.3	—	
1-D区	10号土坑	S-48	不整円形	不整	1.69	1.61	0.33	—	
1-D区	11号土坑	P-49	楕円形	すり鉢状	0.85	0.58	0.37	—	
1-D区	12号土坑	P-49	円形	U字形	0.77	0.76	0.26	—	
1-D区	13号土坑	P-50	不整形	すり鉢状	1.14	0.62	0.39	—	
1-D区	14号土坑	Q-51	不整形	箱形	1.64	1.03	0.05	—	
1-D区	15号土坑	Q-51・52	不整形	すり鉢状	1.48	1.39	0.12	—	
1-D区	16号土坑	N-51	不整形	袋状	1.53	1	0.49	—	
1-D区	17号土坑	P-50	不整円形	箱形	1.83	1.64	0.33	—	
1-D区	18号土坑	M・N-50	円形	袋状	—	0.75	0.52	—	
1-E区	1号土坑	—	—	—	—	—	—	欠番	
1-E区	2号土坑	R-43	不整形	U字形	—	—	0.57	—	溝状遺構の中
1-E区	3号土坑	Q-42・43	不整形	不整形	1.37	(0.95)	0.3	(縄文中期か)	遺物少量
1-E区	4号土坑	P-44・45	不整形	不整形	1.3	1.03	0.18	(縄文前期か)	遺物少量
1-E区	5号土坑	P-45	不整円形	U字形	2.48	2.16	0.59	—	
1-E区	6号土坑	N-44・45	円形	U字形	1.1	1.02	0.42	—	
1-E区	7号土坑	M・N-44	不整形方	箱形	1.25	0.73	0.29	—	
1-E区	8号土坑	M-45	楕円形	箱形	1.54	1.23	0.44	—	
1-E区	9号土坑	N-46	不整形	不整形	1.53	1.15	0.34	—	
1-E区	10号土坑	N-46	円形	箱形	1.03	1.01	0.38	—	
1-E区	11号土坑	P-45	不整円形	U字形	1.37	1.05	0.44	—	
1-E区	12号土坑	O-45・46	楕円	U字	1.15	0.81	0.27	縄文中期	
1-E区	13号土坑	N・O-45・46	楕円	U字	1.02	0.83	0.1	—	
1-E区	集石土坑	N・O-46	不整	不整	1.2	0.71	0.11	縄文中期	
1-E区	1号ピット	P-42	楕円	V字	0.54	0.31	0.25	—	
1-F区	1号土坑	V-35	楕円	箱形	1.58	1.2	0.42	縄文・弥生	
1-F区	2号土坑	S-38	不整形	不整形	1.42	0.79	0.35	—	
1-F区	3号土坑	P-39	不整形	不整形	0.84	0.76	0.15	—	
1-F区	4号土坑	M・N-40	楕円形	不整形	1.64	0.98	0.47	—	
1-F区	5号土坑	L-40	円	箱	1.86	1.77	1.31	(縄文前期か)	遺物少量
1-F区	1号ピット	V-35	楕円	不整	0.36	0.32	0.17	縄文前期	

第2表 土器・土製品観察表

地名	遺跡番号	遺物番号	時代	種類	形状	口径・溝幅・高さ(cm)	底面・形態	断面・施文法	色調	地質	備考
I.D 1 ⑮	4.3	1 (II) 1-2+6-9 黒文	中期小窓	縁沿	(38.2) · · ·	口縁下: 内側外縁: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、キヤタビラ文・二角井字。	白色粒子を含む				
I.D 1 ⑯	4.3	2 (I) 289+200他	周文	中期小窓	(31.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、キヤタビラ文・二角井字。	白色粒子を含む				
I.D 1 ⑰	4.4	3 (II) 1±5-8 黒	周文	中期小窓	(38.8) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色粒子を含む				
I.D 1 ⑱	4.4	4 (I) 43-114	周文	中期小窓	(45.2) 17.5±14.0	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ⑲	4.4	5 (I) 234+235+4.9	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ⑳	4.5	6 (I) 1±1-3~6 黒	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉑	4.5	7 (I) 156+294	周文	中期小窓	(18.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉒	4.5	8 (I) 89±115 黒	周文	中期小窓	(27.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉓	4.5	9 (I) ±2.8	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉔	4.5	10 (I) 297	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉕	4.6	11 (I) 322+429	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉖	4.6	12 (I) 340+377	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉗	4.6	13 (I) 125+160+283	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉘	4.6	14 (I) 253+323+7 延文	中期小窓	縁沿	(27.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉙	4.6	15 (I) 224+279 延文	中期小窓	縁沿	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉚	4.6	16 (I) 6±8.9	周文	中期小窓	(38.0) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉛	4.6	17 (I) 339+435	周文	中期小窓	(38.0) 7.3±4.8	R.L. 施文法。口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	可溶性色				
I.D 1 ㉜	4.6	18 (I) 163+273+303 延文	中期小窓	縁沿	(—) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉝	4.7	19 (I) 110+266他	周文	中期小窓	(—) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉞	4.7	20 (I) 209+210+295 他	周文	中期小窓	(—) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉟	4.7	21 (I) 301+454	周文	中期小窓	(—) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㉟	4.7	22 (I) ±4	周文	中期小窓	(—) · · ·	口縁下: 斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㊀	4.7	23 (II) ±1-7	周文	中期小窓	(12.2) -- ±13.0	斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	可溶性色				
I.D 1 ㊁	4.8	24 (I) 10±17+60他	周文	中期小窓	(—) 16.0±11.5	斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㊂	4.8	25 (I) 39±121+122	周文	中期小窓	(—) -- ±17.4	斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㊃	4.8	26 (I) 441	周文	中期小窓	(—) -- ±19.6	斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㊄	4.8	27 (I) 329	周文	中期小窓	(—) -- ±18.0	斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	白色				
I.D 1 ㊅	4.8	28 (I) 4±4	周文	中期小窓	(—) -- ±6.0	斜面(内凹)、内側内縁: 扇形(外縁)、二角井字。	可溶性色				

学名	通称	固有名	固有番号	固有種	時代	地質	特徴	断面・実測・標高 (cm)		断面・実測	地質	地土	備考
								（）	（）				
I.D 1 (f)	48	29 1 (f) 300 地		中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	□断面 砂岩	R.L.断面観察。	中風化	
I.D 1 (f)	49	1 7 ± 2.4 ~ 10 ± 12°;	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	(46.1) · -	□断面 砂岩	□因に、半葉状帶は、因による節理が発達。口部は、(1)形と直線的で、(2)形と直角の節理が発達する。節理は、(1)形と直角の節理が発達する。(2)形と直角の節理が発達する。節理は、(1)形と直角の節理が発達する。(2)形と直角の節理が発達する。	中風化	中風化	白色・赤色粒子を含む
I.D 1 (f)	50	1 13 ± 5.8 ~ 23;	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	(46.1) · -	□断面 砂岩	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	中風化	白色粒子を含む
I.D 1 (f)	51	1 8 ± 6 ~ 13 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.D 1 (f)	52	2 8 ± 1 ~ 3 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.D 1 (f)	53	3 8 ± 5	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	1 1 (f) 8 ± 8 ~ 12 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	(10.0) · -	□断面 砂岩	口部に、半葉状帶は、(1)形と直角の節理が発達する。(2)形と直角の節理が発達する。(3)形と直角の節理が発達する。	中風化	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	2 1 (f) 214	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	3 1 (f) 157 ± 5 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	4 1 (f) 78 ± 106 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	(22.0) · -	□断面 砂岩	口部に、半葉状帶は、(1)形と直角の節理が発達する。(2)形と直角の節理が発達する。	中風化	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	5 1 (f) 24 ± 168; L	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	(24.0) · -	□断面 砂岩	口部に、半葉状帶は、(1)形と直角の節理が発達する。(2)形と直角の節理が発達する。	中風化	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	6 1 (f) 212	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	50	7 1 (f) 135 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	8 1 (f) 152; 4 ± 49 ± 21 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	(10.0) · -	□断面 砂岩	口部に、半葉状帶は、(1)形と直角の節理が発達する。(2)形と直角の節理が発達する。	中風化	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	9 1 (f) 5 ± 37 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	10 1 (f) 231; 8 ± 45 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	11 1 (f) 204	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	12 1 (f) 229	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	13 1 (f) 224	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	14 1 (f) 232	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	15 1 (f) 40; 43 ± 99 ± 203 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	16 1 (f) 40 ± 16 地	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	51	17 1 (f) 471	周文	中砂岩 泥岩	J3	中砂岩 泥岩	中砂岩 泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	52	1 1 布 7 地	分生	泥岩	J3	泥岩	泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	52	2 1 布 3 ~ 5	分生	泥岩	J3	泥岩	泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	52	3 2 布 4 ± 7	分生	泥岩	J3	泥岩	泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	52	4 3 ± 1	分生	泥岩	J3	泥岩	泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む
I.E 1 (f)	52	5 4 ± 1	分生	泥岩	J3	泥岩	泥岩	-7.2	-	側方断面	側方断面。	中風化	白色粒子を含む

警報・施設方法										備考	
地区	通路	回数	回数	回数	時代	時期	回数	口径(直径) × 厚さ(壁厚) [mm]	部位	色調	施土
1F 1室	1F 1室	12	52	1	12 ± 3 ± 10	他	文	中間中間 (深)	—	—	—
1F 1室	1F 1室	12	52	2	12 ± 28	文	中間中間 (深)	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	12	53	3	12 ± 5 ± 14 ± 19	他	文	中間中間 (深)	—	—	—
1F 1室	1F 1室	12	53	4	12 ± 34	文	中間中間 (深)	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	12	53	5	以降測定	文	中間中間 (深)	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	12	53	6	12 ± 33	文	中間中間 (高) (中間 (深))	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	1	10 ± 16 ± 17	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	2	11 ± 12, 14 ± 41	他	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	3	11 ± 14	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	4	11 ± 27 ± 76	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	5	11 ± 68	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	6	11 ± 141 ± 137	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	7	11 ± 134	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	54	8	11 ± 118	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	55	9	11 ± 10 ± 11 ± 14	文	前後中 平	深	(22.0) ± —	—	—	—
1F 1室	1F 1室	55	10	11 ± 12 ± 16	文	前後中 平	深	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	55	11	11 ± 15 ± 25	文	前後中 平	深	(19.0) ± —	—	—	—
1F 1室	1F 1室	55	12	11 ± 113	文	前後中 平	有孔 (深)	—	—	—	—
1F 1室	1F 1室	55	13	11 ± 107 ± 117	文	前後中 平	有孔 (深)	—	—	—	—
1F 2室	1F 1室	55	14	11 ± 31 ± 108	—	—	直・横	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	1	12 ± 246	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	2	12 ± 130 ± 144	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	3	12 ± 68 ± 95	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	4	12 ± 49 ± 105	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	5	12 ± 168	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	6	12 ± 103 ± 108	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—
1F 2室	1F 2室	56	8	12 ± 11 ± 2 ± 3	文	中間中間 (深)	—	—	—	—	—

階級	通称	固有番号	通記番号	時代	時期	特徴	口径・直径・深さ(cm)	断面・形状	色調	地土	備考
1.F	2.Ⅱ	57	9.2Ⅱb6	周文	中期小窓	直筒	32.0×—×—	口縁：4等分の小窓。一部は輪郭線で囲まれて小さな窓で、口内側に開口部の窓が斜めに2つ（その他の3つの方は直角の窓）を含み、窓の内側に窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	10.2Ⅱc5	周文	中期小窓	直筒	—×—×—	口縁：3等分の窓。窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	11.2.Ⅱb6b4	周文	中期小窓	直筒	—×—×—	口縁：3等分の窓。窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	12.2.Ⅱb6c6	周文	中期小窓	直筒	—×—×—	口縁：3等分の窓。窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	13.2.Ⅱb7c148	周文	中期小窓	直筒	—×—×—	口縁：3等分の窓。窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	14.2.Ⅱ.Ⅲ.1～710	周文	中期小窓	直筒	(37.8)15.7×(12.0)	口縁：直筒。底部：花瓶	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	15.2.Ⅱ.7	周文	中期小窓	直筒	—×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	2.Ⅱ	58	16.2.Ⅱ.211	周文	中期小窓	直筒	8.2×2.4×3.5	口縁：直筒。底部：花瓶	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	59	1.3.Ⅱ.2~6	外生	直筒	直筒	16.8×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	59	2.3.Ⅱ.3	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	59	3.3.Ⅱ.5	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	59	5.3.Ⅱ.1～4	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	59	2.5.±5	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	59	1.1/2c3	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。底部：花瓶下に内側に傾斜した窓枠（窓枠：キヤウタリカ）2つ、三角窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	1.北周 8	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	2.北周 10	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。2等分の窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	3.北周 1+12	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。2等分の窓。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	4.北周 28	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	5.北周 4	周文	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	6.北周 7	外生	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	7.北周 35	外生	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	8.北周 (10+1)+7他	外生	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	9.北周 4	外生	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色
1.F	3.Ⅰ	60	10.北周 3	外生	直筒	直筒	—×—×—	口縁：直筒。	青褐色	青褐色	青褐色

第3表 石器類別表

地区	遺跡・層位	番号	時代	特徴	断面	断面%	断面%	石材	厚さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	重量 g	所見
1-E区 1号日向99 2号日向99	61	1	绳文	小形手斧	石凿	105	51.9	磨頭石	21.6	15.3	3.6	0.5	磨入部
1-F区 2号日向99	61	2	绳文	小形手斧	石凿	110	53.3	磨頭石	18.7	12.7	3.4	0.4	磨入部
1-E区 2号日向99	61	3	绳文	小形手斧	石凿	115	53.4	磨頭石	16.9	12.2	3.2	0.4	磨入部
1-E区 2号日向99	61	4	绳文	小形手斧	石凿	145	52.5	磨頭石	16.9	17.4	3.7	0.4	磨入部
1-F区 2号日向99	61	5	绳文	小形手斧	石凿	145	52.9	磨頭石	12.9	11.8	3.6	0.4	木柵・磨入部
1-F区 1号土坑	61	6	绳文?	—	石凿	1	53.7	磨頭石	24.9	18.7	3.8	0.9	木柵・磨入部
1-D区 1号日向99	61	7	绳文	小形手斧	石凿	175	51.0	磨頭石	47.6	38.0	9.1	35.6	木柵
1-D区 1号日向99	61	8	绳文	小形手斧	石凿	205	5.6	磨頭石	50.6	45.5	0.8	28.2	木柵
1-E区 1号日向99	61	9	绳文	小形手斧	石凿	216	51.5	磨頭石	77.8	97.0	11.9	64.4	木柵
1-D区 1号日向99	61	10	绳文	小形手斧	石凿	51	5.4	木柵・磨入部	53.3	53.3	13.2	47.9	木柵
1-E区 1号日向99	61	11	绳文	前削水平	刀削	148	52.4	木柵・磨入部	97.0	52.5	11.6	68.0	木柵
1-D区 1号日向99	61	12	绳文	小形手斧	刀削	66	5.7	磨頭石	60.2	98.1	13.9	41.5	木柵・木柵
1-D区 1号日向99	61	13	绳文	小形手斧	刀削石斧	86	5.5	木柵・磨入部	94.9	47.4	20.7	102.4	木柵
1-D区 1号日向99	62	14	绳文	小形手斧	刀削石斧	87	5.2	木柵・磨入部	103.8	45.4	17.4	99.1	木柵
1-D区 1号日向99	62	15	绳文	小形手斧	刀削石斧	141	5.9	木柵・磨入部	101.1	54.6	20.0	123.9	木柵・木柵
1-D区 1号日向99	62	16	绳文	小形手斧	刀削石斧	159	52.4	木柵・磨入部	62.4	46.3	13.0	56.5	木柵
1-D区 1号日向99	62	17	绳文	小形手斧	刀削石斧	142	—	木柵・磨入部	61.5	49.3	12.4	38.5	木柵
1-D区 1号土坑・廻割付1	62	18	绳文	小形手斧	刀削石斧	95	—	木柵・磨入部	100.7	45.1	16.2	90.3	木柵
1-D区 1号日向99	62	19	绳文	小形手斧	刀削石斧	145	—	木柵・磨入部	78.8	38.8	12.6	42.8	木柵
1-E区 1号日向99	62	20	绳文	小形手斧	刀削石斧	221	51.4	木柵・磨入部	119.5	45.0	24.2	153.9	木柵・木柵
1-E区 J-4ダリヤリ	62	21	绳文	小形手斧	刀削石斧	1	52.3	磨頭石	97.6	44.3	13.8	65.8	木柵・木柵
1-F区 2号日向99	62	22	绳文	小形手斧	刀削石斧	92	52.8	木柵・磨入部	108.7	46.6	21.9	125.1	木柵
1-F区 2号日向99	62	23	绳文	小形手斧	刀削石斧	93	53.1	磨頭石	99.6	45.0	25.5	114.2	木柵
1-E区 1号日向99	62	24	绳文	小形手斧	刀削石斧	117	53.2	木柵・磨入部	105.1	45.2	10.7	44.6	木柵
1-F区 2号日向99	62	25	绳文	小形手斧	刀削石斧	161	52.9	木柵・磨入部	103.1	47.6	16.8	88.8	木柵
1-E区 2号日向99	62	26	绳文	小形手斧	刀削石斧	174	52.6	木柵・磨入部	91.2	48.0	16.7	75.7	木柵
1-E区 2号日向99	62	27	绳文	小形手斧	刀削石斧	185	52.7	木柵・磨入部	95.3	49.2	19.2	95.8	木柵
1-E区 2号日向99	62	28	绳文	小形手斧	刀削石斧	5	52.5	木柵・磨入部	90.8	96.2	19.0	72.8	木柵・木柵
1-E区 1号日向99	63	29	绳文	中形手斧	磨頭石	103	51.3	木柵・磨頭石	116.0	47.0	24.0	237.0	木柵・木柵
1-E区 1号日向99	63	30	绳文	中形手斧	磨頭石	3	51.7	磨頭石	117.0	36.0	26.0	179.0	木柵・木柵
1-F区 2号日向99	63	31	绳文	中形手斧	磨頭石	51.1	SND	木柵・磨頭石	121.0	57.0	40.0	496.0	木柵・木柵
1-D区 1号日向99	64	32	绳文	中形手斧	クサミ石	—	S11	木柵・磨入部	116.0	74.0	36.0	515.0	木柵
1-E区 1号日向99	64	33	绳文	中形手斧	クサミ石	219	S21	木柵・磨入部	105.0	54.0	43.0	497.0	木柵
1-D区 1号日向99	65	34.1	绳文	中形手斧	石削石	—	磨頭石	218.0	135.5	85.0	—	木柵	
1-D区 1号日向99	65	34.2	绳文	中形手斧	石削石	—	磨頭石	192.5	140.0	104.0	—	木柵	
1-D区 1号日向99	65	35	绳文	中形手斧	石削石	—	磨頭石	364.0	159.0	160.5	—	木柵	

第4章 自然化学分析

本調査において検出した炭化材や土器付着物などの資料について、各種の自然化学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その結果は「パリノ・サーヴェイ株式会社 2009『竜安寺川西遺跡発掘調査にかかる炭素14年代測定業務委託報告』」、「パリノ・サーヴェイ株式会社 2010『竜安寺川西遺跡整理作業にかかる自然化学分析業務委託報告』」として報告されている。以下は、その一部を抜粋し掲載した。

1. 炭素14年代測定

(試料：1-B区集石土坑検出炭化材、1-F区3号住居跡検出炭化材、1-F区1号竪穴状遺構検出炭化材)

同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は、1-B区集石土坑炭化材は $4,960 \pm 25$ yrBP、1-F区3号住居跡炭化材は $1,965 \pm 25$ yrBP、1-F区1号竪穴状遺構炭化材は $2,005 \pm 25$ yrBPを示した。また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果(σ)は、1-B区集石土坑 炭化材は calBP5,717-5,653、1-F区3号住居跡 炭化材は caAD5-caAD65、1-F区1号竪穴状遺構炭化材は calBC39-caAD20であった(第4表)。以上の結果を参考とすると、集石土坑は縄文時代前期後葉頃(小林,2008)、1-F区3号住居跡は1世紀前~中頃、1-F区1号竪穴状遺構は紀元前後1世紀頃の暦年代が推定される。

また、上記した3試料の炭化材の樹種同定の結果、1-B区集石土坑炭化材と1-F区1号竪穴状遺構炭化材がクリ(Castanea crenata Sieb. et Zucc.)、1-F区3号住居跡炭化材がコナラ属コナラ亜属コナラ節(Quercus subgen. Quercus sect. Prinus)であった。このうち、1-B区集石土坑および3号住居跡の炭化材は出土状況等から燃料材等としての利用の可能性がある。

以上、「パリノ・サーヴェイ株式会社 2009『竜安寺川西遺跡発掘調査にかかる炭素14年代測定業務委託報告』」より一部掲載。なお、表番号は本報告書に対応するよう修正した。

2. 土器付着白色物質のX線回折分析およびフーリエ変換赤外分光分析

(試料：1-F区2号住居跡出土ミニチュア土器)

白色物質には、X線回折分析によってモンモリロナイトおよび石英、斜長石が含まれることが確認された。また、赤外分光分析ではモンモリロナイトと酷似した吸収特性が認められた。これらのことから、白色物質はモンモリロナイトを中心とした構成粘土鉱物とする粘土と考えられる。

3. 微細物分析

(試料：1-F区5号土坑覆土)

1-F区5号土坑覆土試料からは、同定可能な種実は検出されず、炭化材および不明炭化物(木材組織が確認されない種類・部位ともに不明の炭化物)が検出された。なお、炭化材および不明炭化物の検出量は各試料ともに乾燥重量1gに満たないことから、覆土中には炭化物などを含む微細植物片の混入が少なかったことが看取される。

4. 樹種同定

(試料：1-E区1号住居跡検出炭化材、1-F区2号住居跡検出炭化材、1-F区2号竪穴状遺構検出炭化材)

結果を第5表に示す。

縄文時代前期末の土器片が出土した竪穴状遺構および縄文時代中期中葉の竪穴住居跡から出土した炭化材は、落葉広葉樹のクヌギ節とクリであった。クヌギ節にはクヌギとアベマキがあるが、現在の山梨県内ではクヌギが一般的であり、アベマキは分布していないことから、今回の試料もクヌギの可能性がある。クヌギは、エノキ等

と共に河畔林を構成し、木材は重硬で強度が高い材質を有する。一方、クリは、二次林などに普通に見られる落葉高木で、木材は重硬で強度・耐朽性が高い材質を有する。

各炭化材の出土状況をみると、1-E 区 1 号住居跡の炭化材（試料 No.1）は柱穴覆土中から、1-F 区 2 号住居跡の炭化材（試料 No.2）は埋甕炉付近から出土している。また、1-F 区 2 号竪穴状遺構の炭化材 2 点（試料 No.3, 4）は、床面直上より木材の原型を留めた状態で出土している。今回の分析結果から、燃料材にはクリが、部材などとしてクヌギ節が利用されていたことが推定される。

なお、本遺跡で実施した放射性炭素年代測定対象とされた炭化材の樹種同定結果（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2009MS）によれば、1-B 区 集石土坑出土炭化材（ $4,960 \pm 25$ 25yrBP）がクリに同定されている。また、本遺跡周辺では、西田町遺跡（旧一宮町）の集石炉よりクヌギ節の炭化材が確認されている（植田, 1997a）。これらの結果からも、クリが燃料材として利用されていたことが窺われる。

一方、構築部材については、本遺跡周辺では事例が少なく、山梨県内では岐北地域で竪穴住居跡出土炭化材の調査成果が多く得られている。これらの結果をみると、上北田遺跡（旧白州町）の縄文時代前期資料にクリやクサギ、タケア科が確認されているほか、社口遺跡・海道前 C 遺跡（旧高根町）や酒呑場遺跡・原町農業高校遺跡（旧長坂町）などの縄文時代中期の資料、宿尻遺跡（韮崎市）や上ノ原遺跡（旧須玉町）の縄文時代後期の資料にはクリまたはクリを主体とする組成が確認されており（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 2000, 2002, 2003, 2005; 植田, 1997b; 藤根, 1999）、当該地域では縄文時代前～後期に至るまで竪穴住居跡の構築材としてクリ材が多く利用される傾向が看取される。また、岐北地域ではクヌギ節が構築材の主体となる傾向は確認されていないことから、今回の分析結果が木材利用の用途の違い、あるいは、地域性を反映した結果であるかについては、今後さらに資料を蓄積して検討する必要がある。

以上、「パリノ・サーヴェイ株式会社 2010『竜安寺川西遺跡整理作業にかかる自然化学分析業務委託報告』より一部掲載。表番号は、本報告書に対応するよう修正した。

表 4. 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	補正年代 (yrBP)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	較正年代 (cal)							相対比	Code No.	
				σ	cal BC	3,768	-	cal BC	3,704	cal BP	5,717		
1-B 区 集石土坑 炭化材（クリ）	$4,960 \pm 25$	$4,959 \pm 27$	-24.69 ± 0.11	σ	cal BC	3,790	-	cal BC	3,691	cal BP	5,739	-	5,640 0.901
				2 σ	cal BC	3,687	-	cal BC	3,661	cal BP	5,636	-	5,610 0.999
1-F 区 3 号住居跡 炭化材（コナラ節）	$1,965 \pm 25$	$1,967 \pm 24$	-24.53 ± 0.12	σ	cal AD	5	-	cal AD	11	cal BP	1,945	-	1,939 0.985
				2 σ	cal AD	17	-	cal AD	65	cal BP	1,933	-	1,885 0.915
1-F 区 1 号竪穴状遺構 炭化材（クリ）	$2,005 \pm 25$	$2,005 \pm 24$	-24.79 ± 0.13	σ	cal BC	39	-	cal AD	20	cal BP	1,988	-	1,930 1.000
				2 σ	cal BC	50	-	cal AD	57	cal BP	1,999	-	1,893 1.000

表 5. 樹種同定結果

試料 No.	地区	遺構	位置	樹種
1	1-E 区	1 号住居跡	柱穴内	クリ
2	1-F 区	2 号住居跡	埋甕炉付近	クリ
3	1-F 区	2 号竪穴状遺構	南東壁際 床面直上	コナラ属コナラ垂属クヌギ節
4	1-F 区	2 号竪穴状遺構	北東壁際 床面直上	コナラ属コナラ垂属クヌギ節

第5章 総括

竜安寺川西遺跡からは、時期の特定できる遺構として、縄文時代前期後半の住居跡1軒、土坑2基、ピット1基、縄文時代中期中葉の住居跡3軒、土坑1基、弥生時代後期の住居跡1軒を発見した。また、形状が不明であったり、遺物が少ないなどの理由により断定することはできないが、推定の範囲において時期を見出せる遺構として、集石土坑2基（縄文時代前期～中期か）、堅穴状遺構5基、周溝1基（弥生時代後期か）などを検出している。本章では、これらの遺構・遺物や周辺の遺跡分布を基に竜安寺川西遺跡の状況を概観する。

1. 縄文時代前期後半

縄文時代前期後半の遺構は、1-D区7・8号土坑と1-F区の1号住居跡・1号ピットである。いずれも諸磯式期の土器が出土しているが、1号住居跡と1号ピットは諸磯b3段階、8号土坑は諸磯b3新段階、7号土坑は諸磯c1段階に当たる。1-F区1号住居跡からは諸磯b3・b3新・c2段階の土器が出土しているが、最も古いb3段階の住居跡と考えられ、同段階の土器も他の段階に比べて多く見られる。住居内からは住居廃絶後に掘られたと考えられる土坑が1基検出されているが、この土坑の存在が新段階の土器が出土することに関連するのではないかと考えられる。1-F区1号ピットは1-F区の北東端V-35グリッドから検出されている。調査区の境界に近く、攪乱が多い地点ということも影響しているかもしれないが、周囲にピットは見られず、1基単独で検出された。1号ピットから10cmほど東側の石礫が1点出土した1-F区1号土坑に関連する遺構である可能性も考えられる。1-D区7・8号土坑は1-D区の同一グリッドから検出されており、両者の距離は50cmほどである。非常に近い位置にある二つの土坑であるが、8号土坑のほうが1段階古い時期に比定される。出土遺物からどちらも土坑墓であると考えられる。1基ずつではあるが、同一地点に1段階ずれた時期の土坑墓が存在することから、土坑周辺が一定の期間にわたって墓域として認識されていたのではないかと考えられる。

周辺の遺跡では、西側の孤川を挟んだ一の沢遺跡や京原遺跡、さらに御坂山脈の北側山麓の寺平遺跡などで諸磯式期の住居跡が確認されている。いずれも軒数は少なく、本遺跡周辺を含め孤川扇状地一帯の該期においては、小規模な集落が点在していた状況が推測される。

2. 縄文時代中期中葉

縄文時代中期中葉の遺構は、1-D区1号住居跡、1-E区1号住居跡・12号土坑、1-F区2号住居跡である。いずれも新道式期の遺物が出土しており、各遺構はほぼ同一時期に存在したと考えられる。1-D区1号住居跡と1-E区1号住居跡の土器には、・深鉢形土器の重三角区画の中に三叉文が見られる・三角押文が三角形押圧に変化し、間隔が広くなる・胴部の底部に近い部分に楕円区画横帶文が見られるなど、1-F区2号住居跡に比べやや新しい段階（新道2段階）の特徴を持った土器が多く見られる。これは、1-D区1号住居跡では住居内に住居廃絶後に掘られたと考えられる土坑が存在し、1-E区1号住居跡では住居廃絶後に祭祀行為が行われたことが想定される礫や遺物の出土状況が見られるなど、住居跡の2次利用によって新しい段階の遺物が含まれるためにと考えられる。これに対し、1-F区2号住居跡では、東側の壁付近に住居廃絶後の土坑が検出されたもの、住居中央に埋葬炉が残るなど、住居として使用されていた状態を比較的良好に留めているものと考えられる。3軒の住居跡は15～25mの間隔をおいて弧状に配置されており、同時期に営まれた小規模な集落と考えられる。また、土坑墓と考えられる1-E区12号土坑からは、1-E区1号住居跡の礫周辺出土土器と同一個体になると考えられる土器片（1住2、12号土2）が出土していることから、12号土坑は住居内土坑や祭祀行為など住居跡の2次利用と同じ時期の遺構と考えられ、住居跡よりもやや新しい時期に比定される。

周辺の遺跡では、新道式期の遺構が発見された例は少なく、一の沢遺跡において1軒検出されているのみである。一の沢遺跡では、その後の井戸尻式期後半から曾利櫛式期かけて住居跡が急激に増加し、継続的に集落が営まれるようになる。

3・弥生時代後期

弥生時代後期の遺構は、1-F区3号住居跡、1-E区1・2号竪穴状遺構である。どの遺構も遺物が非常に少ないが、中部高地型の櫛描文系土器群に含まれる土器が出土している。1-F区3号住居跡からは、口縁部が内湾し、口縁部と頸部に櫛描波状文が施される壺形土器の上半部のみの出土であるが、住居跡の床面から検出した炭化材の年代測定においても弥生時代を支持する結果($1,965 \pm 25$ yrBP)が出ている。1-F区3号住居跡は、北西側が調査区の境界に接し、北東側を搅乱によって失っているため、全体の形状は不明であるが、遺構確認面から床面までの深さが48cmある掘り込みのしっかりした小判形もしくは隅丸方形・長方形の竪穴住居になると考えられる。北西側の調査区外側は土地の区画によってコンクリート壁が設けられ、1m以上低く削られているため、3号住居跡の未検出部分はもちろんのこと、周辺に遺構が存在したとしても消失してしまっていると考えられる。1-E区1・2号竪穴状遺構も調査区の境界や搅乱によって、全体の形状がわからず、遺物も1点ずつ出土しているのみである。この他に、遺物は出土していないが、炉と考えられる施設を持つ1-F区1号竪穴状遺構では、炉の周辺から検出した炭化材の年代測定によってやはり弥生時代に相当する結果($2,005 \pm 25$ yrBP)が出ている。1-E区1・2号竪穴状遺構と1-F区1～3号竪穴状遺構には、竪穴の深さ(10～20cmほどで浅い)や覆土(シルト質でしまりが弱い)などに共通点が見られ、同時期の遺構である可能性が高いと考えられる。また、1-F区1・3号竪穴状遺構からは炉が検出されていることから、住居跡として考える方が妥当であろう。他の竪穴状遺構についても遺構全体の状況は不明であり、住居跡であった可能性は十分あると考えられる。これら竪穴状遺構と1-F区3号住居跡では、竪穴の深さや覆土が明確に異なり、竪穴状遺構の中に住居跡が含まれていると考えると、弥生時代後期の中にあって、2つの異なる時期に住居跡が営まれていたと推定され、年代測定の結果を基にすると、竪穴状遺構の方がやや古い時期に使用された遺構ということになる。1-F区3号住居跡は単独で存在しているため、集落の中における位置は不明であるが、竪穴状遺構を住居跡と考えた場合、1区の北～北東側を中心とした集落の存在が想定できる。

周辺の遺跡では、孤川対岸の立石北遺跡で弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の住居跡1軒と掘立柱建物跡が確認され、立石北遺跡の北側にある西原遺跡では方形周溝墓群が確認されるなど、孤川左岸の扇状地上において弥生時代の遺構がいくつか見られる。また、竜安寺川右岸の竜安寺山山上の上の平遺跡では、弥生時代後期の住居跡が7軒確認されているが、いずれの遺跡とも距離・地形的にやや隔たりがあり、それぞれが異なる単位の集落であったと考えられる。

4. 1-F区検出の周溝について

1-F区北東端部から円形になると想定される周溝を検出した。形状からは、弥生時代後期～古墳時代前期の円形周溝墓や古墳時代後期の円墳ではないかと考えられるが、埋葬主体部にあたる周溝の内側は耕作によって削平されている。遺跡の周辺では、孤川左岸で多くの円墳の存在が確認されており、同じく孤川左岸の扇状地扇端部にある西原遺跡からは方形周溝墓群が確認されている。しかし、孤川右岸から竜安寺川にかけての緩斜面上においては、古墳などの存在は確認されておらず、分布の状況は不明である。周溝を検出した調査区北東端の土地の区画がやや不自然に膨らむなど、墳丘の存在を窺わせる周囲の状況も見られるが、古墳時代の遺物が皆無であり、周溝内から少量ではあるが弥生時代後期の土器片が出土したことや、周溝と竪穴状遺構の覆土が類似していることなどから、現段階においては、弥生時代後期の円形周溝墓としておきたい。

参考文献

- ・今福利恵 1992『縄文時代の編年』『山梨県史』資料編2原始・古代2 山梨県
- ・奥山和久 他 1985『上の平遺跡』八代町教育委員会
- ・櫛原功一 1992『縄文時代の住居と集落』『山梨県史』資料編2・古代2 山梨県
- ・中山誠二 1992『弥生時代の編年』『弥生時代の住居と集落』『弥生時代の信仰と葬制』『山梨県史』資料編2 原始・古代2 山梨県
- ・野崎進 1999『一の沢遺跡(10次)』境川村埋蔵文化財調査報告書第16集 境川村教育委員会
- ・林部光 1994『仲原遺跡・真福寺遺跡』境川村教育委員会

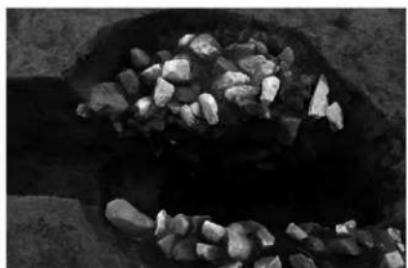
写 真 図 版



1-B区1~3号土坑



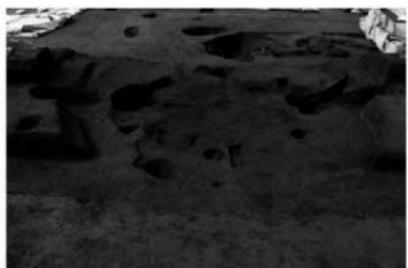
1-B区集石土坑（検出面）



1-B区集石土坑（断面）



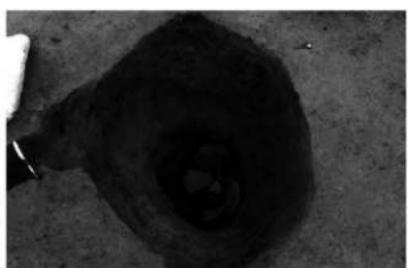
1-C区1号土坑



1-D区1号住居跡



1-D区1号住居跡炉



1-D区1号住居跡内1号土坑



1-D区1号住居跡内2号土坑

写真図版 2



1-D区1号住居跡内3号土坑



1-D区7号土坑



1-D区7・8号土坑（左が7号土坑）



1-E区1号住居跡



1-E区1号住居跡内 瓦



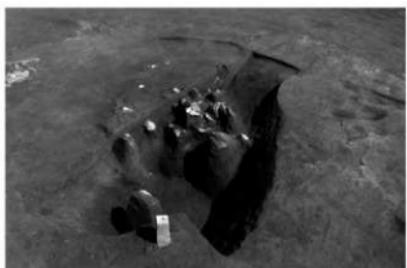
1-E区1号住居跡 調査風景



1-E区1号竪穴状遺構



1-E区2号竪穴状遺構



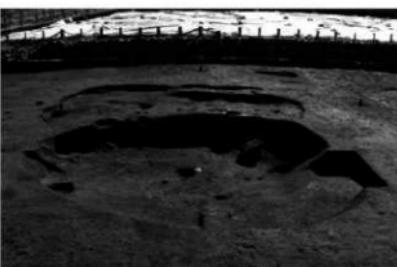
1-E区 12・13号土坑（右が12号土坑）



1-E区集石土坑



1-E区溝状遺構



1-F区1号住居跡



1-F区2号住居跡



1-F区2号住居跡 埋甕炉



1-F区2号住居跡内 土坑



1-F区2号住居跡 調査風景

写真図版 4



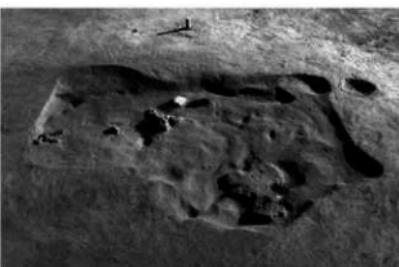
1-F区3号住居跡



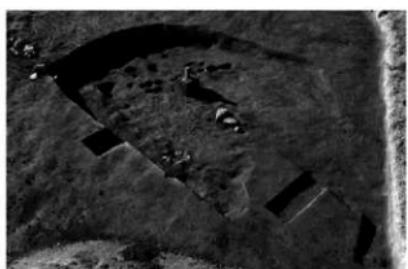
1-F区3号住居跡 遺物出土状況



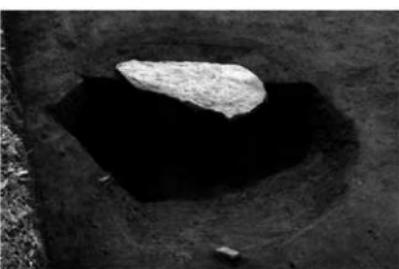
1-F区1号竪穴状遺構



1-F区2号竪穴状遺構



1-F区3号竪穴状遺構



1-F区1号土坑



1-F区1号ピット



1-F区周溝



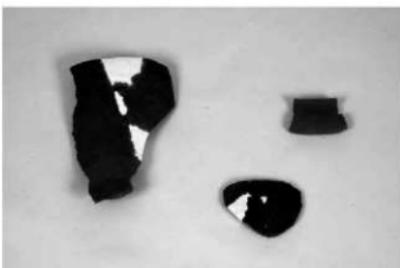
1-D区1号住居跡出土遺物



1-D区1号住居跡出土遺物 (No.3)



1-D区7号土坑出土遺物



1-D区8号土坑出土遺物



1-E区1号住居跡出土遺物



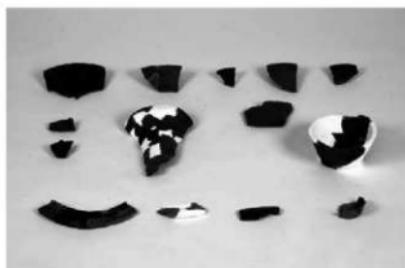
1-E区1号住居跡出土遺物 (左からNo.6・7)



1-E区1・2号竪穴状造構、3・4号土坑出土遺物



1-E区12号土坑出土遺物



1-F区 1号住居跡出土遺物



1-F区 2号住居跡出土遺物



1-F区 2号住居跡出土遺物（右からNo.9・10）



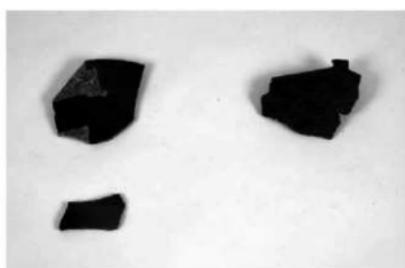
1-F区 2号住居跡出土遺物（No.16）



1-F区 2号住居跡出土遺物（No.16）



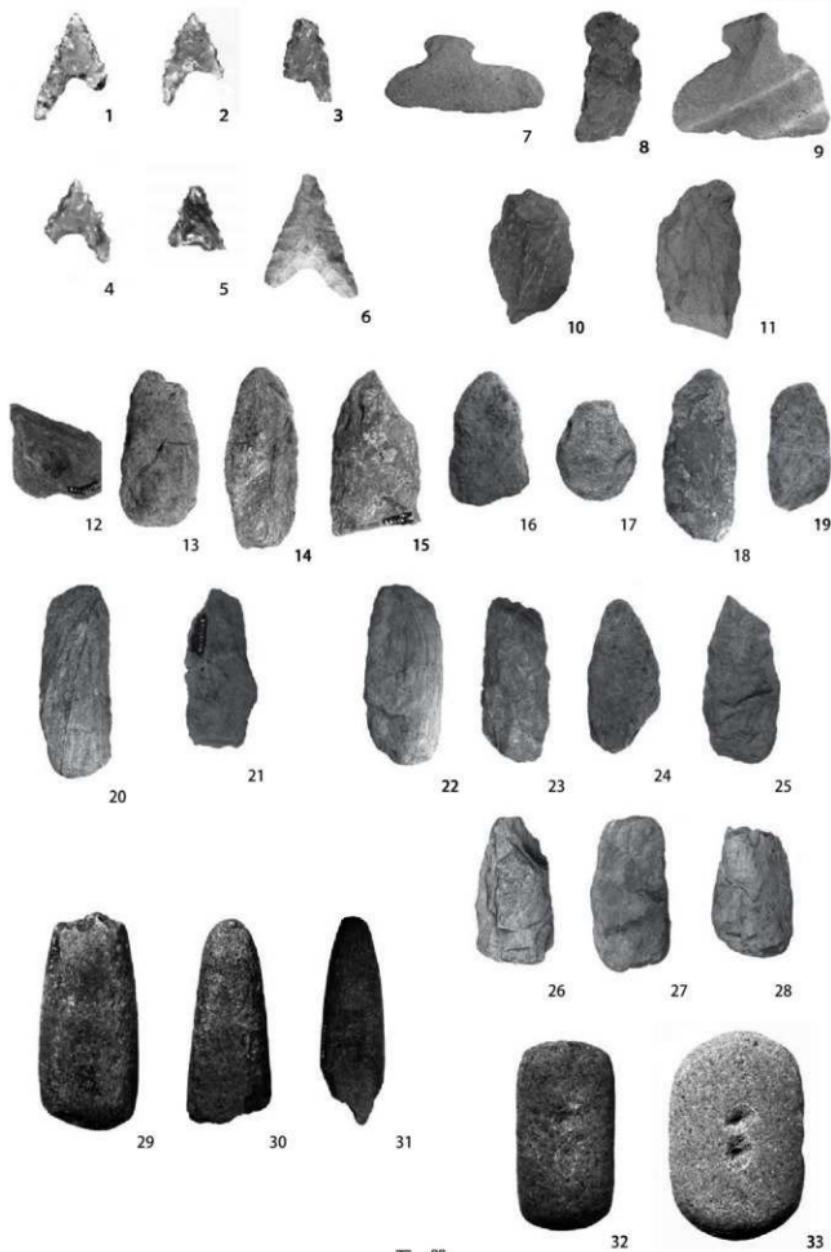
1-F区 3号住居跡出土遺物



1-F区 5号土坑・1号ピット出土遺物



1-F区周溝出土遺物



報告書抄録

ふりがな	りゅうあんじがわにしいせき								
書名	竜安寺川西遺跡								
圖書名	山梨リニア実験線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書								
シリーズ番号	第 271 集								
編著者名	依田幸也、パリメ・サーヴェイ株式会社								
監査機関	山梨県埋蔵文化財センター								
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL055-266-3016								
刊行者	山梨県教育委員会、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構								
刊行年月日	2011 年 2 月 25 日								
ふりがな	りゅうあんじがわにしいせき								
所収遺跡名	所在地	コード	北緯(新)	東經(新)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因		
りゅうあんじがわにしいせき 竜安寺川西遺跡	やまなしけんふるふきし さかいがわちょうまえまだ 山梨県笛吹市境川町前田地内	市町村 境川	19211	境川8	35° 35° 59°	138° 12° 15°	20090613 ~ 20091202	9.120	山梨リニア実験線建設工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項					
集落跡	縄文時代前期	縫穴住居跡1軒 土坑2基 ピット1基	縄文土器、石器	縫穴住居跡および土坑から縄文式期の土器が出土					
集落跡	縄文時代中期	縫穴住居跡3軒 土坑1基	縄文土器、石器	縫穴住居跡および土坑から新道式期の土器が出土					
集落跡	弥生時代後期	縫穴住居跡1軒 縫穴状遺構5基 円形廐室1基 溝状遺跡1条	弥生土器	炭素 14 年代測定により、紀元前後 1 世紀との分析結果					
	時期不明	縫穴状遺構2基 土坑41基 集石土坑2基 (縄文時代前期～中期) ピット1基 溝状遺跡1条							
要約	竜安寺川西遺跡は山梨県笛吹市境川町に存在する遺跡で、発掘調査の結果、縄文時代前期後半（諸葛式期）の縫穴住居跡、土坑、集石土坑、縄文時代中期中葉（新道式期）の縫穴住居跡、土坑、弥生時代後期の縫穴住居跡、縫穴状遺構などが発見された。縄文時代中期中葉の縫穴住居では、土坑墓や祭祀遺道など往古廃絶後の跡地利用の痕跡が見られる。弥生時代後期の縫穴住居跡と縫穴状遺構では、遺構内から検出した炭化物による年代測定により、紀元前後 1 世紀ごとの分析結果が出た。								

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 271 集

竜安寺川西遺跡

山梨リニア実験線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷日 2011 年（平成 23 年 2 月 21 日）

発行日 2011 年（平成 23 年 2 月 25 日）

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町 923

TEL 055-266-3016

発行 山梨県教育委員会

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

印刷 株式会社 峠南堂印刷所